

POS データによる米の価格・販売等の動向

2016 年度版 年報

(RP Yearbook)

—Retail Price of rice Yearbook 2016—

2018 年 2 月 28 日

公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構 情報部

はじめに

当機構では、精米及びパン、麺類などの小麦製品や米加工品等について、2013 年度（平成 25 年度）4 月分から POS データを入手し、加工・編集のうえ「RP Weekly（週間の精米の販売価格・数量の動向。登録者へのメール配信）」、「RP Monthly（月間の精米の販売価格・数量の動向。当機構ホームページで公表）」、「RP Quarterly（四半期毎の小麦製品、もち等の販売価格等の動向。当機構ホームページで公表）」、「RP Yearbook（周辺事情も含む、各年度の概要等）」として公表等を行ってきたところです。

今般、2016 年度の精米及びパン、麺類などの小麦製品や米加工品等の動向等について取り纏めを行い、年報を作成致しました。既に公表しております 2013～2015 年度版と併せご活用ください。

【留意事項】

1. 本資料は、公益財団法人流通経済研究所が保有する日本国内の特定の量販店等の POS データのほか、公表されている資料等に基づき作成したものあり、日本国内のすべての小売業者、卸売業者等への調査に基づく統計ではありません。
2. 掲載している価格等につきましては、日本国内のすべての小売店、卸売業者等の販売価格、取引価格等を代表するものではありません。
3. POS データは過去に遡ってデータの更新が行われるため、年度間の連続性、同等性等が保てない場合があります。
4. 四捨五入により、計が合わないことがあります。
5. 本文及び図表中の価格は、特に付記がない場合、2016 年度版から消費税等込み価格で表しています。

目 次

第1. 米を巡る周辺事情	1	第3. 米代替食品、米加工品等の動向	30
1. 食料消費の動向	1	1. パン類	30
2. 米を巡る施策等の動向	2	(1) 販売動向	30
		(2) ブロックの動向	30
第2. 精米の価格、販売等の動向	4	2. 麺類	31
1. 月次の価格と販売数量の動向	4	(1) 販売動向	31
(1) 1kg当たり販売価格の推移	4	ア. 販売金額PI値	31
(2) 販売数量PI値の推移	4	イ. 販売数量PI値	31
2. 全体及びブロック別の価格と販売数量等の動向	5	(2) ブロックの動向	31
(1) 全体の動向	5	3. 加工米飯(冷凍米飯、パックご飯)	32
ア. 販売価格の動向	5	(1) 販売動向	32
(ア) 1kg当たり販売価格	5	(2) ブロックの動向	32
(イ) 5kg袋(慣行栽培)の販売価格	6	4. 包装もち、もち米	33
(ウ) 主要産地銘柄の平均価格と販売割合	7	(1) 販売動向	33
イ. 販売数量の動向	8	(2) ブロックの動向	33
(ア) 販売数量PI値	8	第4. 米に関する年表	35
(イ) 主要5銘柄の販売数量PI値	9	資料	39
(ウ) 作付比率上位5品種の販売数量の順位	10		
ウ. 包装容量別販売割合の動向	11		
(ア) 年度平均の動向	11		
(イ) 月別の動向	11		
(2) ブロックの動向	12		
ア. ブロック別の販売価格の動向	12		
(ア) 1kg当たり販売価格	12		
(イ) 5kg袋(慣行栽培)の販売価格	13		
【コラム】精米の販売価格と相対取引価格	14		
イ. ブロック別の主要産地銘柄の販売割合と平均価格の動向	15		
(ア) 北海道ブロック	15		
(イ) 東北ブロック	16		
(ウ) 関東ブロック	17		
(エ) 京浜ブロック	18		
(オ) 北陸ブロック	19		
(カ) 東海ブロック	20		
(キ) 近畿ブロック	21		
(ク) 中国四国ブロック	22		
(キ) 九州ブロック	23		
ウ. ブロック別の販売数量PI値の動向	24		
エ. ブロック別の作付比率上位5品種の販売数量の順位	25		
オ. ブロック別の包装容量別販売割合の動向	27		
(ア) 年度平均の動向	27		
(イ) 1kg当たり販売価格(年度平均)との関係	27		
(ウ) 1kg当たり販売価格(月次平均)との関係	27		

第1. 米を巡る周辺事情

1. 食料消費の動向

2016年度の日本の経済は、緩やかな景気回復が引き続きいていた。実質GDPは2年連続で前年を上回るなど、主な経済指標が景気の回復基調を示していた。一方、家計消費については実質賃金の微増などによる可処分所得の増加はあったものの、4月に発生した熊本地震や相次いだ台風の上陸などによる天候不順の影響、非正規雇用の拡大による将来の所得不安に由来する節約志向の高まりなどもあり、GDPに占める家計消費比率の低下が進むなど、力強さを欠いていた。

家計消費に同調するように食料消費にも低迷がみられた。天候不良などによる生鮮食品の値上がりに伴う買い控えなどの影響もあり、食料消費支出額は、名目では前年度並みの水準であったものの、実質では全世帯で前年度比1.5%の減少、勤労者世帯で2.1%の減少となっていた。

実質食料消費支出の内訳を全世帯でみると、主食的食料では米（▲3.6%）と同程度にパン（▲3.5%）、麺（▲3.1%）も減少していた。減少は魚、肉、野菜といった副食的食料にまで及んでいる。また勤労者世帯においても同様の傾向がみられていた。

一方で、女性の社会進出や単身世帯の増加などに伴う調理時間の短縮志向もあり、食料消費支出のなかでも調理食品への支出は引き続き増加している。

なおインターネットと情報端末の普及や習い事の低年齢化、将来への備えなどにより、通信費、教育費、預貯金への支出は確実に増加していることから、可処分所得の増加分は食料消費には向かわず、これら支出に振り向けられていると考えられる。

消費及び各種経済指標の推移									
年度	2014年(平成26年)			2015年(平成27年)			2016年(平成28年)		
	単位	対前年比(%)	対前年比(%)	単位	対前年比(%)	対前年比(%)	単位	対前年比(%)	対前年比(%)
1. 可処分所得(円/世帯/月)	424,787	▲0.4	428,351	0.4	429,251	0.7	428,251	0.7	1.0
2. 消費支出	288,188	▲1.8	285,588	▲0.9	281,038	▲1.6	281,038	▲1.6	▲2.5
3. 食料消費支出	70,854	1.3	72,565	3.8	72,507	▲0.1	72,507	▲0.1	3.5
米	1,965	▲1.42	1,843	▲6.2	1,854	0.6	1,854	0.0	▲2.7
	パン	2,433	6.6	2,526	3.8	2,460	▲2.7	2,460	▲1.1
	麺類	1,321	▲0.7	1,397	5.8	1,350	▲3.4	1,350	2.2
	主食的調理食品	3,633	2.5	3,835	5.6	3,939	2.7	3,939	8.4
	一般食	10,889	▲0.4	11,231	3.0	10,957	▲2.4	10,957	0.5
4. エンゲル係数	22.7	3.2	23.9	5.3	25.8	7.9	25.8	7.9	13.7
5. 実質賃金指数	100.3	▲2.9	100.2	▲0.1	100.6	0.4	100.6	0.4	0.3
6. 消費者物価指数	98.6	4.0	100.5	1.9	101.3	0.8	101.3	0.8	2.7
(参考)									
7. 経常収支(億円)	86,954	283.4	178,618	105.4	201,990	13.1	132.3	132.3	132.3
8. GDP(兆円)	510.3	▲0.5	516.6	1.2	523.5	1.3	523.5	1.3	2.6
9. GNP(兆円)	528.8	0.7	543.3	2.7	548.8	1.8	548.8	1.8	3.8
10. 鉱工業指数	98.4	▲0.5	97.5	▲0.9	98.6	1.1	98.6	1.1	0.2
11. 雇用率指数	98.4	1.5	100.5	2.1	102.7	2.2	102.7	2.2	4.4
12. 新車販売台数(万台)	269.3	▲10.7	268.7	▲0.2	290.6	8.2	290.6	8.2	7.9
13. 有効求人数(万人)	2,798	5.5	2,887	3.1	3,084	6.4	3,084	6.4	11.8
14. 為替レート(円/ドル)	105.8	8.3	121.09	14.5	108.77	▲10.2	108.77	▲10.2	2.8
15. 原油価格(ドル/バレル)	91.29	▲16.5	49.31	▲46.0	47.25	▲4.2	47.25	▲4.2	▲8.2

e: 二人以上の世帯 b: 生鮮食品を除く(全国/2015年基準) c: 実質値 d: 乗用車の計 e: GDP推計
(資料) 総務省「家計調査」、5:11厚生労働省「毎月勤労統計調査」6: 総務省「消費者物価指数」、7: 財務省「国際収支の推移」、
8: 内閣府「国民経済計算(GDP統計)」、10: 経済産業省「鉱工業指数」、
12: 日本自動車販売協会連合会年別統計データ、14: 厚生労働省「職業安定業務統計(一般パート含む)」
15: 日本銀行「東京外為市場における取引状況(平均レート/中心相場)」、15: 全国工作油類工業組合統計資料

正味の職員・非常勤の職員・従業員		正味の職員・非常勤の職員・従業員			
(万人)				(消費資料 円)	GDP 円
2002年	3,489	1,451			
(平均/4年)					
2007年	3,449	1,735			
2012年	3,367	1,816			
2016年	3,367	2,023			
(平成22年)	▲0.25	2.40			
年平均増減率					

資料：総務省「労働力調査」注：男女の合計

(消費資料 円)	GDP 円	実計総消費支出 支援(1)の 消費支出	b/a (%)		
2011年度	495	232	46.9		
2012年度	500	236	47.3		
2013年度	513	243	47.5		
2014年度	519	235	46.1		
2015年度	517	236	45.6		
2016年度	523	237	45.3		

資料：内閣府「GDP統計」より最速増値で作成

実質消費支出の前年対比										
		消費支出	食料	米	パン	麺	魚介	肉	野菜・果物	調理食品
全世帯	2016年	▲1.8	▲1.5	▲3.6	▲3.5	▲3.1	▲8.1	▲2.7	▲2.0	2.5
	2015年	▲1.2	1.0	1.1	1.6	3.0	▲0.1	0.2	1.0	2.1
勤労世帯	2016年	▲1.4	2.1	0.5	2.5	3.7	7.5	3.2	2.8	2.1
	2015年	▲0.8	2.0	2.5	1.8	4.4	0.0	0.7	2.7	2.7

資料：経済省「家計調査」消費費目別調査より米穀関係で作成

消費者物価指数の推移													
年度	食料	生鮮食品	穀類	魚介類	肉類	乳卵類	野菜・果物	農産物	油類・調味料	菓子類	調理食品	飲料	酒類
2016年	1020	1053	1021	1030	101.8	100.2	104.4	106.5	100.8	102.6	101.4	100.4	99.9
2015年	1005	1010	1005	1002	100.6	100.8	100.4	103.3	100.2	101.0	100.6	100.1	99.8
2014年	980	950	1007	982	97.2	97.6	94.9	94.3	99.5	97.0	98.1	99.4	100.6

資料：総務省「消費者物価指数」より米穀戦況まで作成

勤労者世帯の支出									
年度	世帯人数	可処分所得	通信(実質)	教育(実質)	預貯金	繰上金	食料(実質)	食料(実質)	食料(実質)
2016年	3.39	429,251	17,279	18,616	414,650	58,672	73,319	73,319	73,319
2015年	3.39	426,381	16,389	18,803	410,205	57,025	74,885	74,885	74,885
2014年	3.39	424,787	15,900	18,344	409,160	56,345	73,424	73,424	73,424
前年度対比									
2016年	0.7	5.4	5.4	1.1	2.9	▲2.1	▲2.1	▲2.1	▲2.1
2015年	0.4	3.1	1.4	0.3	1.2	2.0	2.0	2.0	2.0

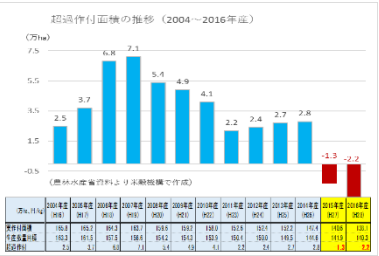
2. 米を巡る施策等の動向

2016 年度のトピックスとしては、①戦略作物への転換拡大による「2 年連続の超過作付解消」、②超過作付解消に伴う「需給のミスマッチの拡大」、③農業の構造改革を目指す「農業競争強化プログラムの決定」の三点が挙げられる。

米の生産調整は、1967～1968 年産の大豊作とそれに伴う過剰米対策として 1969 年(昭和 44 年)に試験的に開始された稲作転換パイロット事業に始まる。1971 年からは稲作転換対策事業として本格的な生産調整が行われているが、これより 2015 年産に至るまで、超過作付が一度も解消されることがなかった。2016 年産において 2 年連続で超過作付が解消され、しかも解消深度が前年産の▲1.3 万ヘクタールの 1.7 倍となる▲2.2 ヘクタールに達したことは、生産調整による超過作付の解消が定着しつつあることを示していた。超過作付解消の原動力は戦略作物への転換が一層進んだことにある。戦略作物には麦や大豆などの畑作物と飼料用米や飼料用稲(WCS)などの水田作物があるが、2016 年産では飼料用米への転換が更に進み、前年産比で 1.1 倍、前々年産比で約 3 倍となる約 9.1 万ヘクタールに達している。一方で超過作付解消の取組みは都道府県による浅深があり、また未解消の県も 11 県あるなど、地域的には課題が残っていた。

超過作付が 2 年連続で解消されたことは、主食用米の相対取引価格の上昇を招くこととなった。過剰作付解消の初年度であった 2015 年産の 9 月の相対取引価格(全銘柄平均)は、前年度産比▲2,390 円/60kg (▲16.1%) の 12,481 円/60kg であったが、2016 年産では反転し、697 円/60kg (+5.6%) の 13,178 円/60kg となっている。上昇の程度は比較的低価格な銘柄ほど大きく、前年産比では福島コシヒカリが約 20%、青森まっしぐらと栃木コシヒカリが約 11%、茨城コシヒカリが約 10%と大幅～かなりの程度の上昇となっていた。

仕入れ原価の制約からコストパフォーマンスを重視する業務用途では、これらの比較的低価格な銘柄が用いられることが多い。そのため 2015 年産で発生したリーズナブルな銘柄を巡っての需要と供給のミスマッチが、2016 年産においても発生した。特に米の使用量の多い外食産業などでは、人手不足による人件費の上昇や為替レートの影響による輸入食品価格の上昇も重なったことから、主食用として輸入される比較的低価格な米である SBS 輸入米を選択肢の一つとしており、2016 年度の SBS 輸入米の輸入量は前年度、前々年度の約 6～5 倍となっていた。



業務用に多く用いられる銘柄の価格動向 (円・%)						
年産・銘柄	9月の価格(夜等込)			上昇率		
	2017	2016	2015	2016/2015	2017/2015	
福島コシヒカリ	13,423	11,739	9,774	20.1	37.3	
青森まっしぐら	12,988	11,210	10,149	10.5	28.0	
栃木コシヒカリ	13,653	12,750	11,477	11.1	19.0	
茨城コシヒカリ	13,302	12,517	11,344	10.3	17.3	
秋田あきたこまち	14,151	12,819	12,216	4.9	15.8	
北海道きさらぎ397	14,253	12,803	12,307	4.0	15.8	
宮城ひとめぼれ	13,849	12,559	12,072	4.0	14.7	
岩手ひとめぼれ	14,071	13,004	12,271	6.0	14.7	
山形はえぬき	13,842	13,088	12,176	7.5	13.7	
全体銘柄平均	14,342	13,178	12,481	5.6	14.9	
新潟コシヒカリ	16,599	16,078	15,523	3.6	6.9	
北海道なつぼし	14,200	13,356	13,422	▲0.5	5.8	

2016年度 SBS輸入米(一般粒)の動向				
入札回	申込数量 a)	落札数量 b)	落札率 b/a	売渡価格 円/kg・税込
第1回	10,040	7,416	0.7	182
第2回	10,144	8,384	0.8	172
第3回	9,937	8,993	0.9	171
第4回	5,679	4,453	0.8	175
第5回	8,563	7,369	0.9	164
第6回	8,627	8,151	0.9	158

(参考) 総計					
年度	申込数量	落札数量	落札率	売渡価格 円/kg・税込	入札回数
2016年	52,990	44,766	0.84	1,023	6回
2015年	17,720	7,254	0.41	1,538	8回
2014年	17,694	8,420	0.48	1,761	8回
1回当たり落札平均					
2016年	8,832	7,461	0.84	170	
2015年	2,215	907	0.41	220	
2014年	2,212	1,053	0.48	220	

「農業競争力強化プログラム」は、内閣総理大臣を本部長とする政府の「農林水産業・地域の活力創造本部」により 11 月 29 日に決定された。同プログラムは「農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決するためのもの」（農林水産省）で、

生産資材価格の引き下げや、農産物の流通・加工構造の改革など 13 項目から構成されている。特に米政策と関係が深い項目としては、

①生産資材の引き下げ、②流通・加工の構造改革、③収入保険制度の導入が挙げられる。

①では生産資材価格を国際水準への引き下げを目指して業界再編を推進するとともに、奨励品種の法的拠り所である主要農作物種子法の廃止が盛り込まれている。②では農産物の直接販売の拡大のほか米卸売業者などの中間流通の抜本的な合理化を推進することとして、業種転換などを行う際の融資などの支援を行うこととしている。また小売業についても、安売り競争からの脱却と適正価格

での提供を図ることとしている。③では価格の低下も補償対象とする新たなセーフティネットとしての収入保険制度の導入と、都道府県知事が定める面積以上の作付けを行う農業者は加入が義務（当然加入）となっている現行の米麦の共済制度（農業災害補償制度）を任意加入に変更することが謳われている。

なお、農業競争力強化プログラムの決定を踏まえ、農業者の所得向上と農業の成長産業化を目指す「農業競争力強化支援法」が 2017 年（平成 29 年）5 月 19 日に公布され、同年 8 月 1 日に施行された。

農業競争力プログラム（概要）

1. 生産資材価格の引き下げ ・肥料、農薬、機械、飼料などの価格の国際水準への引き下げを目指す。 ・業界の再編、法規制の見直し、法整備、生産資材の買い方の見直し（全農改革）など	5. 原料原産地表示の導入 ・全ての加工食品について、重要割合上位 1 位の原材料について、国別の重要順に表示を基本 ・実行可能性を考慮したルールを設定	10. 飼料用米の推進 ・多収品種の導入等による生産コスト低減、耕種農家・畜産農家の連携による畜産物の高付加価値化を図る取組等を推進
2. 流通・加工の構造改革 ・効率的、機能的な流通・加工構造を目指す。 ・農業者・団体から実需者・消費者に直接販売するルートの拡大推進 ・卸売市場・関係者・米卸売業者等中間流通の抜本的見直しと業種転換等の支援、適正な価格での販売を実現するための量販店等の業界再編 ・農産物の売り方の見直し（全農改革）など	6. チェックオフの導入 ・チェックオフを要する業界における検討手順（推進母体・スキーム・同意要件）を定め、一定以上の賛同で法制化に着手	11. 肉用牛・酪農の生産基盤強化 12. 配合飼料価格安定制度の安定運営 ・繁殖雌牛の増殖、乳用後継牛の確保、生産性の向上、自給飼料の増産等を推進 ・配合飼料価格安定制度の安定的な運営
3. 人材力の強化 ・各県に「営農経営塾」を整備、法人雇用を含めた就農等を支援 ・外国人材活用スキームの検討	7. 収入保険制度の導入 ・適切な経営管理を行っている農業経営者の農業収入全体に着目したセーフティネットを導入 ・現行の農業共済制度を見直し米麦の共済制度の強制加入を任意加入に変更	13. 生乳の改革 ・生産者が自由に出荷先を選べる制度に改革 ・指定団体以外にも補給金を交付 ・全量委託だけでなく、部分委託の場合にも補給金を交付
4. 戦略的輸出体制の整備 ・平成31年の1兆円目標に向けて、「農林水産業の輸出強化戦略」を具体化 ・日本酒SOPEXA（ソペキサ）の創設	8. 土地改良制度の見直し ・農地集積バンクが借りている農地のほ場整備事業について、農地所有者等の費用負担をなくし、事業実施への同意を不要とする	9. 農村の就業機会の改善 ・農村に就業の場を確保するため、工業等に限定せず、サービス業等についても導入を推進

第2. 精米の価格、販売等の動向

1. 月次の価格と販売数量の動向

ここでは月報（RP Monthly）で公表しているデータにより、2016 年度の精米の価格と販売の動向を概括する。なお POS データに基づく価格推移は週報（RPWeekly）と月報（RPMonthly）において公表しており、週報においては月曜～日曜の販売データを基に 1kg（特別栽培等を含む精米の 1kg 当たり価格・税込）、5kg 袋（慣行栽培・税込）、月内の 5kg 袋の上位 20 産地・品種別販売価格と販売割合を、月報では月内の 1kg（同）当り価格及び 5kg 袋（同）の販売価格を公表している。なお、以下に述べる価格については、特に付記がない限り消費税等込価格で表している。

(1) 1kg 当たり販売価格の推移

2016 年度の販売価格の平均は 360 円/kg となっている。超過作付が解消されたことによる需給の引締まりを受け、月次の価格水準は前年度を 5～7%（20 円/kg 前後）上回って推移している。販売価格の上昇は、前年産米が主体の 4 月～8 月間では 6.4%の上昇、2016 年産米が主体の 9 月～3 月では 5.4%の上昇となっている。2016 年度の相対取引の月次の全銘柄平均価格は前年度比 8～12%（20 円/kg 前後）の上昇で推移しており、金額ベースでは POS データの販売価格と相対取引価格が同程度の上昇となっている。

平均価格の推移(2016年度)															(単位円/kg・税込)		期間平均																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
POS	2015年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌

2. 全体及びブロック別の価格と販売数量等の動向

ここでは週次の価格のほか、販売数量の動向、主要産地銘柄の平均価格と販売割合の動向、包装容量別販売割合の動向について、ブロック別（全体を含む）を概括する。なおブロック名と所属する都道府県については右表のとおりとなっている。

ブロック名	都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉
京浜	東京、神奈川県
北陸	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国四国	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島

(1) 全体の動向

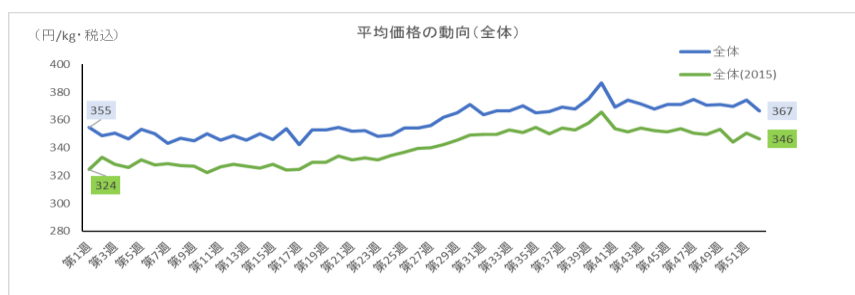
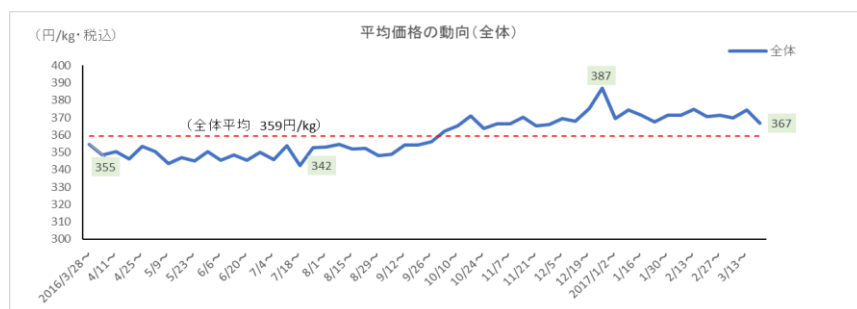
ア. 販売価格の動向

(ア) 1kg 当たり販売価格

年度初めに 355 円/kg でスタートした 1kg 当たり販売価格は、年度末において 367 円/kg と 12 円/kg (+3.4%) の値上がりとなっている。前年産米主体の年度前半は、年度平均以下の価格で比較的安定して推移している。また年度後半は、年産切替期に 20 円/kg 程度値上がりした後、年度平均価格を上回る水準で推移している。年度平均価格は前年度を 20 円/kg (+5.8%) 上回っており、最高価格はパルス状なピークとなっている 12 月 26 日の週（第 40 週）の 387 円/kg となっている。

2016年度	平均価格 (円/kg・税込)	標準偏差	2015年度 平均価格 (円/kg・税込)	2016/2015 増減 (%)	2016/2015 増減 (円/kg・税込)	全体平均 との差 (円/kg・税込)
全体	359	11	339	5.8	20	-
北海道	358	8	345	3.8	13	▲ 1
東北	381	23	358	6.6	24	22
関東	335	13	310	8.0	25	▲ 24
京浜	388	10	386	0.6	2	29
北陸	357	9	335	6.7	23	▲ 2
東海	371	15	333	11.3	37	11
近畿	358	10	336	6.7	22	▲ 1
中国四国	349	10	328	6.2	21	▲ 10
九州	353	14	343	2.8	10	▲ 6

全体	第29週までの 平均 (円/kg・税込)	第30週以降の 平均 (円/kg・税込)	対差
2016年度	351	370	20

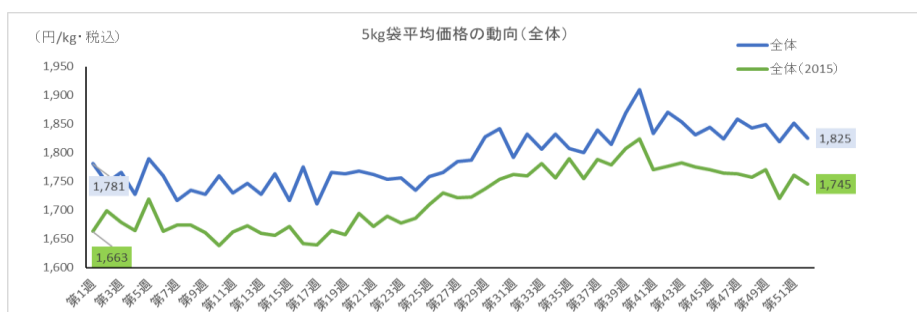
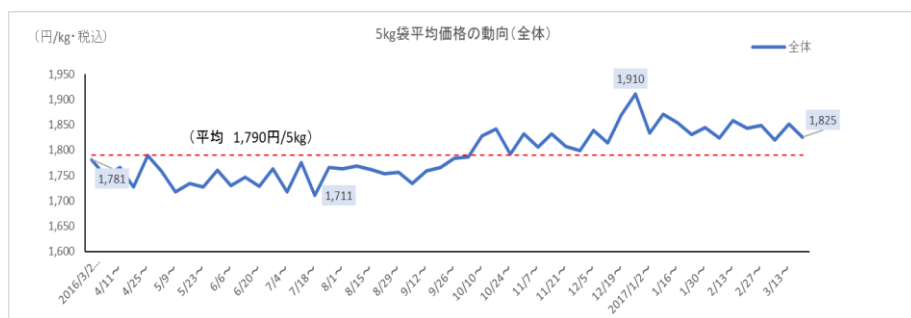


(イ) 5kg 袋（慣行栽培）の販売価格

年度初めに 1,781 円/5kg でスタートした 5kg 袋の販売価格は、年度末において 1,825 円/5kg と 44 円/5kg（+2.5%）の値上がりとなっている。前年産米主体の年度前半は、1kg 当たり価格同様に年度平均以下の価格で推移しているが、乱高下がみられるなど安定的とはいえない。年産切替え後の年度後半では、前半に比べて 82 円/5kg 前後値上がりしているが、販売価格は 1～2 週おきに乱高下を繰り返す時期もあるなど、落ち着いた値動きとはなっていない。年度平均価格は、前年度を 74 円/5kg（+4.3%）上回っており、年度最高価格は 12 月 26 日の週（第 40 週）の 1,910 円/5kg となっている。

2016年度	平均価格 (円/5kg・税込)	標準偏差	2015年度 平均価格 (円/5kg・税込)	2016/2015 増減 (%)	2016/2015 増減 (円/5kg・税込)	全体平均 との差 (円/5kg・税込)
全体	1,790	48	1,717	4.3	74	-
北海道	1,946	52	1,918	1.4	27	156
東北	1,889	67	1,770	6.7	119	98
関東	1,679	66	1,569	7.0	110	▲111
京浜	1,855	78	1,849	0.3	6	64
北陸	2,015	81	1,841	9.4	174	224
東海	1,892	45	1,783	6.1	109	102
近畿	1,744	53	1,645	6.0	99	▲46
中国四国	1,753	45	1,667	5.1	85	▲38
九州	1,736	47	1,700	2.1	36	▲54

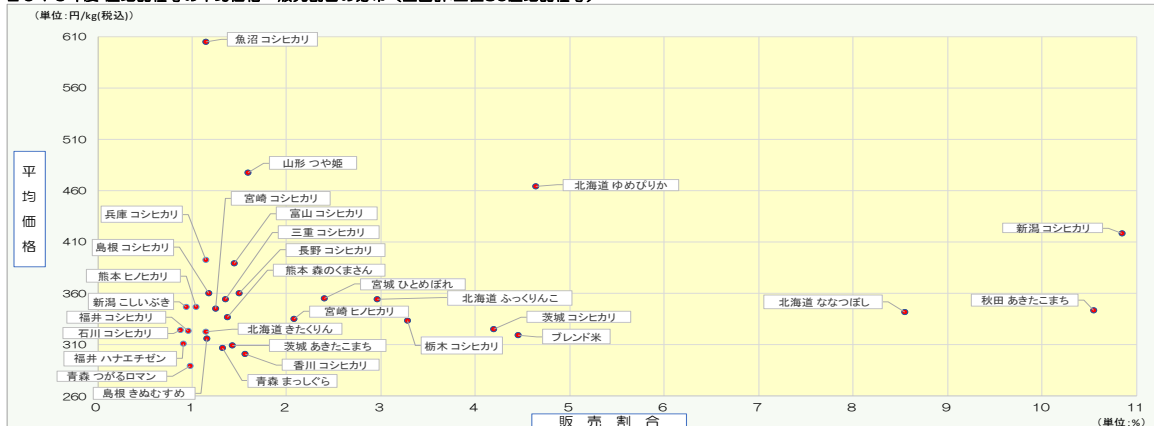
全体	第29週まで の平均 (円/5kg・税込)	第30週以降 の平均 (円/5kg・税込)	対差
2016年度	1,755	1,837	82



全体の販売数量に占める産地別の販売割合は、北海道が 18.9%（前年度+1.5 ポイント）で最も高く、次いで新潟県が 13.2%（前年度同）、秋田県が 10.8%（前年度+3.1 ポイント）となっている。販売割合上位を占める北海道から宮城県（9 位）までの順位は前年度同となっている。主食用収穫量の多い産地は全体に占める販売割合も高い傾向がある。

販売割合上位 30 銘柄等を価格からみると、全体平均価格（360 円/kg）以上は魚沼コシヒカリなど 8 銘柄（前年度▲3 銘柄）、全体平均価格未満が 22 銘柄等（同+3 銘柄）となっている。平均価格以上の銘柄が占める割合は 23.5%（同+9.6 ポイント）、平均価格未満の割合は 54.7%（同+30.4 ポイント）となっている。

(単位:円/kg(税込))



				(単位: %, 円/kg 弱込)			
産地品種		販売割合	平均価格	産地品種		販売割合	平均価格
1	新潟 コシヒカリ	10.8 (-0.4)	418 (+10)	11	山形 つや姫	1.6 (+0.5)	478 (-6)
2	秋田 あきたこまち	10.5 (-2.9)	344 (+22)	12	香川 コシヒカリ	1.6 (0.0)	301 (-7)
3	北海道 ななつぼし	8.6 (+1.0)	342 (+17)	13	長野 コシヒカリ	1.5 (-0.2)	360 (+23)
4	北海道 ゆめぴりか	4.6 (+0.5)	464 (-2)	14	富山 コシヒカリ	1.4 (-0.3)	389 (+25)
5	ブランド米	4.4 (-0.4)	319 (+25)	15	茨城 あきたこまち	1.4 (-0.4)	309 (+25)
6	茨城 コシヒカリ	4.2 (-0.2)	325 (+32)	16	熊本 森のくまさん	1.4 (0.0)	337 (-8)
7	熊本 コシヒカリ	3.3 (-1.1)	333 (+20)	17	三重 コシヒカリ	1.4 (0.0)	354 (+18)
8	北海道 ふっくらにこ	3.0 (-1.1)	354 (-1)	18	青森 まつしぐら	1.3 (-0.4)	306 (-38)
9	宮城 たちあめぼれ	2.4 (-0.4)	355 (+27)	19	宮崎 ハナエチゼン	1.3 (-0.4)	345 (+12)
10	宮城 ヒノヒカリ	2.1 (0.0)	335 (+26)	20	鳥取 コシヒカリ	1.2 (+0.1)	360 (+21)
注1: 農林水産省の定める産地・品種別米価 (農産物販売単価) 統計資料(米) 産地別米価(令和4年)							
全 体			324 (+2)	全 体			360 (+2)

注3：平均価格は当該産地品種の加重平均価格（税込）。（）内は前年の平均価格との差。

2021年12月 12日 星期日															备注1
日期	星期	天气	最高温度	最低温度	平均温度	最高湿度	最低湿度	平均湿度	最高风速	最低风速	平均风速	最高气压	最低气压	平均气压	备注
12月12日	星期日	晴	15	5	10	75%	65%	70%	3.5	1.5	2.5	1015	1010	1012.5	晴
12月13日	星期一	晴	16	6	11	78%	68%	73%	4.0	2.0	3.0	1016	1011	1013.5	晴
12月14日	星期二	晴	17	7	12	80%	70%	75%	4.5	2.5	3.5	1017	1012	1014.5	晴
12月15日	星期三	晴	18	8	13	82%	72%	77%	5.0	3.0	4.0	1018	1013	1015.5	晴
12月16日	星期四	晴	19	9	14	85%	75%	80%	5.5	3.5	4.5	1019	1014	1016.5	晴
12月17日	星期五	晴	20	10	15	88%	78%	83%	6.0	4.0	5.0	1020	1015	1017.5	晴
12月18日	星期六	晴	21	11	16	90%	80%	85%	6.5	4.5	5.5	1021	1016	1018.5	晴
12月19日	星期日	晴	22	12	17	92%	82%	87%	7.0	5.0	6.0	1022	1017	1019.5	晴
12月20日	星期一	晴	23	13	18	95%	85%	90%	7.5	5.5	6.5	1023	1018	1020.5	晴
12月21日	星期二	晴	24	14	19	98%	88%	93%	8.0	6.0	7.0	1024	1019	1021.5	晴
12月22日	星期三	晴	25	15	20	100%	90%	95%	8.5	6.5	7.5	1025	1020	1022.5	晴
12月23日	星期四	晴	26	16	21	100%	92%	96%	9.0	7.0	8.0	1026	1021	1023.5	晴
12月24日	星期五	晴	27	17	22	100%	94%	97%	9.5	7.5	8.5	1027	1022	1024.5	晴
12月25日	星期六	晴	28	18	23	100%	96%	98%	10.0	8.0	9.0	1028	1023	1025.5	晴
12月26日	星期日	晴	29	19	24	100%	98%	99%	10.5	8.5	9.5	1029	1024	1026.5	晴
12月27日	星期一	晴	30	20	25	100%	100%	100%	11.0	9.0	10.0	1030	1025	1027.5	晴
12月28日	星期二	晴	31	21	26	100%	100%	100%	11.5	9.5	10.5	1031	1026	1028.5	晴
12月29日	星期三	晴	32	22	27	100%	100%	100%	12.0	10.0	11.0	1032	1027	1029.5	晴
12月30日	星期四	晴	33	23	28	100%	100%	100%	12.5	10.5	11.5	1033	1028	1030.5	晴
12月31日	星期五	晴	34	24	29	100%	100%	100%	13.0	11.0	12.0	1034	1029	1031.5	晴
12月31日	总计														

2016年各月水產(水食用)收穫量上推1年			
漁獲名	收穫量(t)	作付面積(ha)	
蝦類	589,750	101,500	
1 扇貝	545,000	99,000	
2 秋田	409,600	69,300	
3 伊豆	333,600	60,100	
5 愛媛	350,100	67,200	
6 山形	343,300	58,000	
7 兵庫	333,600	60,100	
8 千葉	256,900	43,000	
9 新潟	256,900	43,000	
10 岩手	254,300	57,000	
11 青森	222,300	36,800	
12 山形	222,300	36,800	
13 山形	191,300	33,000	
14 兵庫	177,400	35,400	
15 兵庫	177,400	35,400	
16 熊本	171,300	32,000	
17 山口	155,600	28,000	
18 山形	155,600	28,000	
19 徳島	154,100	21,000	
20 山形	146,300	27,000	
21 愛知	140,100	23,600	
22 山形	139,300	23,000	
23 福井	126,300	20,000	
24 広島	124,300	23,400	
25 山形	124,300	23,400	
26 大分	106,300	21,000	
27 山形	101,400	21,000	
28 山口	97,600	19,800	
29 山形	81,400	15,000	
30 山形	81,400	15,000	

産地・産品名	平均価格	販売割合	産地・産品名	平均価格	販売割合
魚沼 コシヒカリ	605	13	宮城 ひのきめど	355	24
山形 つばき	478	18	三重 コシヒカリ	354	14
北海道 ひとりひかり	464	10	北海道 づつひかり	354	20
新潟 コシヒカリ	418	48	新潟 ときほき	346	09
兵庫 コシヒカリ	392	13	徳島 ときどかり	346	13
新潟 コシヒカリ	389	14	山形 コシヒカリ	346	10
長野 コシヒカリ	362	13	長野 ときほき	344	105
長野 コシヒカリ	360	15	新潟 ときほき	342	86
山形県内平均価格・全体	360	233	熊本 森のたまご	337	14
			宮崎 コシヒカリ	335	21
			熊本 コシヒカリ	333	33
			茨城 コシヒカリ	325	42
			山形 ときほき	324	08
			新潟 コシヒカリ	323	19
			北海道 ときほき	323	10
			ブランド	219	44
			鳥取 きめむすめ	216	12
			山形 バンパネス	211	09
			鳥取 あきたち	209	14
			青森 コシヒカリ	206	13
			山形 コシヒカリ	200	18
			鳥取 つばき	200	10

下欄の2018年度は、つくばセンターの産地・産品名

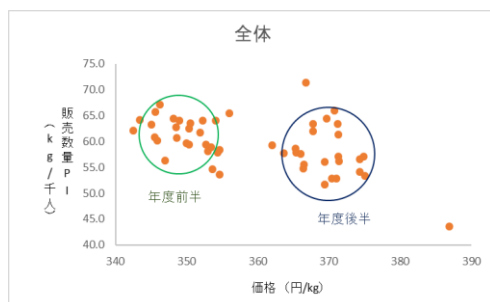
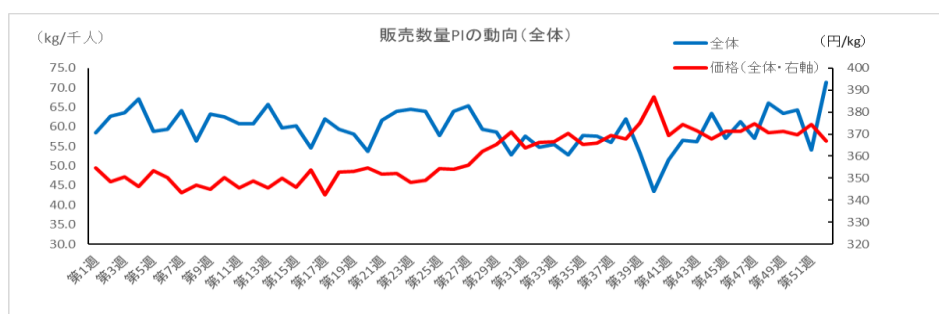
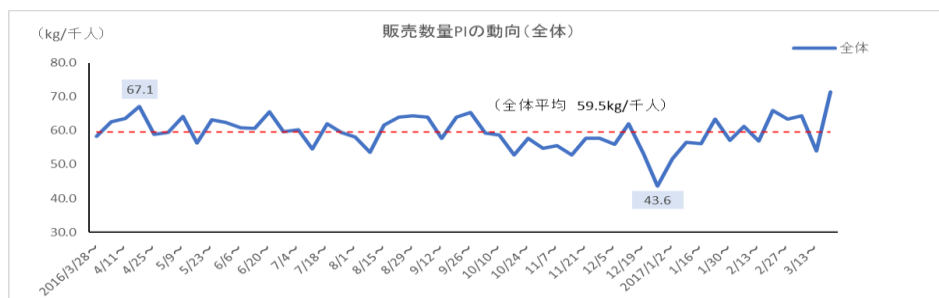
イ．販売数量の動向

(ア) 販売数量 PI 値

2016 年度の平均販売数量 PI 値は 59.5kg/千人となっており、前年度より 2.9kg/千人 (+5.1%) 増加している。販売数量 PI 値の最大値は 67.1kg/千人 (平均価格 346 円/kg)、最小値は 43.6kg/千人 (同 387 円/kg) となっている。なお 1kg 当たり販売価格は年度前半が 350 円/kg 前後、年度後半が 370 円/kg 前後とその差は小さいものの、価格と販売数量 PI の散布図からみると、年度前半のほうがより安定した販売状況となっている。

なお年度を通じて、全体としては販売価格と販売数量 PI 値の間には明確な相関はみられない。

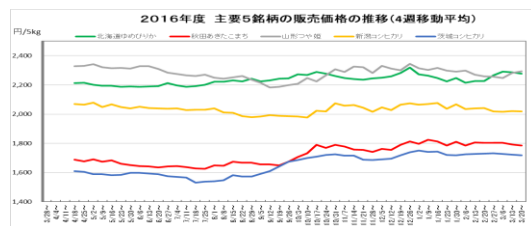
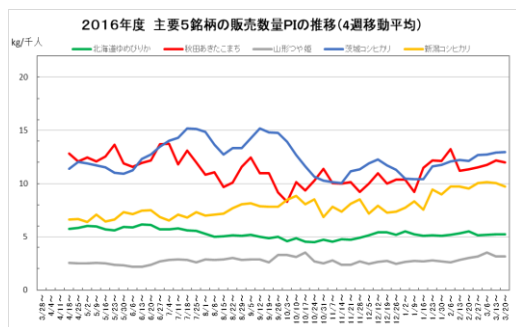
2016年度	平均販売数量 PI (kg/千人)	同左 前年度比 (%)	平均販売数量 PI 標準偏差	(参考)
				平均販売数量 PI (全体を100として 指数化)
全体	59.5	5.1	4.8	100.0
北海道	141.2	6.2	17.9	237.3
東北	19.3	4.6	3.7	32.5
関東	66.7	3.4	8.5	112.1
京浜	71.4	23.9	13.0	119.9
北陸	35.1	4.2	5.8	59.0
東海	62.1	▲ 7.0	7.8	104.4
近畿	60.9	1.9	4.9	102.3
中国四国	38.1	▲ 3.0	4.5	64.1
九州	60.0	▲ 1.7	9.4	100.8



平均販売数量PIと 1kg当たり平均単価の 相関 (2016年度)	
ブロック	相関係数
全体	-0.50
北海道	-0.36
東北	-0.43
関東	-0.75
京浜	-0.88
北陸	-0.22
東海	-0.42
近畿	-0.32
中国四国	-0.59
九州	-0.34

(イ) 主要 5 銘柄の販売数量 PI 値

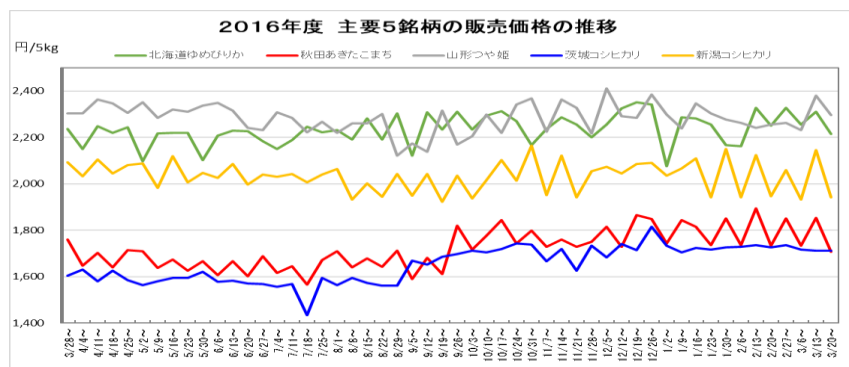
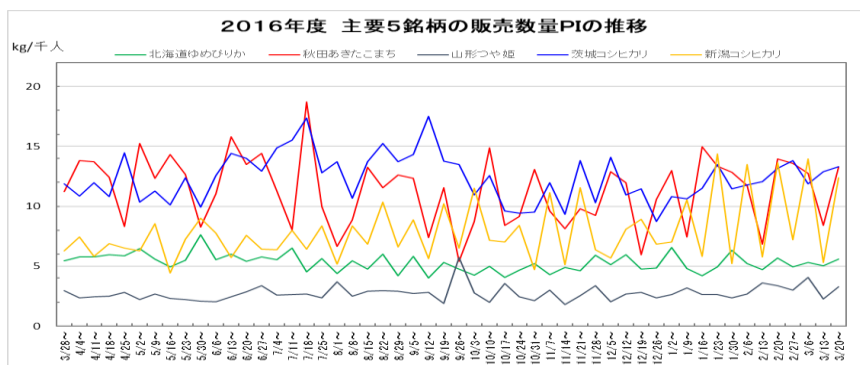
全体での販売割合が高い北海道ゆめぴりか、秋田あきたこまち、新潟コシヒカリ、茨城コシヒカリと山形つや姫の主要 5 銘柄の販売数量 PI 値は下図のとおりとなっている。各銘柄とも週毎に価格と連動してランダムな上げ下げを繰り返している。上下動を平準化するため 4 週移動平均により各銘柄の販売数量 PI 値の傾向をみたのが右図である。販売価格のばらつきが比較的小さい新潟コシヒカリ、北海道ゆめぴりか、山形つや姫の 3 銘柄は年度を通じての販売数量 PI 値は概ね安定して推移しており、新潟コシヒカリのみ年度後半に向けて販売数量を伸ばしている。なお新潟コシヒカリ、北海道ゆめぴりか、山形つや姫については、価格の変動が販売数量 PI の変動に負の要因として寄与している。



(円/kg)					
4週移動平均価格	平均	標準偏差	最高	最低	差
北海道ゆめぴりか	2,236	33	2,318	2,187	131
秋田あきたこまち	1,722	88	1,825	1,625	200
山形つや姫	2,281	42	2,343	2,184	159
新潟コシヒカリ	2,033	29	2,078	1,978	101
茨城コシヒカリ	1,654	79	1,751	1,530	219

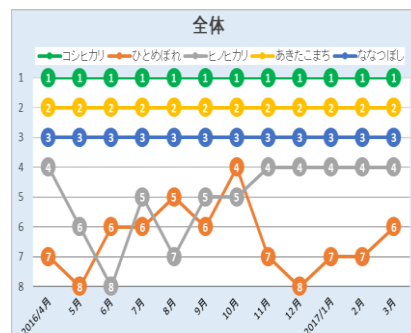
販売価格と販売数量PIの相関	
北海道ゆめぴりか	-0.70
秋田あきたこまち	-0.34
山形つや姫	-0.63
新潟コシヒカリ	-0.80
茨城コシヒカリ	-0.51

一方、茨城コシヒカリと秋田あきたこまちな販売数量 PI 値は、高一低一高と年度を通じて波打つ傾向がみられる。両銘柄の価格の動きに関しては、①年度後半から上昇し、②ばらつきが大きく、③値幅の振れが大きいという共通した特徴がみられるが、価格の販売数量 PI 値への寄与は明確ではない。



(ウ) 作付比率上位 5 品種の販売数量の順位

作付比率上位 5 品種（コシヒカリ、ひとめぼれ、ヒノヒカリ、あきたこまち、ななつぼし）の量販店等での月別販売数量の順位は右図のとおりとなっている。作付比率及び農産物検査数量 1 位のコシヒカリが全体の販売量でも 1 位となっている。しかし販売数量 2 位以下については、必ずしも作付比率の順位や農産物検査数量の順位とはリンクしていない。



コシヒカリを除く作付比率上位品種の業務用向け比率をみると、ひとめぼれは高く、ヒノヒカリはあきたこまちとななつぼしよりは高くなっている。POS データの販売数量は基本的に家庭向けの販売数量を表していることから、業務用向け比率の高い品種では、流通量の一部しか POS データに反映されないことが背景にあると考えられる。

順位	2014年産		2015年産		2016年産	
	品種名	比率	品種名	比率	品種名	比率
1	コシヒカリ	36.4	コシヒカリ	36.1	コシヒカリ	36.2
2	ひとめぼれ	9.7	ひとめぼれ	9.7	ひとめぼれ	9.6
3	ヒノヒカリ	9.2	ヒノヒカリ	9.0	ヒノヒカリ	9.1
4	あきたこまち	7.2	あきたこまち	7.2	あきたこまち	7.0
5	ななつぼし	3.1	ななつぼし	3.4	ななつぼし	3.5
6	はえぬき	2.9	はえぬき	2.8	はえぬき	2.8
7	キヌカ	2.7	キヌカ	2.7	キヌカ	2.5
8	まっしぐら	2.0	まっしぐら	1.9	まっしぐら	1.8
9	あさひの夢	1.6	あさひの夢	1.6	あさひの夢	1.6
10	こしいぶき	1.5	こしいぶき	1.5	ゆめぴりか	1.5
上位10品種計		76.8		75.9		75.6

資料：米穀機構「水稻の品種別作付け動向について」

品種名	検査数量		
	2016年産 (3月まで)	2015年産	合計
コシヒカリ	1,544,111	1,539,384	3,083,495
ひとめぼれ	466,216	525,941	992,157
あきたこまち	417,431	459,897	877,328
ななつぼし	219,352	252,111	471,463
ヒノヒカリ	199,805	217,573	417,378

資料：農林水産省「農産物検査結果」より米穀機構で作成

品種名	産地	業務用向比率
ひとめぼれ	宮城	49%
	岩手	34%
あきたこまち	秋田	12%
ななつぼし	北海道	12%
ヒノヒカリ	熊本	14%
	福岡	14%

資料：農林水産省「米に関するマンスリーレポート 平成29年2月号」より米穀機構で作成

ウ．包装容量別販売割合の動向

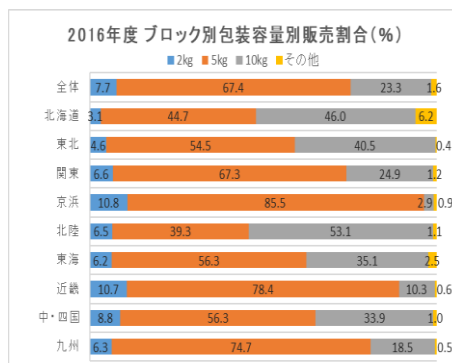
(ア) 年度平均の動向

包装容量別の販売割合は、全体では 5kg 袋が 67.4%で例年どおり 1 位となっており太宗を占めている。また 5kg 袋は東北、関東、京浜、東海、近畿、中国四国、九州の各ブロックでも 1 位となっている。

包装容量別の販売割合の経年推移では、5kg 袋は販売価格の値下がりに対して増加する傾向が、逆に 10kg 袋は増加する傾向がある。2016 年度は販売価格の上昇があったことから、2kg 袋と 5kg 袋の販売割合は増加しているが 10kg 袋は減少している。

世帯人数の減少などを背景として開発された 3kg 袋や 1 回炊飯用の 2 合パックや 3 合パックなどの小容量袋が話題となっているが、これらは POS データの集計上「その他」に区分けされている。その他に区分けされる包装袋の割合については、直近では横ばいとなっており、量販店などでの販売が伸びている姿は POS データからはみえてこない。

「その他」の割合が最も大きい京浜ブロックでも、その割合が増加しているとはいえない。特に 2016 年度のような販売価格の上昇局面では、コストパフォーマンスの点で小容量袋は不利になっていると考えられる。



(全体)

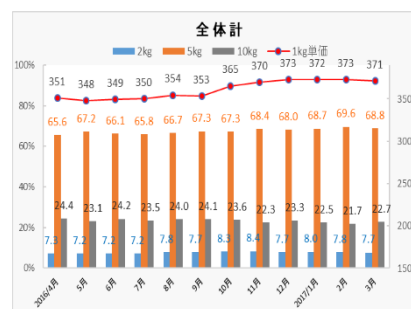
年度	平均単価 (円/kg)	2kg袋 (%)	5kg袋 (%)	10kg袋 (%)
2013	414	6.9	66.8	24.3
2014	382	6.8	65.2	26.5
2015	341	7.0	64.2	27.5
2016	361	7.7	67.4	27.3

	その他	全体(%)	京浜(%)
2013年度		2.0	2.7
2014		1.5	0.5
2015		1.3	0.8
2016		1.5	0.9

(イ) 月別の動向

2016 年度の全体の毎月の価格の動きと包装容量別の販売割合を重ねたものが右図である。価格と販売割合の間には関係性があるようにみえる。実際に全体を含めた各ブロックの毎月の各包装容量袋の販売割合と 1kg 当たり単価の動きを相関係数から示したものが右下表である。

販売価格の上昇は家計支出にも影響することから、レジでの支払額の大きな 10kg 袋が敬遠され、心理的許容と節約の両面から 5kg 袋や 2kg 袋へのシフトが起きると予測される。2016 年度の全体の月別の推移においても、価格の値動きに対して 10kg 袋はマイナス、2kg 袋と 5kg 袋はプラスの関係性を示しており、予測どおりの結果となっている。



1kg当たり単価と包装容量別販売割合の相関

	2kg袋	5kg袋	10kg袋
全体	0.712	0.872	-0.746
北海道	0.372	0.865	0.753
東北	0.990	0.847	-0.904
関東	0.659	-0.248	-0.219
京浜	-0.532	0.396	0.525
北陸	0.858	0.359	-0.580
東海	0.961	0.948	-0.967
近畿	0.792	-0.185	0.129
中国四国	0.849	0.350	-0.547
九州	0.050	-0.194	0.179

(2) ブロックの動向

ア. ブロック別の販売価格の動向

(ア) 1kg 当たり販売価格

2016 年度で最も平均販売価格が高かったのは京浜ブロックの 388 円/kg、最も安かったのは中国四国ブロックの 349 円/kg となっている。

対前年度比では、東海ブロックでの値上がりが最も大きく (+11.3%)、最も小さいのは京浜ブロック (+0.6%) となっている。

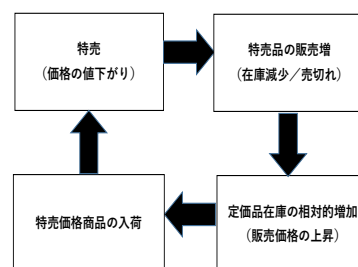
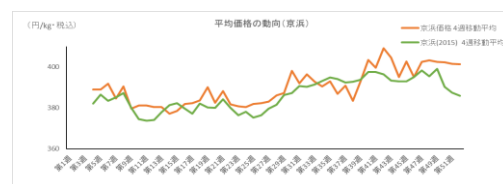
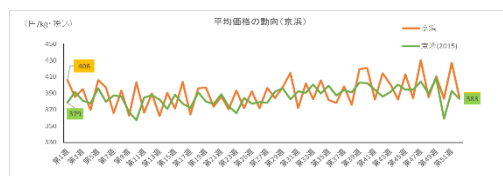
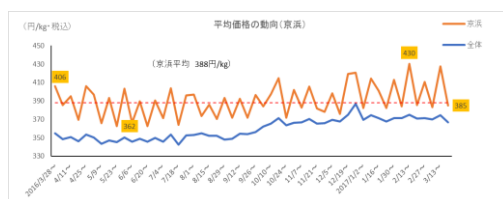
第 30 週以降（新米切替以降）の値上がりが最も大きかったのは東海ブロック (+28 円/kg) で、最も小さかったのは京浜ブロックと九州ブロック (+13 円/kg) となっている。

2016 年度のトピックとして、京浜ブロックでの販売価格の推移が、全体比及び前年度比で極めてランダムな動き（ランダムウォーク）となっている点が挙げられる。京浜ブロックでは 1～2 週おきに販売価格が上下しており、安値商品を構成できる原料の量的不足が背景にあるためと考えられる。また物品の販売価格のランダムウォークについては、販売価格と在庫の関係性が指摘されており（独立行政法人経済産業研究所「オンライン市場における価格変動の統計的分析」）、それを当てはめると京浜ブロックでは右下図のような特売を契機とした循環が生まれている可能性もある。

一方で、販売価格の上下動を平準化した移動平均で 2016 年度の京浜ブロックの価格の推移をみると、前年度の水準を概ねトレースしていることがわかる。ランダムな販売価格の動きの陰には、商品供給や在庫に由来する影響のほか、通年での前年度並を意識した販売側の価格設定、あるいは価格変更があるようにもみえる。

2016年度	平均価格 (円/kg・税込)	標準偏差	2015年度 平均価格 (円/kg・税込)	2016/2015 増減 (%)	2016/2015 増減 (円/kg・税込)	全体平均 との差 (円/kg・税込)
全体	359	11	339	5.8	20	-
北海道	358	8	345	3.8	13	▲1
東北	381	23	358	6.6	24	22
関東	335	13	310	8.0	25	▲24
京浜	388	10	386	0.6	2	29
北陸	357	9	335	6.7	23	▲2
東海	371	15	333	11.3	37	11
近畿	358	10	336	6.7	22	▲1
中国四国	349	10	328	6.2	21	▲10
九州	353	14	343	2.8	10	▲6

全体	第29週までの 平均 (円/kg・税込)	第30週以降 の平均 (円/kg・税込)	対差
全体	351	370	20
北海道	347	373	26
東北	371	398	26
関東	326	348	21
京浜	385	398	13
北陸	352	367	15
東海	359	387	28
近畿	350	367	17
中国四国	342	359	17
九州	347	360	13



(イ) 5kg 袋（慣行栽培）の販売価格

2016 年度で最も平均販売価格が高かったのは北陸ブロックの 2,015 円/5kg、最も安かったのは関東ブロックの 1,679 円/5kg となっている。対前年度比では、北陸ブロックでの値上がりが最も大きく（+9.4%）、最も小さいのは京浜ブロック（+0.3%）となっている。なお 1kg 当たり販売価格及び 5kg 袋の販売価格とブロック別の所得（賃金）との間には関係性はみられない。量販店などでの販売価格は、必ずしもブロック内の消費者の所得水準に影響されていないものと考えられる。

第 30 週以降（新米切替以降）の値上がりが最も大きかったのは関東ブロック（+112 円/5kg）で、最も小さかったのは中国四国ブロック（+62 円/kg）となっている。

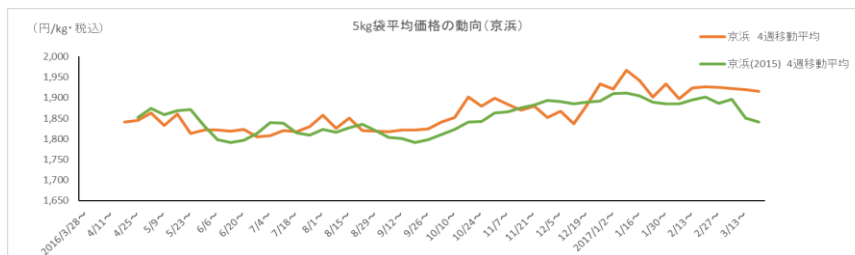
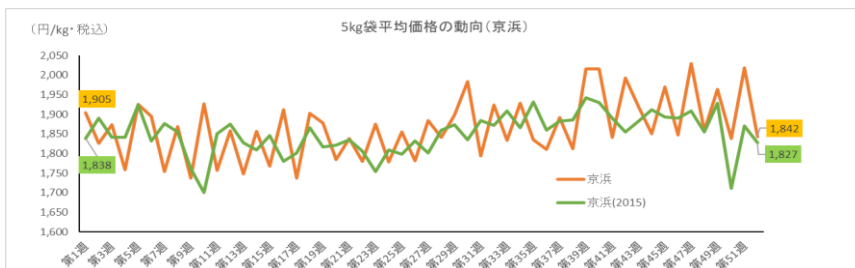
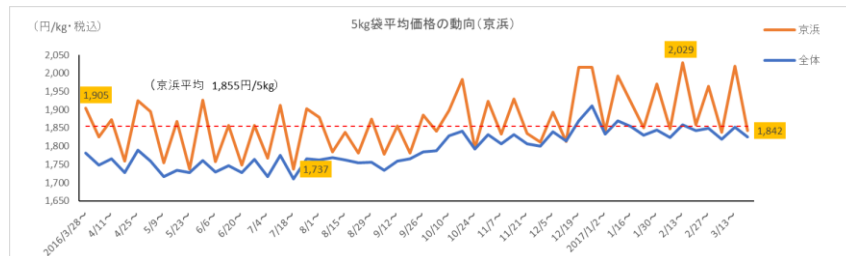
京浜ブロックでの 5kg 袋の販売価格にもランダムウォークが発生しており、その背景は、1kg 当たり販売価格と同じ理由と考えられる。

2016年度	平均価格 (円/5kg・税込)	標準偏差	2015年度 平均価格 (円/5kg・税込)	2016/2015 増減 (%)	2016/2015 増減 (円/5kg・税込)	全体平均 との差 (円/5kg・税込)
全体	1,790	48	1,717	4.3	74	-
北海道	1,946	52	1,918	1.4	27	156
東北	1,889	67	1,770	6.7	119	98
関東	1,679	66	1,569	7.0	110	▲111
京浜	1,855	78	1,849	0.3	6	64
北陸	2,015	81	1,841	9.4	174	224
東海	1,892	45	1,783	6.1	109	102
近畿	1,744	53	1,645	6.0	99	▲46
中国四国	1,753	45	1,667	5.1	85	▲38
九州	1,736	47	1,700	2.1	36	▲34

	第29週までの 平均 (円/5kg・税込)	第30週以降 の平均 (円/5kg・税込)	対差
全体	1,755	1,837	82
北海道	1,910	1,991	81
東北	1,856	1,944	87
関東	1,637	1,749	112
京浜	1,835	1,905	71
北陸	2,000	2,043	43
東海	1,863	1,929	66
近畿	1,707	1,788	81
中国四国	1,728	1,790	62
九州	1,705	1,772	67

都道府県 別賃金 (2016年)	男女計 全国を100と した比率	同左 ブロック平均
全 国 計	100.0	100.0
北 海 道	88.0	88.0
青 森	78.4	82.3
岩 手	77.6	
宮 城	93.0	
秋 田	79.7	
山 形	79.7	
福 島	85.7	97.1
茨 城	100.6	
栃 木	95.3	
群 馬	92.7	
埼 玉	98.5	
千 葉	98.3	116.5
東 京	122.7	
神 奈 川	110.2	
新 潟	85.5	
富 山	92.3	
石 川	90.9	90.7
福 井	89.2	
山 梨	93.3	
長 野	93.1	
岐 阜	92.2	96.9
静 岡	95.1	
愛 知	103.4	
重 慶	96.8	
滋 賀	97.1	
京 都	100.4	98.7
大 阪	107.5	
兵 庫	98.6	
奈 良	97.8	
和 歌 山	90.5	
鳥 取	81.9	87.6
島 根	81.8	
岡 山	91.9	
広 島	94.4	
山 口	89.2	
徳 島	88.2	83.1
香 川	90.1	
愛 媛	86.0	
高 知	84.9	
福 岡	91.3	
佐 賀	81.5	83.1
崎 玉	83.9	
熊 本	83.8	
大 分	82.1	
宮 崎	77.2	
鹿 児 島	82.0	

資料：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」
より米穀機構で作成



コラム 「精米の販売価格と相対取引価格」

POS データ上の販売価格については、1kg 当たり販売価格、5kg 袋販売価格ともに概ね相対取引価格（全銘柄平均価格）と連動した動きをしているが、ブロック別には影響の度合いの違いがある。

1kg 当たり販売価格では京浜ブロックと九州ブロックでは相対取引価格の影響が弱いものの、残りの 7 ブロックでは相対取引価格と強く関係している。

5kg 袋の販売価格では東北、関東、近畿、中国四国ブロックでの販売価格は、相対取引価格と強く関係しているが、残りの 5 ブロックでは比較的影響は弱い。

相対取引価格（全銘柄平均）との相関

	1kg 当たり販売 価格	5kg 袋の販売 価格
北海道	0.82	0.68
東北	0.71	0.75
関東	0.88	0.89
京浜	0.64	0.68
北陸	0.70	0.63
東海	0.90	0.68
近畿	0.81	0.76
中国四国	0.95	0.92
九州	0.57	0.63

注：POSデータの週次販売価格を月次販売価格に組替えて集計している

イ. ブロック別の主要産地銘柄の販売割合と平均価格の動向

(ア) 北海道ブロック

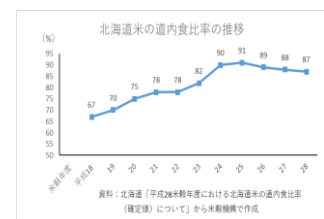
販売数量に占める産地別の販売割合は、北海道ブロック産が**75.9%**（前年度+2.9 ポイント）となっており、道県別では北海道に次いで茨城県が**5.5%**、新潟県が**5.0%**となっている。販売割合上位3位までの順位は前年度同となっている。北海道は道内の米消費に占める道産米の割合（道内食率）を高める政策を展開していることから、必然的にPOSデータ上でも北海道産品種のウェイトが高くなっている。販売割合上位30産地品種等を銘柄からみても、北海道ななつぼし（33.4%）を筆頭に、北海道ゆめぴりか（14.3%）、北海道きたくりん（10.0%）と続き、北海道産は8銘柄（前年度同）と最多になっている。また上位30位以内に、2016年度に新たにランクインした銘柄はなく、宮城コシヒカリ、宮城ひとめぼれ、熊本森のくまさん、山形はえぬき、青森晴天の霹靂は圏外となっている。

産地別販売割合（単位：%）	
北海道(2016)	
北海道	79.5
茨城	5.5
新潟	5.0
ブレンド米	3.4
	93.4
ブロック内産地の占有割合(2016年度)	
北海道	79.5%
ブロック内産地の占有割合(2015年度)	
北海道	75.9%

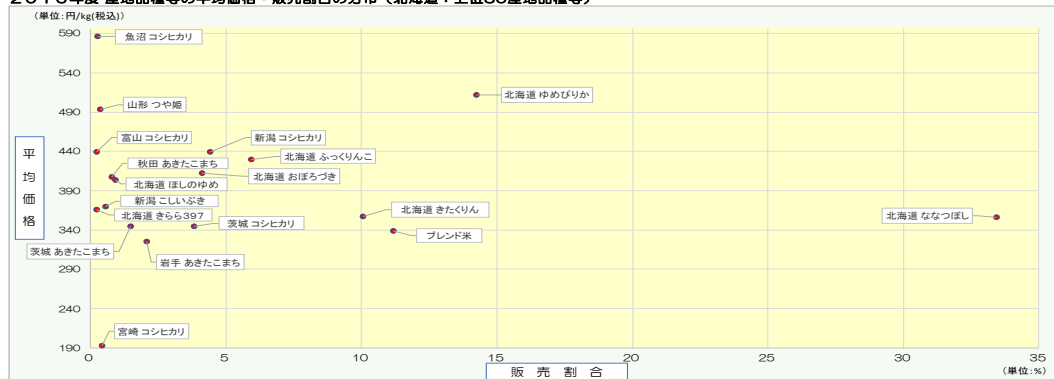
北海道					
産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
魚沼 コシヒカリ	586	0.2	北海道 きたくりん	357	10.0
北海道 ゆめぴりか	512	14.3	北海道 ななつぼし	356	33.4
山形 つや姫	493	0.4	茨城 あきたこまち	345	1.5
新潟 コシヒカリ	439	4.4	茨城 コシヒカリ	345	3.8
富山 コシヒカリ	439	0.2	ブレンド米	339	11.2
北海道 ふっくりんこ	430	5.9	岩手 あきたこまち	325	2.1
北海道 おほろづき	412	4.1	宮崎 コシヒカリ	193	0.4
秋田 あきたこまち	407	0.8			62.4
北海道 ほしのゆめ	404	0.9			
新潟 こしいぶき	370	0.6			
北海道 きらら397	366	0.2			
1kg当たり平均単価(北海道)	358	32.0			

下線は2016年度にランクインした産地品種

販売割合上位銘柄等を価格からみると、北海道ブロック平均価格（358 円/kg、12 ページ右上表参照）以上は魚沼コシヒカリなど11銘柄（前年度▲1銘柄）、うち北海道ブロック産が5銘柄（同+2銘柄）、同平均価格未満が7銘柄等（同▲5銘柄）となっている。同平均価格以上の銘柄の販売割合は32.0%（同+3.1ポイント）、同平均価格未満の販売割合は62.4%（同▲5.4ポイント）となっており、北海道ブロックでは比較的価格の安い銘柄等の販売が堅調となっている。



2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布（北海道：上位30産地品種等）



産地品種	販売割合	平均価格	産地品種	販売割合	平均価格
1 北海道 ななつぼし	33.4	356 (+51)	11 北海道 ほしのゆめ	0.9	404 (+74)
2 北海道 ゆめぴりか	14.3	512 (+3)	12 秋田 あきたこまち	0.8	407 (+52)
3 ブレンド米	11.2	339 (+37)	13 新潟 こしいぶき	0.6	370 (+23)
4 北海道 きたくりん	10.0	357 (+55)	14 宮崎 コシヒカリ	0.4	193 (+59)
5 北海道 ふっくりんこ	5.9	430 (+57)	15 山形 つや姫	0.4	493 (+48)
6 新潟 コシヒカリ	4.4	439 (+10)	16 魚沼 コシヒカリ	0.2	586 (+12)
7 北海道 おほろづき	4.1	412 (+79)	17 富山 コシヒカリ	0.2	439 (+37)
8 茨城 コシヒカリ	3.8	345 (+36)	18 北海道 きらら397	0.2	366 (+61)
9 岩手 あきたこまち	2.1	325 (+54)			
10 茨城 あきたこまち	1.5	345 (+58)			

注1：集計対象はうるち種米（慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む）。

注2：販売割合はうるち種米の総重量に占める割合。（）内は前年の販売割合との差(ポイント)。

注3：平均価格は当該産地品種の加重平均価格（税込）。（）内は前年の平均価格との差。

(イ) 東北ブロック

販売数量に占める産地別の販売割合は、東北ブロック産が79.6%（前年度+4.0ポイント）となっており、県別では青森県産が27.9%（前年度+11.7ポイント）と最も高く、次いで山形県産が20.1%、宮城県産が17.7%となっている。前年度4位の青森県産が1位に躍進したことから、山形県産以下は1ランクずつ昨年度から順位を下げている。

銘柄別の販売シェアでは、青森つがるロマン（29.6%）を筆頭に東北ブロック産が15銘柄（前年度▲1銘柄）を占めている。2016年度では、上位30位内に岩手銀河のしずくと青森まっしぐらがランクインし、茨城あきたこまち、岩手どんぴしゃり、宮崎コシヒカリ、宮城たきたて、宮城つや姫は圏外となっている。

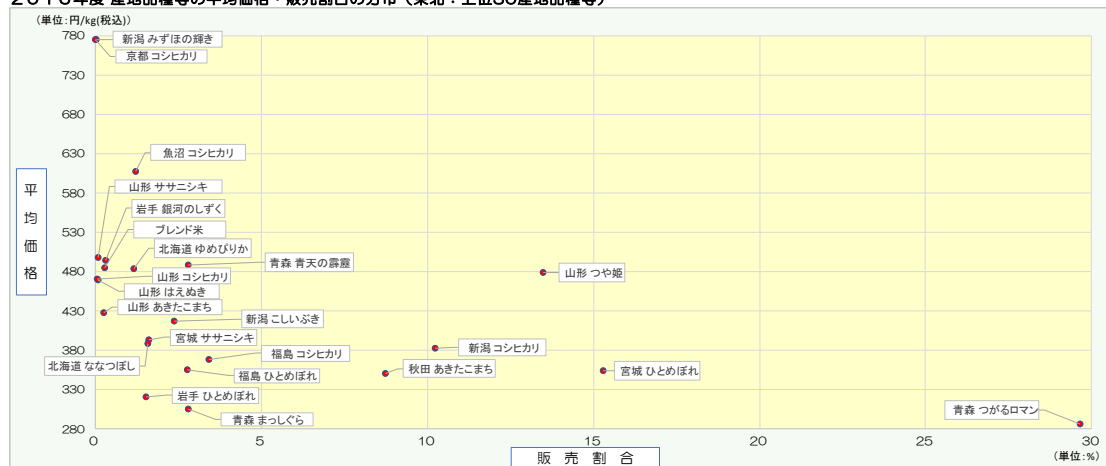
販売割合上位銘柄等を価格からみると、東北ブロック平均価格（364円/kg、12ページ右上表参照）以上で販売されているのは新潟みずほの輝きなど16銘柄等（前年度+1銘柄）、うち東北ブロック産が8銘柄（同+1銘柄）、同平均価格未満が7銘柄（同▲5銘柄）となっている。同平均価格以上の銘柄等の販売割合は35.4%（同▲7.3ポイント）、同平均価格未満の販売割合は64.1%（同+7.2ポイント）となっており、東北ブロックでは比較的価格の安い銘柄の販売が堅調となっている。

産地別販売割合（単位：%）		
東北(2016) (前年度差)		
青森	27.9	11.7
山形	20.1	0.8
宮城	17.7	▲1.6
新潟	14.3	▲4.2
	93.9	
ブロック内産地の占有割合(2016年度)		
東北		
	79.6%	
ブロック内産地の占有割合(2015年度)		
東北		
	75.6%	

産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
新潟 みずほの輝き	776	0.0	福島 コシヒカリ	368	3.4
京都 コシヒカリ	775	0.0	福島 ひとめぼれ	355	2.8
魚沼 コシヒカリ	608	1.2	宮城 あきたこまち	354	15.3
山形 ササニシキ	498	0.1	秋田 あきたこまち	350	8.7
岩手 銀河のしずく	495	0.3	岩手 ひとめぼれ	321	1.5
青森 青天の霹靂	489	2.8	青森 まっしぐら	304	2.8
ブレンド米	485	0.3	青森 つがるロマン	296	29.6
北海道 ゆめぴりか	484	1.2			64.1
山形 つや姫	479	13.5			
山形 コシヒカリ	471	0.0			
山形 はえぬき	469	0.1			
山形 あきたこまち	428	0.2			
新潟 こしいぶき	417	2.4			
宮城 ササニシキ	393	1.6			
北海道 ななつぼし	388	1.6			
新潟 コシヒカリ	382	10.2			
1kg当たり平均価格(東北)	381	35.4			

下線は2016年度にランクインした産地品種

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布（東北：上位30産地品種等）



産地品種	販売割合	平均価格
1 青森 つがるロマン	29.6 (+14.4)	296 (+16)
2 宮城 ひとめぼれ	15.3 (-1.9)	354 (+29)
3 山形 つや姫	13.5 (-2.2)	479 (0)
4 新潟 コシヒカリ	10.2 (-3.5)	382 (+22)
5 秋田 あきたこまち	8.7 (-5.9)	350 (+38)
6 福島 コシヒカリ	3.4 (+0.9)	368 (+9)
7 青森 まっしぐら	2.8 -	304 -
8 青森 青天の霹靂	2.8 -	489 -
9 福島 ひとめぼれ	2.8 (-0.9)	355 (+70)
10 新潟 こしいぶき	2.4 (-0.6)	417 (+29)

産地品種	販売割合	平均価格
11 宮城 ササニシキ	1.6 (-0.4)	393 (+1)
12 北海道 ななつぼし	1.6 (+0.5)	388 (+33)
13 岩手 ひとめぼれ	1.5 (+0.5)	321 (-12)
14 魚沼 コシヒカリ	1.2 (-0.7)	608 (+51)
15 北海道 ゆめぴりか	1.2 (-0.8)	484 (+38)
16 岩手 銀河のしずく	0.3 -	495 -
17 ブレンド米	0.3 (-0.2)	485 (+19)
18 山形 あきたこまち	0.2 (-0.1)	428 (+32)
19 山形 はえぬき	0.1 (-2.4)	469 (+153)
20 山形 ササニシキ	0.1 (0.0)	498 (+42)

産地品種	販売割合	平均価格
21 山形 コシヒカリ	0.04 (-0.7)	471 (+123)
22 新潟 みずほの輝き	0.01 (0.0)	776 (-7)
23 京都 コシヒカリ	0.01 (0.0)	775 (0)
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
全体		364 (+7)

注1：集計対象はうるち精米（慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む）。
 注2：販売割合はうるち精米の総重量に占める割合。（）内は前年の販売割合との差(ポイント)。
 注3：平均価格は当該産地品種の加重平均価格（税込）。（）内は前年の平均価格との差。

(ウ) 関東ブロック

販売数量に占める産地別の販売割合は、関東ブロック産が 50.4% (前年度▲1.8 ポイント) となっており、県別では茨城県産が 24.6% (前年度▲1.1 ポイント) と最も高く、次いで栃木県産が 22.4%、秋田県産が 15.3% となっている。上位 3 産地の順位は前年度同となっている。

銘柄別の販売シェアでは、茨城コシヒカリ (19.5%) を筆頭に関東ブロック産が 10 銘柄 (前年度▲3 銘柄) を占めている。2016 年度では、上位 30 位内に茨城ミルキークイーン、宮城つや姫、熊本森のくまさん、秋田ひとめぼれ、青森まっしぐら、青森晴天の霹靂、北海道きたくりんがランクインし、茨城はるみ、茨城ゆめひたち、宮崎コシヒカリ、宮城ひとめぼれ、群馬あさひの夢、埼玉彩のかがやき、青森つがるロマンは圏外となっている。

販売割合上位銘柄等を価格からみると、関東ブロック平均価格 (335 円/kg、12 ページ右上表参照) 以上で販売されているのは魚沼コシヒカリなど 22 銘柄等

(前年度+11 銘柄)、うち関東ブロック産が 6 銘柄 (同+4 銘柄)、同平均価格未満が 8 銘柄 (同▲11 銘柄) となっており、比較的低価格な銘柄が極端に減少している。同平均価格以上の銘柄等の販売割合は 64.6% (同+22.7 ポイント)、同平均価格未満の販売割合は 31.8% (同▲21.8 ポイント) となっており、関東ブロックでは比較的低価格の低い銘柄でも、販売が堅調となっている。

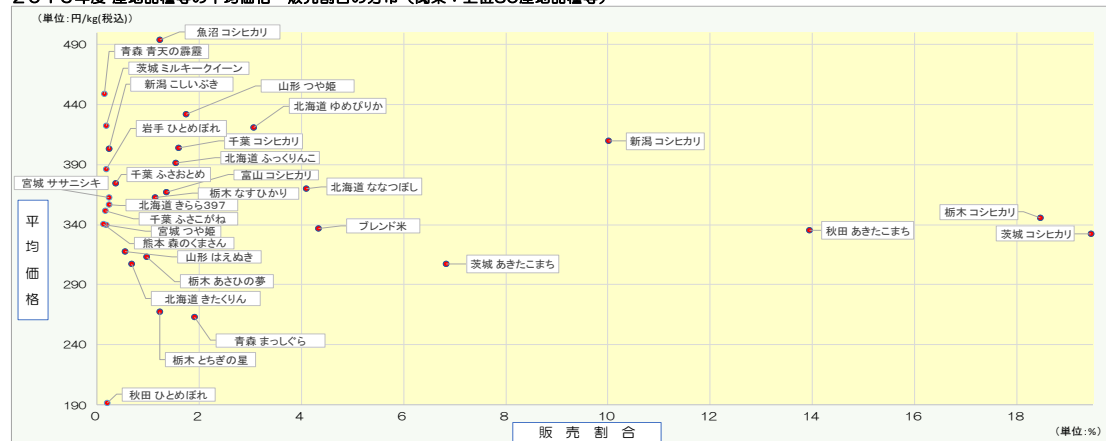
産地別販売割合 (単位: %)

関東 (2016) (前年度差)		
茨城	24.6	▲1.1
栃木	22.4	▲0.7
秋田	15.3	3.6
北海道	10.9	0.8
	90.2	
ブロック内産地の占有割合(2016年度)		
関東		
	50.4%	
ブロック内産地の占有割合(2015年度)		
関東		
	52.2%	

産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
魚沼 コシヒカリ	494	1.2	茨城 コシヒカリ	333	19.5
青森 晴天の霹靂	449	0.1	山形 はるみ	218	0.3
山形 つや姫	432	1.8	栃木 あさひの夢	313	1.0
茨城 ミルキークイーン	422	0.2	北海道 きたくりん	308	0.7
北海道 ゆめひかり	421	3.1	茨城 あきたこまち	297	6.8
新潟 コシヒカリ	410	10.0	栃木 とちぎの星	297	1.2
千葉 コシヒカリ	404	1.6	青森 まっしぐら	263	1.9
新潟 こしいぶき	403	0.2	秋田 ひとめぼれ	191	0.2
北海道 ふつりんこ	392	1.5			31.8
岩手 ひとめぼれ	387	0.2			
千葉 ふさおとめ	375	0.4			
北海道 ななつぼし	370	4.1			
富山 コシヒカリ	367	1.4			
宮城 ササニシキ	363	0.2			
栃木 なすひかり	363	1.1			
北海道 きらら397	357	0.2			
千葉 ふささがね	352	0.2			
栃木 コシヒカリ	346	18.5			
熊本 森のくまさん	341	0.1			
茨城 つや姫	340	0.2			
ブレンド米	337	4.3			
秋田 あきたこまち	335	14.0			
1kg当たり平均価格(関東)	335	64.6			

下線は2016年度にランクインした産地品種

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布 (関東: 上位30産地品種等)



産地品種	販売割合	平均価格	産地品種	販売割合	平均価格	産地品種	販売割合	平均価格
1 茨城 コシヒカリ	19.5 (+1.8)	333 (+43)	11 千葉 コシヒカリ	1.6 (+0.1)	404 (+44)	21 新潟 こしいぶき	0.2 (+0.6)	403 (+118)
2 栃木 コシヒカリ	18.5 (+1.1)	346 (+33)	12 北海道 ふつりんこ	1.5 (+0.9)	392 (+47)	22 北海道 きらら397	0.2 (+0.5)	357 (+43)
3 秋田 あきたこまち	14.0 (+2.2)	335 (+37)	13 富山 コシヒカリ	1.4 (+0.5)	367 (+21)	23 宮城 ササニシキ	0.2 (+0.4)	363 (+100)
4 新潟 コシヒカリ	10.0 (+2.1)	410 (+18)	14 栃木 とちぎの星	1.2 (+0.6)	267 (+55)	24 秋田 ひとめぼれ	0.2	191
5 茨城 あきたこまち	6.8 (+0.1)	307 (+26)	15 魚沼 コシヒカリ	1.2 (0.0)	494 (+37)	25 宮城 つや姫	0.2 (+0.2)	340 (+32)
6 ブレンド米	4.3 (+1.4)	337 (+79)	16 栃木 なすひかり	1.1 (+0.8)	363 (+63)	26 岩手 ひとめぼれ	0.2 (+1.0)	387 (+108)
7 茨城 ななつぼし	4.1 (+0.4)	370 (+51)	17 栃木 あさひの夢	1.0 (+0.9)	313 (+84)	27 茨城 ミルキークイーン	0.2 (0.0)	422 (+54)
8 北海道 ゆめひかり	3.1 (+0.1)	421 (+10)	18 北海道 きたくりん	0.7	308	28 千葉 ふささがね	0.2 (+0.3)	352 (+79)
9 青森 まっしぐら	1.9 (+1.7)	263 (+19)	19 山形 はるみ	0.5 (+0.5)	318 (+51)	29 青森 晴天の霹靂	0.1	449
10 山形 つや姫	1.8 (+0.7)	432 (+6)	20 千葉 ふさおとめ	0.4 (+0.6)	375 (+89)	30 熊本 森のくまさん	0.1 (+0.1)	341 (+25)
						全体		352 (+40)

注1: 集計対象はうるち精米(慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む)。

注2: 販売割合はうるち精米の総重量に占める割合。()内は前年の販売割合との差(ポイント)。

注3: 平均価格は当該産地品種の加重平均価格(税込)。()内は前年の平均価格との差。

(エ) 京浜ブロック

販売数量に占める産地別合は新潟県産が 28.9% (前年度▲4.8 ポイント) と最も高く、次いで秋田県産が 27.3%、北海道産が 22.3% となっている。前年度から 2 位と 3 位が入れ替わり、前年度 7 位の山形県産が 4 位に上昇している。

銘柄別の販売シェアでは、新潟県産コシヒカリ (30.5%) を筆頭に北海道産と北陸産が各々 4 銘柄 (北海道産は前年度同、北陸産は同▲3 銘柄)、東北産が 12 銘柄 (同+3 銘柄)、関東産が 9 銘柄 (同+3 銘柄) を占めている。前年度にランクインしていた近畿産と九州産は圏外となっている。

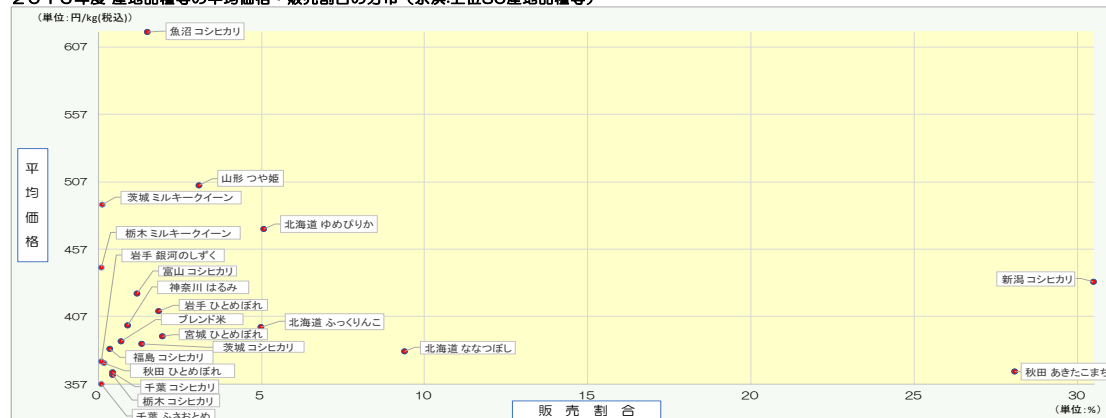
2016 年度では、上位 30 位内に茨城ミルキークイーン、岩手いわてっこ、岩手銀河のしずく、秋田ひとめぼれ、神奈川はるみ、青森晴天の霹靂、栃木ミルキークイーン、福島コシヒカリ、北海道きたくりんがランクインし、宮崎コシヒカリ、宮城ササニシキ、佐賀コシヒカリ、新潟

産地別販売割合 (単位: %)		
京浜 (2016)		
(前年度差)		
新潟	28.9	▲4.8
秋田	27.3	9.5
北海道	22.3	▲4.4
山形	3.4	1.1
	91.7	
ブロック内産地の占有割合(2016年度)		
京浜		
—		
ブロック内産地の占有割合(2015年度)		
京浜		
—		

産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
青森 晴天の霹靂	722	0.1	茨城 コシヒカリ	387	1.3
魚沼 コシヒカリ	618	1.5	福島 コシヒカリ	383	0.4
山形 つや姫	504	3.1	北海道 ななつぼし	381	9.4
茨城 ミルキークイーン	490	0.1	岩手 銀河のしずく	374	0.1
北海道 ゆめぴりか	472	5.1	秋田 ひとめぼれ	372	0.2
栃木 ミルキークイーン	443	0.1	秋田 あきたこまち	366	28.1
新潟 コシヒカリ	433	30.5	千葉 コシヒカリ	366	0.4
富山 コシヒカリ	424	1.2	栃木 コシヒカリ	364	0.4
岩手 ひとめぼれ	411	1.9	千葉 ふさおとめ	357	0.1
神奈川 はるみ	400	0.9	茨城 あきたこまち	357	0.3
北海道 ふっくりんこ	399	5.0	山形 はえぬき	349	0.5
宮城 ひとめぼれ	393	2.0	新潟 こしいぶき	346	2.2
ブレンド米	389	0.7	岩手 どんびしゃり	344	1.9
1kgあたり平均単価(京浜)	388	52.1	岩手 いわてっこ	332	0.1
下掲は2016年度にランクインした産地品種					
			青森 まっしぐら	329	0.8
			北海道 きたくりん	326	0.2
			千葉 ふさこがね	323	0.8
					47.0

越路早生、青森つがるロマン、石川コシヒカリ、石川ゆめみずほ、兵庫コシヒカリ、北海道きらら397は圏外となっている。販売割合上位銘柄等を価格からみると、京浜ブロック平均価格 (388 円/kg、12 ページ右上表参照) 以上で販売されているのは晴天の霹靂など 13 銘柄等 (前年度+5 銘柄)、同平均価格未満が 17 銘柄 (同▲5 銘柄) となっている。同平均価格以上の銘柄の販売割合は 52.1% (同+9.1 ポイント)、同平均価格未満の販売割合は 47.0% (同▲8.4 ポイント) となっており、京浜ブロックでは比較的価格の高い銘柄等と安い銘柄の販売がほぼ拮抗している。

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布 (京浜:上位30産地品種等)



産地品種	販売割合	平均価格	産地品種	販売割合	平均価格	産地品種	販売割合	平均価格
1 新潟 コシヒカリ	30.5 (+0.9)	433 (+14)	11 魚沼 コシヒカリ	1.5 (+1.3)	618 (+43)	21 福島 コシヒカリ	0.4 (+0.3)	383 (+3)
2 秋田 あきたこまち	28.1 (+10.4)	366 (+10)	12 茨城 コシヒカリ	1.3 (+0.2)	387 (+66)	22 茨城 あきたこまち	0.3 (+0.3)	357 (+33)
3 北海道 ななつぼし	9.4 (+0.9)	381 (+26)	13 富山 コシヒカリ	1.2 (+1.1)	424 (+36)	23 北海道 きたくりん	0.2	326
4 北海道 ゆめぴりか	5.1 (+0.9)	472 (+4)	14 神奈川 はるみ	0.9	400	24 秋田 ひとめぼれ	0.2 (0.0)	372 (+92)
5 北海道 ふっくりんこ	5.0 (+5.3)	399 (+50)	15 青森 まっしぐら	0.8 (+0.1)	329 (+69)	25 茨城 ミルキークイーン	0.1 (+0.1)	490 (+44)
6 山形 つや姫	3.1 (+1.3)	504 (+28)	16 千葉 ふさこがね	0.8 (+0.3)	323 (+62)	26 岩手 いわてっこ	0.1 (0.0)	332 (+18)
7 新潟 こしいぶき	2.2 (+1.4)	346 (+19)	17 ブレンド米	0.7 (+1.0)	389 (+64)	27 青森 晴天の霹靂	0.1	722
8 宮城 ひとめぼれ	2.0 (+0.6)	393 (+46)	18 山形 はえぬき	0.5 (0.0)	349 (+33)	28 千葉 ふさおとめ	0.1 (+0.7)	357 (+38)
9 岩手 どんびしゃり	1.9 (+0.5)	344 (+79)	19 栃木 コシヒカリ	0.4 (+0.9)	364 (+30)	29 栃木 ミルキークイーン	0.1	443
10 岩手 ひとめぼれ	1.9 (0.0)	411 (+46)	20 千葉 コシヒカリ	0.4 (+0.5)	366 (+30)	30 岩手 銀河のしずく	0.1	374

注 1: 集計対象はうるち秣米 (慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む)。
注 2: 販売割合はうるち秣米の総重量に占める割合。()内は前年の販売割合との差(ポイント)。
注 3: 平均価格は当該産地品種の加重平均価格 (税込)。()内は前年の平均価格との差。

(オ) 北陸ブロック

販売数量に占める産地別の販売割合は、北陸ブロック産が 65.2% (前年度▲2.6 ポイント) となっており、県別では福井県産が 28.3% (前年度+4.7 ポイント) と最も高く、次いで新潟県産が 24.7%、青森県産が 12.9% となっている。上位 3 産地のうち前年度の 1 位と 2 位が逆転し、青森県産が順位を一つ上げている。

銘柄別の販売シェアでは、福井コシヒカリ (19.9%) を筆頭に北陸ブロック産が 14 銘柄 (前年度同) を占めている。2016 年度では、上位 30 位内に熊本ヒノヒカリ、新潟ミルキークイーン、福井ミルキークイーンがランクインし、岩手ひとめぼれ、宮崎コシヒカリ、山梨ヒノヒカリ、秋田ひとめぼれ、新潟越路早生、千葉コシヒカリ、千葉ふさおとめは圏外となっている。

販売割合上位銘柄等を価格からみると、北陸ブロック平均価格 (357 円/kg、12 ページ右上表参照) 以上で販売されているのは山形つや姫など 20 銘柄 (前年度+1 銘柄)、うち北陸ブロック産が 11 銘柄 (同+2 銘柄)、同平均価格未満が 6 銘柄等 (同▲5 銘柄) となっている。同平均価格以上の銘柄の販売割合は 55.2% (同+7.7 ポイント)、同平均価格未満の販売割合は 43.0% (同▲8.7 ポイント) となっており、北陸ブロックでは比較的価格の高い銘柄と安い銘柄等の販売がほぼ拮抗している。

産地別販売割合 (単位: %)		
北陸 (2016)		
福井	28.3	4.7
新潟	24.7	0.6
青森	12.9	3.5
長野	12.2	▲7.8
	95.9	
ブロック内産地の占有割合(2016年度)		
北陸		
	65.2%	
ブロック内産地の占有割合(2015年度)		
北陸		
	67.8%	

北陸					
産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
山形 つや姫	800	0.0	長野 風さやか	355	0.1
福井 ミルキークイーン	735	0.0	長野 あきたこまち	353	0.3
魚沼 コシヒカリ	590	4.8	福井 コシヒカリ	323	19.9
長野 ミルキークイーン	497	0.3	ブレンド米	320	6.7
茨城 ミルキークイーン	485	0.1	青森 まっしら	317	15.3
北海道 ゆめぴりか	480	2.5	熊本 コシヒカリ	291	0.7
新潟 ミルキークイーン	446	0.1		430	
秋田 あきたこまち	437	0.2			
宮城 ササニシキ	426	0.1			
山梨 コシヒカリ	428	0.1			
宮城 つや姫	421	0.5			
新潟 コシヒカリ	418	15.9			
熊本 ヒノヒカリ	409	0.0			
福井 ハナエチゼン	408	0.8			
富山 コシヒカリ	406	0.1			
長野 コシヒカリ	395	7.9			
新潟 こしいぶき	385	3.9			
福井 あきさき	376	0.2			
北海道 ななつぼし	370	6.3			
宮城 ひとめぼれ	364	11.3			
1kg当たり平均単価(北陸)	357	55.2			

下欄は2016年度にランクインした産地品種

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布 (北陸: 上位30産地品種等)



産地品種	販売割合	平均価格
1 福井 コシヒカリ	19.9 (-1.1)	323 (+11)
2 新潟 コシヒカリ	15.9 (-2.0)	418 (+12)
3 青森 まっしら	15.3 (-5.9)	317 (+48)
4 宮城 ひとめぼれ	11.3 (-4.9)	364 (+9)
5 長野 コシヒカリ	7.9 (-3.6)	395 (+29)
6 ブレンド米	6.7 (-0.5)	320 (+40)
7 北海道 ななつぼし	6.3 (-2.3)	370 (+15)
8 魚沼 コシヒカリ	4.8 (-0.1)	590 (+15)
9 新潟 こしいぶき	3.9 (-1.1)	385 (+53)
10 北海道 ゆめぴりか	2.5 (-0.4)	480 (+6)

産地品種	販売割合	平均価格
11 福井 ハナエチゼン	0.8 (-1.1)	408 (+51)
12 熊本 コシヒカリ	0.7 (-0.1)	291 (-74)
13 宮城 つや姫	0.5 (-0.3)	421 (+67)
14 長野 あきたこまち	0.3 (-4.4)	353 (+45)
15 長野 ミルキークイーン	0.3 (-0.1)	497 (+39)
16 福井 あきさき	0.2 (-0.2)	376 (-3)
17 秋田 あきたこまち	0.2 (-0.4)	437 (+10)
18 山梨 コシヒカリ	0.1 (-0.1)	428 (+18)
19 宮城 ササニシキ	0.1 (-0.1)	426 (+54)
20 富山 コシヒカリ	0.1 (0.0)	406 (-8)

産地品種	販売割合	平均価格
21 茨城 ミルキークイーン	0.1 (0.0)	485 (+35)
22 長野 風さやか	0.1 (-2.9)	355 (+66)
23 新潟 ミルキークイーン	0.1 -	446 -
24 福井 ミルキークイーン	0.02 (0.0)	735 (-1)
25 山形 つや姫	0.01 (0.0)	800 (+93)
26 熊本 ヒノヒカリ	0.00 (0.0)	409 (+14)
27		
28		
29		
30		
全体		372 (+23)

注1: 集計対象はうるち精米 (慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む)。
 注2: 販売割合はうるち精米の総重量に占める割合。()内は前年の販売割合との差(ポイント)。
 注3: 平均価格は当該産地品種の加重平均価格 (税込)。()内は前年の平均価格との差。

(カ) 東海ブロック

販売数量に占める産地別の販売割合は、東海ブロック産が 36.1%（前年度▲7.3 ポイント）となっており、県別では秋田県産が 15.6%（前年度▲1.8 ポイント）と最も高く、次いで岐阜県産が 13.8%、北海道産が 13.2%となっている。上位 3 産地のうち前年度の 1 位と 2 位が逆転し、北海道産が順位を一つ上げている。

銘柄別の販売シェアでは、新潟コシヒカリ（12.7%）を筆頭に東海ブロック産が 8 銘柄（同▲3 銘柄）を占めている。2016 年度では、上位 30 位内に愛知ミネアサヒ、岩手ひとめぼれ、岐阜龍の瞳、熊本ミズホチカラ、佐賀さがびより、三重みえのえみ、新潟こしいぶき、青森晴天の霹靂、長野あきたこまち、富山てんたかく、北海道きらら 397 がランクインし、愛知あきたこまち、愛知ひとめぼれ、岐阜あきたこまち、岐阜コシヒカリ、岐阜ひとめぼれ、宮崎コシヒカリ、宮城つや姫、高知コシヒカリ、三重あきたこまち、青森まっしぐら、鳥取コシヒカリは圏外となっている。

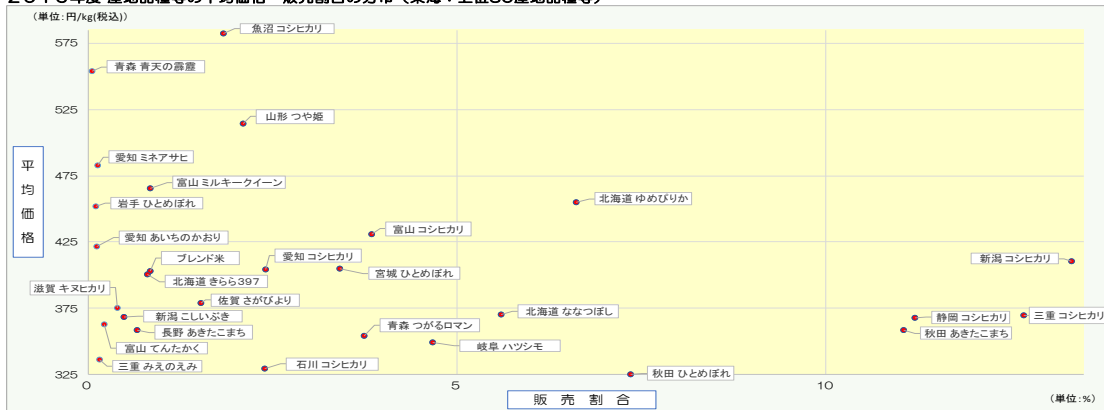
産地別販売割合（単位：%）		
東海（2016）（前年度差）		
秋田	15.6	▲1.8
岐阜	13.8	▲6.0
北海道	13.2	2.3
三重	12.4	0.2
	91.6	
ブロック内産地の占有割合（2016年度）		
東海		
	36.1%	
ブロック内産地の占有割合（2015年度）		
東海		
	43.4%	

産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
熊本 ミズホチカラ	833	0.1	北海道 ななつぼし	370	5.6
岐阜 龍の瞳	663	0.1	三重 コシヒカリ	370	12.7
魚沼 コシヒカリ	582	1.8	新潟 こしいぶき	368	0.5
青森 晴天の霹靂	554	0.1	静岡 コシヒカリ	368	11.2
山形 つや姫	514	2.1	富山 てんたかく	363	0.2
愛知 ミネアサヒ	483	0.1	長野 あきたこまち	358	0.7
富山 ミルキークイーン	466	0.8	秋田 あきたこまち	358	11.0
北海道 ゆめぴりか	455	6.6	青森 つがるロマン	354	3.7
岐阜 ひとめぼれ	452	0.1	岐阜 ハツシモ	349	4.7
富山 コシヒカリ	431	3.8	青森 龍の瞳	336	0.2
愛知 あいちのかおり	421	0.1	石川 コシヒカリ	329	2.4
新潟 コシヒカリ	410	13.3	秋田 ひとめぼれ	325	7.4
宮城 ひとめぼれ	405	3.4			60.2
愛知 コシヒカリ	404	2.4			
ブレンド米	403	0.8			
北海道 きらら397	400	0.8			
佐賀 さがびより	379	1.5			
滋賀 キヌヒカリ	375	0.4			
1kg当たり平均単価（東海）	371	38.5			

下線は2016年度にランクインした産地品種

販売割合上位銘柄等を価格からみると、東海ブロック平均価格（371 円/kg、12 ページ右上表参照）以上で販売されているのは熊本ミズホチカラなど 18 銘柄等（前年度+1 銘柄）、うち東海ブロック産が 4 銘柄（同▲2 銘柄）、同平均価格未満が 12 銘柄（同▲1 銘柄）となっている。同平均価格以上の銘柄の販売割合は 38.5%（同▲8.3 ポイント）、同平均価格未満の販売割合は 60.2%（同+9.9 ポイント）となっており、東海ブロックでは比較的価格の安い銘柄の販売が堅調となっている。

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布（東海：上位30産地品種等）



産地品種	販売割合	平均価格
1 新潟 コシヒカリ	13.3 (+6.2)	410 (+10)
2 三重 コシヒカリ	12.7 (+1.2)	370 (+27)
3 静岡 コシヒカリ	11.2 (+3.0)	368 (+23)
4 秋田 あきたこまち	11.0 (-6.0)	358 (+75)
5 秋田 ひとめぼれ	7.4 (-7.0)	325 (-5)
6 北海道 ゆめぴりか	6.6 (+1.6)	455 (+11)
7 北海道 ななつぼし	5.6 (0.0)	370 (+47)
8 岐阜 ハツシモ	4.7 (-6.2)	349 (+75)
9 富山 コシヒカリ	3.8 (-1.5)	431 (+90)
10 青森 つがるロマン	3.7 (+1.6)	354 (+61)

産地品種	販売割合	平均価格
11 宮城 ひとめぼれ	3.4 (+0.9)	405 (+39)
12 愛知 コシヒカリ	2.4 (+0.7)	404 (-7)
13 石川 コシヒカリ	2.4 (+1.8)	329 (+31)
14 山形 つや姫	2.1 (+1.0)	514 (-14)
15 魚沼 コシヒカリ	1.8 (+0.7)	582 (+43)
16 佐賀 さがびより	1.5 (+1.4)	379 (+26)
17 ブレンド米	0.8 (+0.3)	403 (-34)
18 富山 ミルキークイーン	0.8 (+0.6)	466 (+64)
19 北海道 きらら397	0.8 (+0.7)	400 (+85)
20 長野 あきたこまち	0.7 (+0.5)	358 (+26)

産地品種	販売割合	平均価格
21 新潟 こしいぶき	0.5 (+0.2)	368 (+24)
22 滋賀 キヌヒカリ	0.4 (0.0)	375 (+25)
23 富山 てんたかく	0.2	363 -
24 三重 みえのえみ	0.2	336 -
25 愛知 ミネアサヒ	0.1 (+0.1)	483 (-14)
26 熊本 ミズホチカラ	0.1	833 -
27 愛知 あいちのかおり	0.1 (-0.1)	421 (+79)
28 岐阜 龍の瞳	0.1	663 -
29 岩手 ひとめぼれ	0.1	452 -
30 青森 晴天の霹靂	0.1	554 -
全 体		389 (+57)

注1：集計対象はうるち精米（慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む）。

注2：販売割合はうるち精米の総重量に占める割合。（）内は前年の販売割合との差(ポイント)。

注3：平均価格は当該産地品種の加重平均価格（税込）。（）内は前年の平均価格との差。

(キ) 近畿ブロック

販売数量に占める産地別の販売割合は、近畿ブロック産が 17.4%（前年度+2.0 ポイント）となっており、主産地を持たない京浜ブロック以外では最もブロック産比率が低い。県別では新潟県産が 14.5%（前年度▲2.8 ポイント）と最も高く、次いで北海道産が 14.1%、兵庫県産が 9.7%となっている。3 位までの順位は前年同となっている。

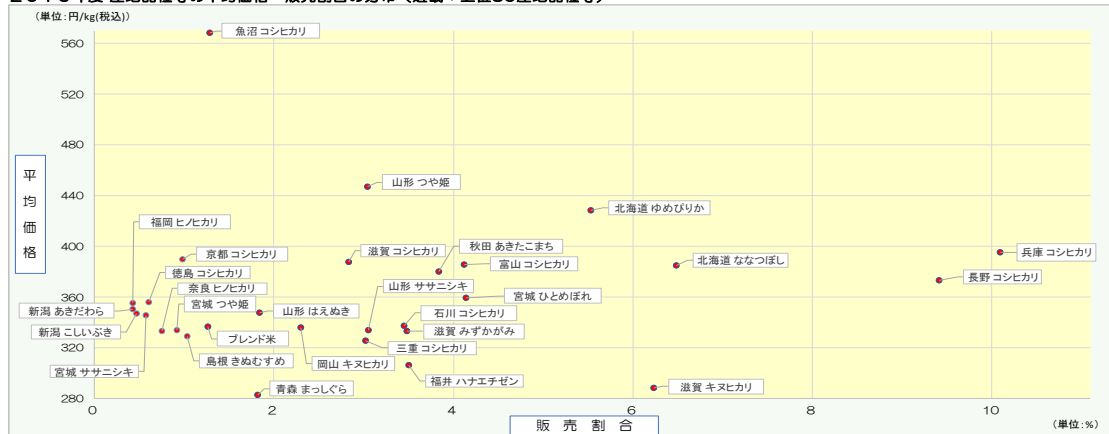
銘柄別の販売シェアでは、新潟コシヒカリ（11.1%）を筆頭に近畿ブロック産が 6 銘柄（同+1 銘柄）を占めている。2016 年度では、上位 30 位内に宮城ササニシキ、山形ササニシキ、滋賀みずかがみ、新潟あきたわら、青森まっしぐら、島根きぬむすめ、宮城つや姫、山形つや姫、北海道ゆめぴりかがランクインし、宮崎コシヒカリ、三重あきたこまち、石川ゆめみずほ、鳥取コシヒカリ、島根ハナエチゼン、北海道きらら 397 は圏外となっている。

販売割合上位銘柄等を価格からみると、近畿ブロック平均価格（358 円/kg、12 ページ右上表参照）以上で販売されているのは魚沼コシヒカリなど 12 銘柄（前年度+1 銘柄）、うち近畿ブロック産が 3 銘柄（同▲1 銘柄）、同平均価格未満が 18 銘柄等（同▲1 銘柄）となっている。同平均価格以上の銘柄の販売割合は 62.9%（同+20.0 ポイント）、同平均価格未満の販売割合は 35.2%（同▲18.7 ポイント）となっており、近畿ブロックでは比較的価格が高い銘柄でも、販売は堅調となっている。

産地別販売割合 (単位: %)		
近畿 (2016)		
(前年度差)		
新潟	14.5	▲2.8
北海道	14.1	4.1
兵庫	9.7	1.6
長野	8.2	0.4
	90.8	
ブロック内産地の占有割合(2016年度)		
近畿		
17.4%		
ブロック内産地の占有割合(2015年度)		
近畿		
15.4%		

近畿					
産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
魚沼 コシヒカリ	568	1.3	徳島 コシヒカリ	356	0.6
山形 つや姫	447	3.0	福岡 ヒノヒカリ	356	0.4
北海道 ゆめぴりか	428	5.5	新潟 あきたわら	350	0.4
新潟 コシヒカリ	405	11.1	山形 はえぬき	348	1.8
兵庫 コシヒカリ	395	10.1	新潟 こしいぶき	347	0.5
京都 コシヒカリ	390	1.0	宮城 ササニシキ	345	0.6
滋賀 コシヒカリ	387	2.8	石川 コシヒカリ	337	3.5
富山 コシヒカリ	386	4.1	ブレンド米	337	1.3
北海道 ななつぼし	385	6.5	岡山 キヌヒカリ	336	2.3
秋田 あきたこまち	380	3.8	宮城 つや姫	334	0.9
長野 コシヒカリ	373	9.4	山形 ササニシキ	334	3.1
宮城 ひとめぼれ	359	4.1	奈良 ヒノヒカリ	333	0.8
kg当たり平均単価(近畿)	358	62.9	滋賀 みずかがみ	333	3.5
			島根 きぬむすめ	329	1.0
			三重 コシヒカリ	326	3.0
			福井 ハナエチゼン	306	3.5
			滋賀 キヌヒカリ	289	6.2
			青森 まっしぐら	283	1.8
下線は2016年度にランクインした産地品種					35.2

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布（近畿：上位30産地品種等）



産地品種	販売割合	平均価格
1 新潟 コシヒカリ	11.1 (-2.1)	405 (+16)
2 兵庫 コシヒカリ	10.1 (-2.9)	395 (+20)
3 長野 コシヒカリ	9.4 (+1.6)	373 (+59)
4 北海道 ななつぼし	6.5 (+0.4)	385 (+21)
5 滋賀 キヌヒカリ	6.2 (+2.4)	289 (+34)
6 北海道 ゆめぴりか	5.5 (+1.9)	428 (+23)
7 宮城 ひとめぼれ	4.1 (-0.9)	359 (+35)
8 富山 コシヒカリ	4.1 (+0.4)	386 (+4)
9 秋田 あきたこまち	3.8 (+0.1)	380 (+62)
10 福井 ハナエチゼン	3.5 (-2.6)	306 (+23)

産地品種	販売割合	平均価格
11 滋賀 みずかがみ	3.5 -	333 -
12 石川 コシヒカリ	3.5 (-1.0)	337 (+29)
13 山形 ササニシキ	3.1 -	334 -
14 山形 つや姫	3.0 (+1.8)	447 (+7)
15 三重 コシヒカリ	3.0 (+0.7)	326 (+11)
16 滋賀 コシヒカリ	2.8 (-0.4)	387 (+15)
17 岡山 キヌヒカリ	2.3 (-3.3)	336 (+60)
18 山形 はえぬき	1.8 (-0.6)	348 (+45)
19 青森 まっしぐら	1.8 (+1.5)	283 (+45)
20 魚沼 コシヒカリ	1.3 (-0.3)	568 (+6)

産地品種	販売割合	平均価格
21 ブレンド米	1.3 (-0.2)	337 (+9)
22 島根 きぬむすめ	1.0 (+0.8)	329 (+87)
23 京都 コシヒカリ	1.0 (+0.2)	390 (+3)
24 宮城 つや姫	0.9 (+0.4)	334 (+59)
25 奈良 ヒノヒカリ	0.8 (+0.3)	333 (+5)
26 徳島 コシヒカリ	0.6 (-1.2)	356 (+46)
27 宮城 ササニシキ	0.6 (-0.3)	345 (+24)
28 新潟 こしいぶき	0.5 (-1.9)	347 (+87)
29 新潟 あきたわら	0.4 -	350 -
30 福岡 ヒノヒカリ	0.4 (-0.2)	356 (+58)
全 体		370 (+36)

注 1：集計対象はうるち精米（慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む）。
 注 2：販売割合はうるち精米の総重量に占める割合。（）内は前年の販売割合との差(ポイント)。
 注 3：平均価格は当該産地品種の加重平均価格（税込）。（）内は前年の平均価格との差。

(ク) 中国四国ブロック

販売数量に占める産地別の販売割合は、中国四国ブロック産が77.3%（前年度▲0.1ポイント）となっている。県別では島根県産が19.9%（前年度+0.5ポイント）と最も高く、次いで愛媛産が15.7%、香川県産が15.4%となっている。上位3産地のうち1位と2位の順位は前年度同であり、前年度4位の香川県産が順位を一つ上げている。

銘柄別の販売シェアでは、香川コシヒカリ（16.1%）を筆頭に中国四国ブロック産が21銘柄（同▲2銘柄）を占めている。2016年度では、上位30位内に宮城つや姫、山形つや姫、北海道ゆめぴりかがランクインし、愛媛ヒノヒカリ、宮崎コシヒカリ、鳥取ひとめぼれが圏外となっている。

販売割合上位銘柄等を価格からみると、中国四国ブロック平均価格（349円/kg、12ページ右上表参照）以上で販売されているのは魚沼コシヒカリなど20銘柄（前年度+7銘柄）、うち中国四国ブロック産が12銘柄（同+3銘柄）、同平均価格未満が10銘柄等（同▲7銘柄）となっている。同平均価格以上の銘柄の販売割合は59.9%（同+18.5ポイント）、同平均価格未満の販売割合は38.0%（同▲17.0ポイント）となっており、中国四国ブロックでは比較的価格の高い銘柄でも、販売は堅調となっている。

産地別販売割合（単位：%）		
中国四国(2016)	19.9	0.5
島根	15.7	▲0.1
愛媛	15.4	1.1
香川	14.5	▲0.4
山口	91.0	
ブロック内産地の占有割合(2016年度)		
中国四国	77.3%	
ブロック内産地の占有割合(2015年度)		
中国四国	77.4%	

中国四国					
産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
魚沼 コシヒカリ	656	0.8	徳島 コシヒカリ	347	0.6
北海道 ゆめぴりか	521	0.5	山口 晴るる	335	1.9
秋田 あきたこまち	501	0.5	愛媛 にこまる	327	3.8
山形 つや姫	472	0.3	ブレンド米	321	8.2
新潟 コシヒカリ	462	3.4	山口 ヒノヒカリ	321	0.3
鳥根 つや姫	446	0.8	山口 ひとめぼれ	321	3.8
広島 コシヒカリ	432	0.9	香川 ヒノヒカリ	318	0.8
山口 コシヒカリ	409	4.8	香川 あきたこまち	305	0.3
北海道 ななつぼし	397	1.3	山口 きぬむすめ	302	2.2
岡山 朝日	391	0.6	香川 コシヒカリ	297	16.1
広島 あきるまん	391	0.4			38.0
鳥根 コシヒカリ	388	14.7			
宮城 つや姫	386	1.4			
宮城 ひとめぼれ	373	1.8			
岡山 あきたこまち	370	4.0			
愛媛 あきたこまち	365	1.1			
岡山 コシヒカリ	363	6.5			
愛媛 コシヒカリ	355	7.7			
岡山 きぬむすめ	354	0.2			
鳥根 きぬむすめ	352	6.2			
1kgあたり平均単価(中国四国)	349	59.9			

下線は2016年度にランクインした産地品種

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布（中国四国：上位30産地品種等）



産地品種	販売割合	平均価格
1 香川 コシヒカリ	16.1 (+3.2)	297 (+3)
2 鳥根 コシヒカリ	14.7 (+5.8)	388 (+48)
3 岡山 コシヒカリ	8.5 (+5.0)	363 (+11)
4 ブレンド米	8.2 (+0.7)	327 (+53)
5 愛媛 コシヒカリ	7.7 (+0.7)	355 (+11)
6 鳥根 きぬむすめ	6.2 (+3.2)	352 (+67)
7 山口 コシヒカリ	4.8 (+0.9)	409 (+40)
8 岡山 あきたこまち	4.0 (+0.1)	370 (+40)
9 愛媛 にこまる	3.8 (+2.9)	327 (+13)
10 山口 ひとめぼれ	3.8 (+0.9)	321 (+22)

産地品種	販売割合	平均価格
11 新潟 コシヒカリ	3.4 (+0.2)	462 (+25)
12 山口 きぬむすめ	2.2 (+0.1)	302 (+39)
13 山口 晴るる	1.9 (+0.5)	335 (+45)
14 宮城 ひとめぼれ	1.8 (+2.8)	373 (+66)
15 宮城 つや姫	1.4 (+1.4)	386 (+29)
16 北海道 ななつぼし	1.3 (+0.3)	397 (+22)
17 愛媛 あきたこまち	1.1 (+0.1)	365 (+22)
18 広島 コシヒカリ	0.9 (+0.9)	432 (+51)
19 香川 ヒノヒカリ	0.8 (+0.1)	318 (+1)
20 鳥根 コシヒカリ	0.8 (+0.1)	656 (+27)

産地品種	販売割合	平均価格
21 鳥根 つや姫	0.8 (+0.3)	446 (+91)
22 徳島 コシヒカリ	0.6 (+0.1)	347 (+19)
23 岡山 朝日	0.6 (+1.1)	391 (+77)
24 秋田 あきたこまち	0.5 (+0.2)	501 (+84)
25 北海道 ゆめぴりか	0.5 (+0.2)	521 (+12)
26 広島 あきるまん	0.4 (+0.4)	391 (+63)
27 山形 つや姫	0.3 (+0.2)	472 (+1)
28 山口 ヒノヒカリ	0.3 (+0.7)	321 (+44)
29 香川 あきたこまち	0.3 (+0.4)	305 (+4)
30 岡山 きぬむすめ	0.2 (+0.3)	354 (+75)
全 体		359 (+35)

注1：集計対象はうるち精米（慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む）。
注2：販売割合はうるち精米の総重量に占める割合。（）内は前年の販売割合との差（ポイント）。
注3：平均価格は当該産地品種の加重平均価格（税込）。（）内は前年の平均価格との差。

(ケ) 九州ブロック

販売数量に占める産地別の販売割合は、九州ブロック産が 84.8%（前年度▲1.8 ポイント）となっており、全ブロック中最も比率が高い。県別では熊本県産が 26.5%（前年度▲1.8 ポイント）と最も高く、次いで宮崎県産が 23.2%、福岡産が 16.6%となっている。上位を九州ブロック産が独占している。

銘柄別の販売シェアでは、宮崎ヒノヒカリ（17.9%）を筆頭に九州産が 22 銘柄（同+1 銘柄）を占めている。2016 年度では、上位 30 位内に宮崎夏の笑み、熊本熊さんの力、鹿児島あきほなみ、大分ひとめぼれ、長崎ヒノヒカリ、北海道ゆめぴりかがランクインし、宮崎まいひかり、熊本あきまさり、熊本キヌヒカリ、山口きぬむすめ、鹿児島コシヒカリ、長野コシヒカリは圏外となっている。

販売割合上位銘柄等を価格からみると、九州ブロック平均価格（353 円/kg、12 ページ右上表参照）以上で販売されているのは魚沼コシヒカリなど 21 銘柄等（前年度+5 銘柄）、うち九州ブロック産が 15 銘柄（同+5 銘柄）、同平均価格未満が 9 銘柄等（同▲5 銘柄）となっている。同平均価格以上の銘柄の販売割合は 51.6%（同+1.7 ポイント）、平均価格未満の販売割合は 44.3%（同▲2.3 ポイント）となっており、九州ブロックでは比較的価格の高い銘柄等と安い銘柄の販売がほぼ拮抗している。

産地別販売割合（単位：%）

九州(2016)	前年度差
熊本	26.5 ▲1.8
宮崎	23.2 ▲0.6
福岡	16.6 ▲4.3
鹿児島	6.3 ▲1.0
90.9	

ブロック内産地の占有割合(2016年度)

九州
84.8%

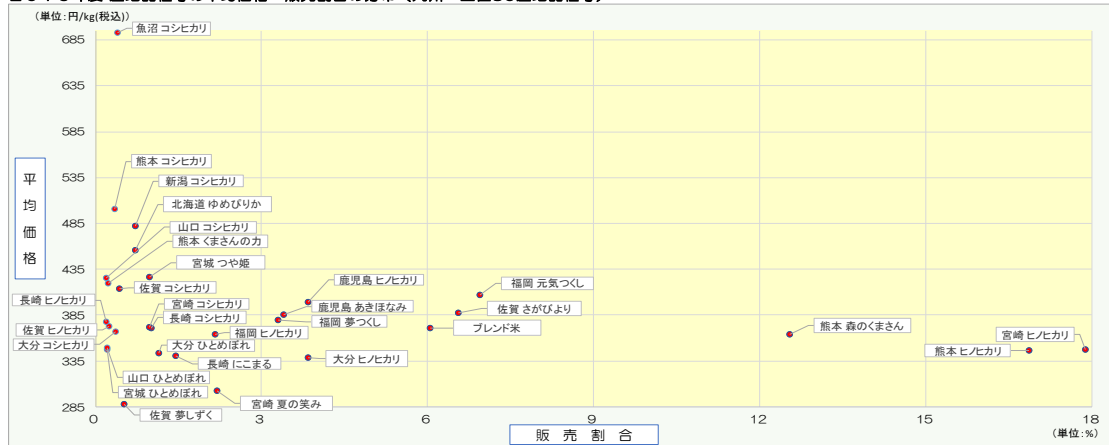
ブロック内産地の占有割合(2015年度)

九州
86.6%

九州	産地品種等	平均価格	販売割合	産地品種等	平均価格	販売割合
	魚沼 コシヒカリ	693	0.4	山口 ひとめぼれ	350	0.2
	熊本 コシヒカリ	500	0.3	宮崎 ヒノヒカリ	348	17.9
	新潟 コシヒカリ	482	0.7	宮崎 ひとめぼれ	347	0.2
	北海道 ゆめぴりか	456	0.7	熊本 ヒノヒカリ	347	16.9
	宮城 つや姫	427	1.0	大分 ひとめぼれ	344	1.1
	山口 コシヒカリ	426	0.2	長崎 にこまる	341	1.4
	熊本 くまさんの力	419	0.2	大分 ヒノヒカリ	338	3.8
	佐賀 コシヒカリ	413	0.4	宮崎 夏の笑み	303	2.2
	福岡 元気つくし	407	6.9	佐賀 夢しずく	288	0.5
	鹿児島 ヒノヒカリ	399	3.8		44.3	
	佐賀 さがびより	388	6.5			
	鹿児島 あきほなみ	386	3.4			
	福岡 夢つくし	380	3.3			
	長崎 ヒノヒカリ	377	0.2			
	佐賀 ヒノヒカリ	373	0.3			
	宮崎 コシヒカリ	371	1.0			
	ブレンド米	371	6.0			
	長崎 コシヒカリ	371	1.0			
	大分 コシヒカリ	367	0.4			
	熊本 森のくまさん	364	12.5			
	福岡 ヒノヒカリ	364	2.2			
	1kg当たり平均単価(九州)	353	51.6			

下線は2016年度にランクインした産地品種

2016年度 産地品種等の平均価格・販売割合の分布（九州：上位30産地品種等）



産地品種	販売割合	平均価格
1 宮崎 ヒノヒカリ	17.9 (+0.2)	348 (+38)
2 熊本 ヒノヒカリ	16.9 (+4.0)	347 (+19)
3 熊本 森のくまさん	12.5 (+1.6)	364 (+20)
4 福岡 元気つくし	6.9 (+1.1)	407 (+14)
5 佐賀 さがびより	6.5 (+5.2)	388 (+33)
6 ブレンド米	6.0 (-1.0)	371 (+20)
7 大分 ヒノヒカリ	3.8 (+2.4)	338 (+29)
8 鹿児島 ヒノヒカリ	3.8 (-1.8)	399 (+48)
9 鹿児島 あきほなみ	3.4 (-3.3)	386 (+61)
10 福岡 夢つくし	3.3 (-8.7)	380 (+28)

産地品種	販売割合	平均価格
11 宮崎 夏の笑み	2.2 (+2.1)	303 (+8)
12 福岡 ヒノヒカリ	2.2 (-0.8)	364 (+28)
13 長崎 にこまる	1.4 (+0.9)	341 (+24)
14 大分 ひとめぼれ	1.1 (+1.0)	344 (+73)
15 長崎 コシヒカリ	1.0 (+0.3)	371 (+17)
16 宮崎 コシヒカリ	1.0 (-4.7)	371 (+48)
17 宮城 つや姫	1.0 (0.0)	427 (+25)
18 新潟 コシヒカリ	0.7 (-0.2)	482 (+14)
19 北海道 ゆめぴりか	0.7 (-0.6)	456 (+113)
20 佐賀 夢しずく	0.5 (-1.5)	288 (+18)

産地品種	販売割合	平均価格
21 佐賀 コシヒカリ	0.4 (-0.2)	413 (+14)
22 魚沼 コシヒカリ	0.4 (0.0)	693 (+52)
23 大分 コシヒカリ	0.4 (0.0)	367 (+22)
24 熊本 コシヒカリ	0.3 (-0.4)	500 (+81)
25 佐賀 ヒノヒカリ	0.3 (0.0)	373 (+52)
26 熊本 くまさんの力	0.2 (-0.2)	419 (+95)
27 宮崎 ひとめぼれ	0.2 (-0.6)	347 (+35)
28 山口 ひとめぼれ	0.2 (0.0)	350 (+16)
29 山口 コシヒカリ	0.2 (-0.1)	426 (+64)
30 長崎 ヒノヒカリ	0.2 (0.0)	377 (+12)
全 体		367 (+24)

注1：集計対象はうるち精米（慣行栽培米、特別栽培米、有機栽培米を含む）。

注2：販売割合はうるち精米の総重量に占める割合。（）内は前年の販売割合との差（ポイント）。

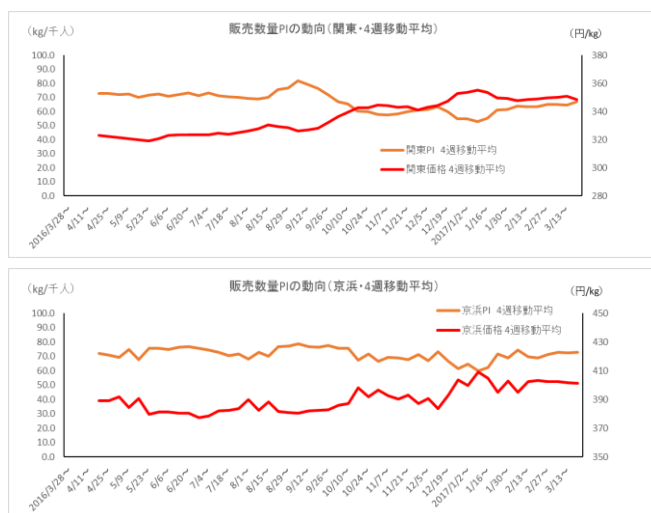
注3：平均価格は当該産地品種の加重平均価格（税込）。（）内は前年の平均価格との差。

ウ. ブロック別の販売数量 PI 値の動向

2016 年度で最も販売数量 PI 値が高いのは北海道ブロック (141.2kg/千人) で全体の約 2.4 倍、前年度比で 6.2 ポイント増加している。最も低いのは東北ブロック (19.3kg/千人) で全体の約 1/3 であるが、前年度比で 0.8 ポイント増加している。北海道ブロックの販売数量 PI 値は常に全体の 2 倍以上と突出する傾向にあるが、一つの考察として、北海道ブロックでは、まとめ買いが行われていることが推測される。農林水産政策研究所の試算では、スーパーマーケット等まで 500 メートル以上の距離にある北海道の世帯は、東京都の約 3 倍となっており、まとめ買いの要因の一つと考えられる。

また民間企業が 2016 年 9 月に実施した節約に関する意識調査 (凸版印刷株式会社『Shufoo!』調べ「Shufoo!お買い物動向レポート vol.11」) によれば「北海道エリアの主婦が最も節約志向が高い」とされていることも、まとめ買いの背景となっている可能性がある。特に精米に関しては、北海道は気候が冷涼であることから、家庭での常温保存による品質劣化の度合いが他ブロックに比して小さいことも背景の一つと考えられる。

北海道ブロックに次いで販売数量 PI 値が大きいのは、京浜ブロックの 71.4kg/千人 (前年度+13.8kg)、関東ブロックの 66.7kg/千人 (同+2.1kg) となっており、特に京浜ブロックでの販売は堅調であった。なお、この 2 ブロックでは価格の低下時に購入数量 PI 値が大きくなることから、1kg 当たり販売価格との相関や移動平均の推移からも読み取れる。



2016年度	平均販売数量 PI (kg/千人)	同左 前年度比 (%)	平均販売数量 PI 標準偏差	(参考) 平均販売数量 PI (全体を100として 指数化)
全体	59.5	5.1	4.8	100.0
北海道	141.2	6.2	17.9	237.3
東北	19.3	4.6	3.7	32.5
関東	66.7	3.4	8.5	112.1
京浜	71.4	23.9	13.0	119.9
北陸	35.1	4.2	5.8	59.0
東海	62.1	▲ 7.0	7.8	104.4
近畿	60.9	1.9	4.9	102.3
中国四国	38.1	▲ 3.0	4.5	64.1
九州	60.0	▲ 1.7	9.4	100.8

生鮮品販売店舗までの距離500メートル以上

	世帯数 (千人)	人口 (千世帯)
北海道	2,400	910
東京都	930	360
全国計	44,000	15,000

資料：農林水産政策研究所「我が国における食料品店と住民の距離」より米穀機構で作成

ブロック	相関係数
全体	-0.50
北海道	-0.36
東北	-0.43
関東	-0.75
京浜	-0.88
北陸	-0.22
東海	-0.42
近畿	-0.32
中国四国	-0.59
九州	-0.34

エ. ブロック別の作付比率上位 5 品種の販売数量の順位

作付上位 5 品種(コシヒカリ、ひとめぼれ、ヒノヒカリ、あきたこまち、ななつぼし)のブロック別の販売数量順位の推移は次ページのとおりになっている。北海道ブロックではななつぼしが、東北ブロックではひとめぼれが、関東～東海ブロックではコシヒカリが、近畿～九州ではヒノヒカリとコシヒカリが販売上位に比較的安定してランクインしている。作付比率が高いことから全国品種として大きな販売シェアを占めている 5 品種であるが、ブロック内の販売数量順位については、当該品種のブロック内での作付比率の影響もあると考えられる。一方で主産地を持たない京浜ブロックでは、コシヒカリ、あきたこまち、ななつぼしの 3 品種だけで年度を通じて概ね 1～3 位が独占されている。

また販売数量順位には消費者の購入態度の影響も考えられる。例えば岐阜県が 2015 年に県民に対して行った調査（岐阜県「農産物購入・食生活に関するアンケート調査結果」）によると、県産農産物であることを購入時に意識する消費者の割合は約 2 割を占めている。また販売側もこのような消費者の意識に呼応するように、特に地域に密着した経営を行っている地域スーパーでは、米や肉、野菜などの農産物の取扱いにおいて地域産品を充実させる流れがあるとの報告（公益財団法人流通経済研究「新たな農産物流通の構築に向けて地域に求められる商社的な機能。」流通情報 2016.11 No.523）。や、大手スーパーでも地場商品を中心とした地域商品拡充を図っているとの報告（同）もある。

さらに今後、北海道のように行政が主導して地域産品の喫食拡大を図る取組みが各地で進展するようになれば、精米の銘柄別販売シェアにも影響を及ぼすことになると考えられる。

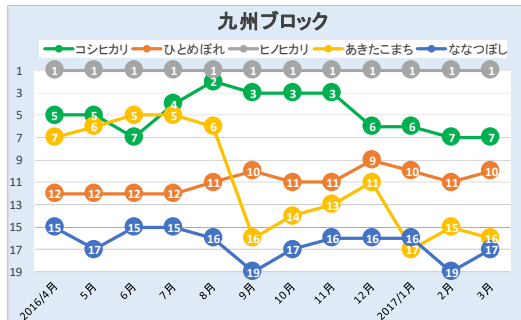
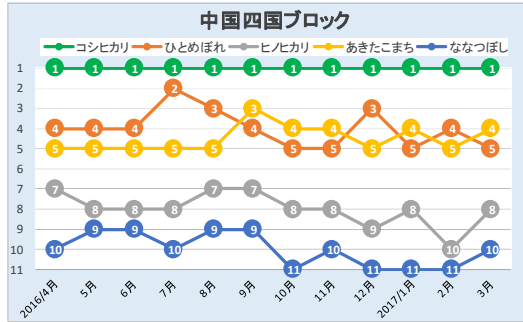
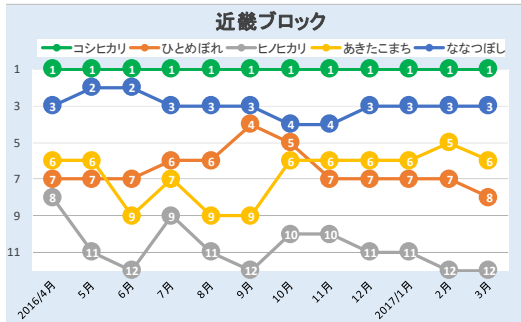
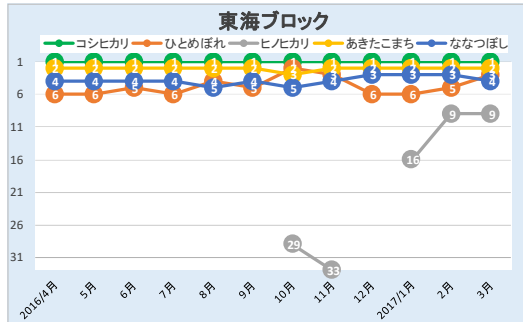
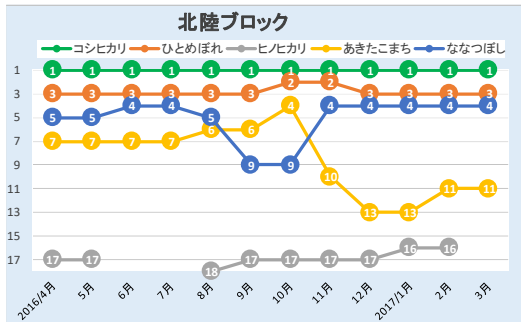
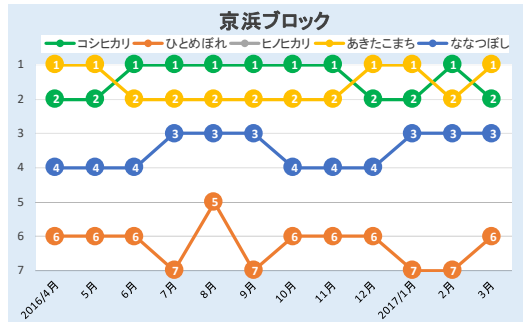
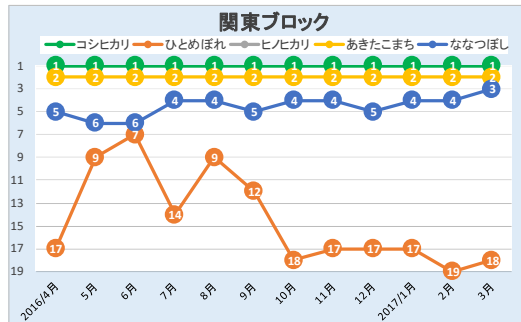
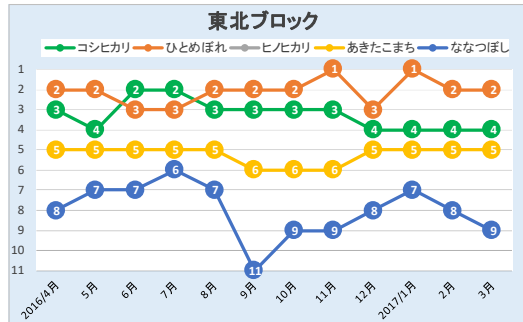
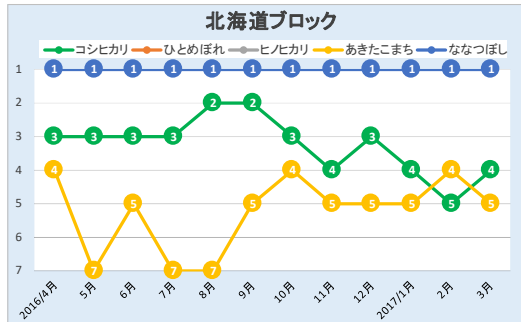
ブロック	道府県	作付順位(道府県のうるち米(醸造用米、もち米を除く)作付面積に占める割合)(単位:%)					
		1位		2位		3位	
		品種	割合	品種	割合	品種	割合
北海道	北海道	ななつぼし	50.3	ゆめぴりか	21.1	きらら397	9.7
	青森	まっしぐら	61.2	つがるロマン	34.6	青天の霹靂	3.8
	岩手	ひとめぼれ	74.5	あきたこまち	15.8	いわてつこ	4.8
	宮城	ひとめぼれ	78.5	ササニシキ	6.4	まなむすめ	5.8
	秋田	あきたこまち	76.6	ひとめぼれ	8.5	めんこいな	8.4
東北	山形	はえぬき	63.0	つや姫	13.9	ひとめぼれ	9.8
	福島	コシヒカリ	61.4	ひとめぼれ	22.9	天のつぶ	6.9
	茨城	コシヒカリ	76.9	あきたこまち	11.9	ゆめひたち	3.7
	栃木	コシヒカリ	69.2	あさひの夢	22.1	なすひかり	4.3
	群馬	あさひの夢	39.2	コシヒカリ	24.9	ひとめぼれ	13.4
関東	埼玉	コシヒカリ	39.7	彩のかがやき	29.8	キヌヒカリ	10.2
	千葉	コシヒカリ	68.9	ふさこがね	14.5	ふさおとめ	11.2
	新潟	コシヒカリ	74.2	こしいぶき	18.3	ゆきん子舞	3.2
	富山	コシヒカリ	80.1	てんこもり	6.6	やまだわら	0.6
	石川	コシヒカリ	72.6	ゆめみづほ	19.5	能登ひかり	2.8
北陸	福井	コシヒカリ	59.0	ハナエチゼン	26.0	あきさき	10.1
	山梨	コシヒカリ	72.4	ヒノヒカリ	6.3	あさひの夢	5.8
	長野	コシヒカリ	80.3	あきたこまち	12.1	風さやか	3.3
	岐阜	ハツシモ	38.6	コシヒカリ	34.5	ひとめぼれ	7.3
	静岡	コシヒカリ	45.7	あいちのかおり	18.3	きぬむすめ	13.3
東海	愛知	あいちのかおり	39.2	コシヒカリ	24.5	ミネアサヒ	5.5
	三重	コシヒカリ	78.0	キヌヒカリ	9.8	みえのゆめ	3.0
	滋賀	コシヒカリ	38.6	キヌヒカリ	23.2	日本晴	10.6
	京都	コシヒカリ	56.8	キヌヒカリ	21.4	ヒノヒカリ	16.8
	大阪	ヒノヒカリ	73.5	キヌヒカリ	13.3	きぬむすめ	12.2
近畿	兵庫	コシヒカリ	43.0	ヒノヒカリ	22.1	キヌヒカリ	18.9
	奈良	ヒノヒカリ	70.7	ひとめぼれ	9.8	コシヒカリ	8.0
	和歌山	キヌヒカリ	49.2	きぬむすめ	10.3	コシヒカリ	9.1
	鳥取	コシヒカリ	45.3	ひとめぼれ	27.1	きぬむすめ	25.4
	島根	コシヒカリ	64.6	きぬむすめ	25.1	つや姫	5.7
中国四国	岡山	アケボノ	18.8	ヒノヒカリ	17.7	あきたこまち	17.4
	広島	コシヒカリ	45.9	ヒノヒカリ	17.3	あきろまん	9.5
	山口	コシヒカリ	30.7	ヒノヒカリ	25.2	ひとめぼれ	24.9
	徳島	コシヒカリ	53.9	キヌヒカリ	28.9	ヒノヒカリ	7.3
	香川	コシヒカリ	39.2	ヒノヒカリ	39.0	おいでまい	9.8
九州	愛媛	コシヒカリ	31.0	ヒノヒカリ	28.1	あきたこまち	20.9
	高知	コシヒカリ	52.8	ヒノヒカリ	30.0	にこまる	4.6
	福岡	夢つし	41.5	ヒノヒカリ	35.1	元氣つくし	17.6
	佐賀	夢しずく	28.4	ヒノヒカリ	28.3	さがひより	27.1
	長崎	ヒノヒカリ	63.4	にこまる	18.4	コシヒカリ	11.5
九州	熊本	ヒノヒカリ	54.3	森のくまさん	15.3	コシヒカリ	11.6
	大分	ヒノヒカリ	76.1	ひとめぼれ	11.0	コシヒカリ	3.7
	宮崎	ヒノヒカリ	56.1	コシヒカリ	38.1	おてんとそだち	1.6
	鹿児島	ヒノヒカリ	64.3	コシヒカリ	16.3	あきほなみ	11.2

農産物を購入するときに、「岐阜県産」であることを意識して購入しますか。

項目	回答割合
「岐阜県産」を意図して購入している	20.1%
「岐阜県産」にはこだわらないが、「国産」は意識して購入している	68.4%
産地にはこだわらない	11.3%
無回答	0.3%

資料:岐阜県「農産物購入・食生活に関するアンケート調査結果」

2016年度 作付面積上位5品種のブロック別販売数量ランキングの推移

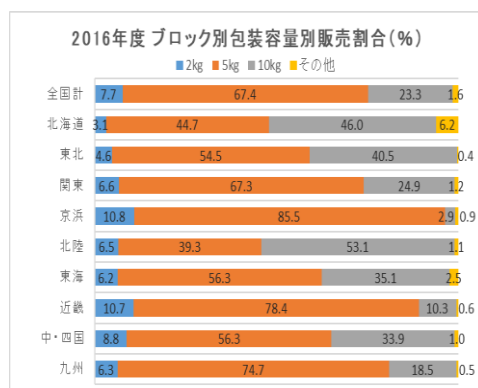


オ. ブロック別の包装容量別販売割合の動向

(ア) 年度平均の動向

販売の太宗を占める **5kg** 袋の販売割合は京浜ブロックの **85.5%** を最大として、東北ブロックの **54.6%** が最小となっている。また北海道ブロックと北陸ブロックでは例年どおり **10kg** 袋が1位となっており、**5kg** 袋は2位となっている。

ブロック別の包装容量別の販売割合については、販売価格の値動きによって割合(%)の大小も変動するものの、「京浜ブロックでは **2kg** 袋や **5kg** 袋の割合が高い」「北陸ブロックと北海道ブロックでは **10kg** 袋の割合が高い」などのブロック固有の傾向が存在している。このことについては、販売価格のほかブロック毎の世帯数や世帯消費量、年齢別世帯人員、世帯収入の分布、人口当たりの量販店等の数、量販店等までのアクセスなど様々な要因が関係していることが想定できるが、現時点ではブロック固有の傾向を説明できる要因について未解明である。



(イ) 1kg 当たり販売価格（年度平均）との関係

全体の販売価格が前年度差で **20 円/kg** 値上がりしていることから、概ね **10kg** 袋の販売割合が下がり、**2kg** 袋と **5kg** 袋の販売割合が上昇している。特に価格上昇が最も大きい東海ブロックではその傾向が著しい。一方で販売価格が上昇しているなかでも東北ブロックでは **5kg** 袋の販売割合が減り、**10kg** 袋が増加しているなど、ブロックによって傾向が異なっている。

	平均単価(円/kg)		2kg袋販売割合(%)		5kg袋販売割合(%)		10kg袋販売割合(%)		その他販売割合(%)	
	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度	2015年度	2016年度
全体	941	961	20	7.0	7.7	0.7	64.2	67.4	32	23.3
北海道	945	950	13	3.1	3.1	0.0	43.1	44.7	1.6	46.0
東北	950	970	20	4.3	4.6	0.3	60.0	54.5	6.3	34.2
関東	913	930	25	6.2	6.6	0.4	65.6	67.3	1.7	27.2
京浜	984	980	2	11.9	10.8	▲1.1	83.5	85.5	2.0	3.8
北陸	950	971	21	6.3	6.5	0.2	40.4	39.3	▲1.1	53.1
東海	934	959	25	5.0	6.2	1.2	48.3	56.3	8.0	44.4
近畿	938	959	23	9.1	10.7	1.6	77.8	78.4	0.6	12.7
中国四国	925	945	20	7.9	8.8	0.9	58.7	56.3	▲2.4	34.3
九州	945	954	4	5.0	6.3	0.5	72.0	74.7	1.5	21.0

(ウ) 1kg 当たり販売価格（月次平均）との関係

月別(4 ページ参照)の **1kg** 当たり単価と包装容量袋のシェアの関係をみたのが右表である。販売価格の値上がりに対して、東北ブロックと東海ブロックでは **2kg** 袋と **5kg** 袋の割合が増加し、逆に **10kg** 袋は明らかに減少している。特に東北ブロックでは 10 月の販売価格の急上昇が一つのインパクトとなり、**10kg** 袋の急落と **2kg** 袋、**5kg** 袋の上昇をもたらしている(29 ページ参照)。東海ブロックでは 7 月からじわじわと販売価格が上昇するに連れて **10kg** 袋の縮減、**2kg** 袋と **10kg** 袋の上昇が発生している。なお両ブロックとも販売価格の最高値時に **10kg** 袋の販売割合が最も低くなっている。一方で北海道ブロックや北陸ブロックのように、販売価格の値動きからは一部の包装容量袋販売割合のみの説明に留まるブロックや、関東ブロック、京浜ブロック、九州ブロックのように販売価格からはほとんど説明できないブロックもある。

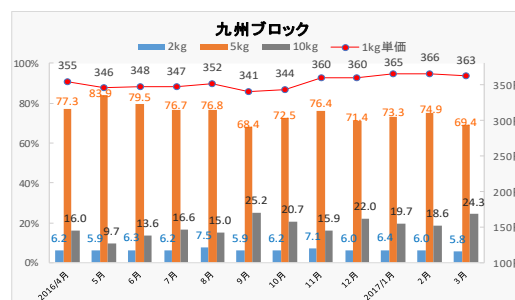
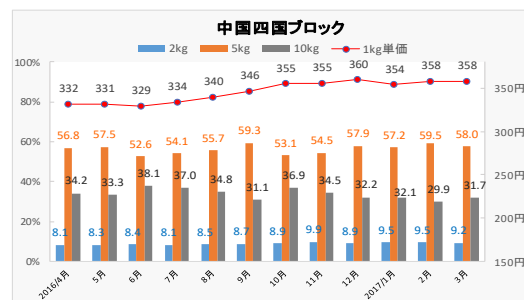
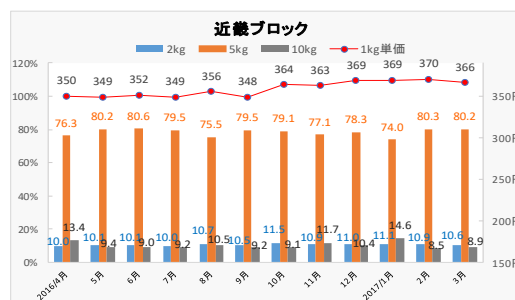
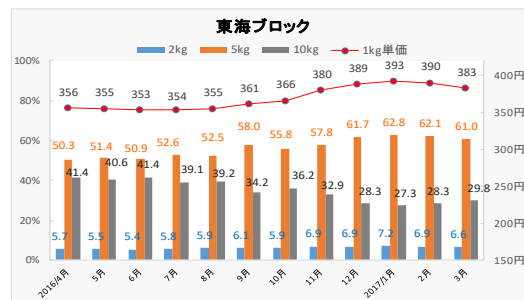
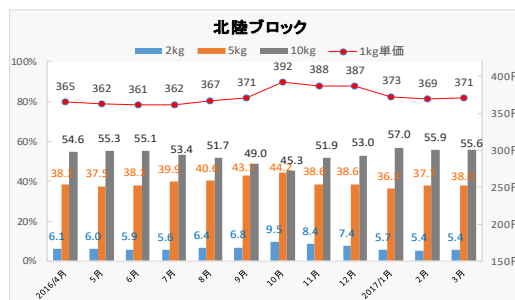
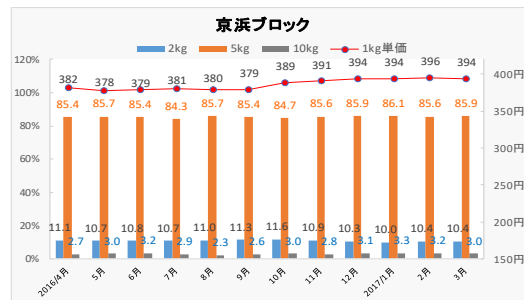
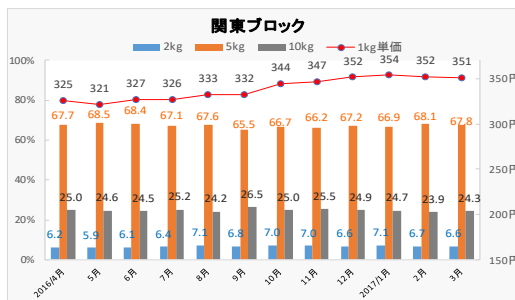
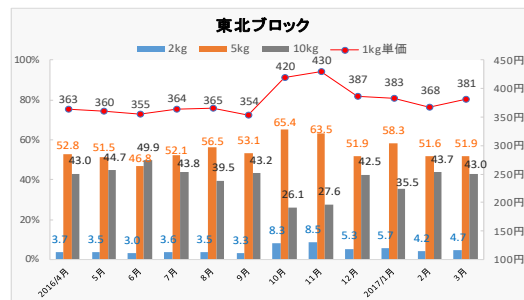
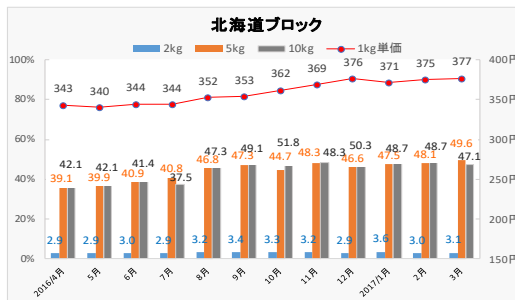
1kg当たり単価と包装容量別販売割合の相関

	2kg袋	5kg袋	10kg袋
全体	0.712	0.872	-0.746
北海道	0.372	0.865	0.753
東北	0.990	0.847	-0.904
関東	0.659	-0.248	-0.219
京浜	-0.532	0.396	0.525
北陸	0.858	0.359	-0.580
東海	0.961	0.948	-0.967
近畿	0.792	-0.185	0.129
中国四国	0.849	0.350	-0.547
九州	0.050	-0.194	0.179

ITや情報端末の進歩と普及により、売り場での価格比較が瞬時に可能となっていることから、価格訴求だけでは集客や新規顧客の確保が難しくなっていると考えられる。そのため店舗カード等の提示によるポイント付与（実質的な値引き）などのお得感が醸成されるサービスを用いて、顧客の囲い込みやロイヤリティ向上が併せて行われている。このような店舗カードやプリペイド型電子マネーあるいはクレジットカードなどによる購入金額に応じたポイント付与サービスでは、必ずしも最安値商品が選択されとは限らない。さらに共働き世帯の増加や女性の社会進出、高齢者世帯の増加などもあり、住居に近い、あるいは帰り道から近いなどのアクセスも店舗選択のメルクマールとなっている。したがって現代の消費者は、価格の許容範囲のなかで、ポイント付与率やアクセスなども勘案した購入行動を執っていることが容易に想定できる。

今後、販売数量に関わる指標を考察する際には、価格や品質など商品に付随する情報以外の要因についての検討も必要であると考えられる。

2016年度 ブロック別販売単価及び包装容量別販売割合の推移



第3. 米代替食品、米加工品等の動向

POS データに基づく米代替品（パン類、麺類）及び米加工品等（加工米飯、包装もち、もち米）の販売動向については、四半期毎に季報（RPQuarterly）として当機構ホームページ「米ネット <http://www.komenet.jp/>」で公表している。ここでは季報で公表している右表の品目毎の 2016 年度の動向についてみていく。

＜季報において提出している品目＞

うるち精米	POSのうるち精米（銀行栽培米、特別栽培米及び有機栽培米を含み、玄米、炊き玄米、白米、あじも米を除く）のデータを使用。
米代替品	
パン類	POSの「パン/アルファ」から、食パン、菓子パン及び国産パンのデータを使用。
麺類	POSの「麺類」(インスタント麺、カップ麺、乾麺、生麺・ゆで麺、スナック麺、マカロニ、その他麺類)のデータを使用。
米加工品等	
冷凍米飯	POSの「冷凍米飯加工品」のデータを使用。
パックご飯	POSの「米飯加工品」のデータのうち、パックご飯のみ抽出（シトル米飯を除く）。
包装もち	POSの「包装もち」のデータを使用。但し、豆もち、栗もち等は除外している。
もち米	POSの「米」のデータのうち、もち米を抽出。

1. パン類

(1) 販売動向

2016 年度におけるパン類の全体平均の販売金額 PI 値は 46,135 円/千人（前年度比+16.6%）となっている。特に 11 月～1 月は前年度比 2 割増と高水準で推移している。

パン類の販売が好調であることについては、

- ①食パンの東京区部での小売価格は輸入小麦売渡価格の値下がりもあり、年度平均 1.8%の値上がりに留まっていること。
- ②原料価格の高騰を受けて大手製パン事業者が前年 7 月に行った平均 2.8%の値上げの影響からの回復。

が考えられる。なお 2016 年の消費者物価指数は

2015 年比で総合 99.9、食料品 100.3 とほぼ前年並であることからその影響は小さい。

														(単位:円/千人)	
品目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13月	14月	15月	16月	平均	
全体	45,988	43,814	44,372	41,874	40,761	43,574	45,529	48,012	45,488	48,782	51,836	52,246	46,135		
北海道	38,582	38,884	39,828	29,888	27,842	29,880	32,326	33,882	33,017	36,181	36,845	36,112	32,387		
東北	41,055	37,540	38,235	37,218	34,179	37,278	38,855	41,838	38,865	42,838	45,787	44,318	38,881		
関東	47,727	44,334	44,985	42,574	41,884	42,310	45,711	49,882	45,725	49,880	52,471	53,381	48,782		
京浜	41,824	38,889	38,838	37,129	37,713	38,814	39,889	42,724	39,881	42,653	45,085	46,277	48,782		
北陸	38,778	38,582	38,527	36,882	35,288	38,488	39,747	43,438	40,285	45,385	47,370	48,218	41,102		
東海	65,208	61,783	62,147	58,136	58,487	58,870	62,042	62,888	59,887	65,838	68,158	69,888	62,670		
近畿	51,813	48,882	50,654	47,882	48,885	50,221	52,882	55,438	54,258	58,584	58,441	58,538	53,138		
中国四国	51,872	48,882	50,228	48,656	48,123	48,880	51,100	54,888	50,948	58,254	58,484	58,882	52,013		
九州	43,218	42,042	42,978	38,777	38,888	42,138	44,383	48,848	43,585	47,331	48,888	48,887	44,288		
前年度比														(%)	
品目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13月	14月	15月	16月	平均	
全体	15.3	16.3	14.8	10.8	13.2	13.8	15.8	18.8	22.8	22.8	17.8	18.8	16.8		

輸入小麦政府売渡価格

年度	期	円/トン	前年比
2012	4月	48,780	▲15.5
	10月	50,130	2.8
	4月	54,990	9.7
2013	10月	57,260	4.1
	4月	58,590	2.3
	10月	58,330	▲0.4
2014	4月	60,070	3.0
	10月	56,640	▲5.7
	4月	52,610	▲7.1
2015	10月	48,470	▲7.9

小売物価 (特別区部)	(円/kg)	前年比 (%)
2016年4月	437	4.5
5月	437	6.1
6月	437	4.0
7月	437	3.6
8月	435	1.9
9月	437	1.6
10月	435	0.0
11月	436	0.7
12月	433	0.0
1月	433	0.7
2月	431	▲0.7
3月	434	▲0.5
平均	435	1.8

資料:総務省「小売物価統計調査」

(2) ブロックの動向

2016 年度におけるパンの販売金額 PI 値の年度平均は、全てのブロックで前年度を上回っている。ブロック毎の食料の消費者物価指数は、2015 年比で 101.8～102.2 の範囲に留まっていることやから、パン類の販売は好調といえる。販売金額 PI 値が最も高いブロックは、例年どおり東海ブロック (62,670 円/千人) で、最も低いのは東北ブロック (39,991 円/千人) となっている。前年度比では京浜ブロック及び北海道ブロックが 19%増と高くなっている。

精米とパン類の販売金額 PI 値の比較では、東北ブロックが精米の約 7 倍と全ブロック中最も高く、北海道ブロックは 0.7 倍と最も低い。しかし東北のように米生産農家比率が高いブロックでは精米は自給的であるが、パン類はほとんどを購入に頼るため、必然的にパン類/精米比が高くなる傾向がある。

(単位:円/千人)

2016年度平均	パン類販売金額PI	前年度比 (%)	精米販売金額PI平均	パン類/精米比	パン類/精米比 (2015年度)
全体	46,135	16.6	21,808	2.1	2.0
北海道	32,337	19.1	49,391	0.7	0.5
東北	39,991	15.8	5,618	7.1	6.2
関東	46,762	16.0	22,182	2.1	1.9
京浜	40,766	19.3	27,993	1.5	1.3
北陸	41,102	15.1	16,884	2.4	3.1
東海	62,670	17.4	24,699	2.5	2.4
近畿	53,138	16.1	24,209	2.2	2.3
中国四国	52,013	15.0	13,375	3.9	3.4
九州	44,208	18.5	23,329	1.9	1.8

報告対象地域	2015年	全国比 (%)
北海道	13,470	1.4
東北	196,798	20.7
関東	150,647	15.8
京浜	4,113	0.4
北陸	133,165	14.0
東海	77,094	8.1
近畿	80,774	9.8
中国四国	151,321	15.9
九州	131,993	13.9

資料:農林水産省「農林業センサス」

2. 麺類

(1) 販売動向

ア. 販売金額 PI 値

2016 年度における麺類の全体平均の販売金額 PI 値は 40,896 円/千人（前年度比+6.7%）となっている。麺類の価格は東京区部の前年度比で約 2 割値下がりしており、このことが購入マインドを醸成したと考えられる。特に 4 月（前年度比+12.4%）、9 月～11 月（同+8%前後）は販売金額 PI 値が高くなっている。なお麺類の生産量は 5 月と 10 月以外は前年を上回って推移していることから、麺類販売の好調が裏付けられる。

2016 (単位:円/千人,%)													
国別 販売金額PI	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
全体	38,996	38,542	39,220	40,477	38,795	37,808	38,809	41,531	40,047	43,427	41,801	41,301	40,896
北海道	45,511	43,310	43,257	45,203	41,520	41,277	45,024	47,880	53,888	49,829	47,844	48,448	46,894
東北	42,789	40,588	40,519	42,163	41,380	40,194	44,196	46,255	51,825	48,275	46,306	46,147	44,225
関東	44,483	44,188	44,956	46,265	46,834	43,972	45,570	49,095	52,317	49,886	47,289	47,926	48,878
京浜	36,632	37,056	37,012	38,158	38,617	35,106	36,458	38,067	42,115	39,457	37,878	38,242	37,866
北陸	38,183	40,589	39,743	41,933	41,655	37,475	40,654	45,203	50,456	48,778	45,581	44,580	42,977
東海	49,589	50,113	48,812	50,813	49,295	43,065	47,492	47,878	54,794	49,492	47,348	48,018	48,893
近畿	36,913	36,955	36,138	37,373	37,000	35,486	37,823	38,530	42,313	42,361	39,219	37,707	38,238
中国四国	37,076	37,877	37,220	37,888	37,146	36,195	37,892	37,942	44,137	40,261	38,937	38,389	38,478
九州	37,794	33,385	32,903	32,159	31,338	33,589	33,173	33,389	37,764	35,851	34,688	34,288	34,165

前年度比 (%)													
国別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
全体	12.4	6.4	6.3	5.7	4.0	7.7	8.5	8.5	4.7	4.1	7.0	5.6	6.7

2016年4月 (単位:円/千人,%)													
国別	生産量	前年	増減率	生めん類	乾めん類	即席めん類	マカロニ類	平均小売価格	前年	増減率	平均小売価格	前年	増減率
2016年4月	123,930	117,278	▲ 5.2	53,550	19,213	37,791	13,368	512	512	▲ 21.2	512	512	▲ 22.0
5月	115,790	115,790	2.8	53,844	14,849	33,504	13,593	510	510	▲ 22.0	510	510	▲ 22.0
6月	114,125	114,125	4.7	57,456	14,251	30,005	12,383	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
7月	100,880	100,880	7.8	53,924	9,894	31,446	12,187	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
8月	114,833	114,833	1.8	53,987	12,188	31,535	12,743	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
9月	118,811	118,811	▲ 2.2	55,992	12,465	37,966	12,469	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
10月	126,212	126,212	1.9	56,839	17,764	39,498	12,318	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
11月	127,233	127,233	0.1	59,094	15,852	39,562	12,975	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
12月	111,810	111,810	5.1	53,834	14,784	31,573	11,919	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
2017年1月	110,898	110,898	1.2	48,815	16,745	34,184	11,114	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
2月	128,488	128,488	0.3	55,195	19,827	37,228	14,438	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0

2016年4月 (単位:円/千人,%)													
国別	生産量	前年	増減率	生めん類	乾めん類	即席めん類	マカロニ類	平均小売価格	前年	増減率	平均小売価格	前年	増減率
2016年4月	123,930	117,278	▲ 5.2	53,550	19,213	37,791	13,368	512	512	▲ 21.2	512	512	▲ 22.0
5月	115,790	115,790	2.8	53,844	14,849	33,504	13,593	510	510	▲ 22.0	510	510	▲ 22.0
6月	114,125	114,125	4.7	57,456	14,251	30,005	12,383	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
7月	100,880	100,880	7.8	53,924	9,894	31,446	12,187	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
8月	114,833	114,833	1.8	53,987	12,188	31,535	12,743	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
9月	118,811	118,811	▲ 2.2	55,992	12,465	37,966	12,469	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
10月	126,212	126,212	1.9	56,839	17,764	39,498	12,318	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
11月	127,233	127,233	0.1	59,094	15,852	39,562	12,975	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
12月	111,810	111,810	5.1	53,834	14,784	31,573	11,919	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
2017年1月	110,898	110,898	1.2	48,815	16,745	34,184	11,114	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0
2月	128,488	128,488	0.3	55,195	19,827	37,228	14,438	512	512	▲ 22.0	512	512	▲ 22.0

イ. 販売数量 PI 値

2016 年度における麺類の全体平均の販売数量 PI 値は 75.8kg/千人（前年度+5.0%）と、販売金額 PI 値よりわずかに伸びは低い。なお麺類の販売数量 PI 値は 10 月から 12 月にかけてかなりの程度増加しているが、同時期の麺類の生産量では生麺類が増加しており、なかでもゆで麺が増加している。同時期、北日本では気温が低かったものの、東日本以西ではかなり温暖であった。ゆで麺は比較的安価で、しかも水で捌くだけで食べることができるタイプもあることから、この期の需要に繋がった可能性がある。

2016年度 (単位:kg/千人,%)													
国別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
販売数量PI	74.1	74.8	73.7	78.1	72.1	68.4	73.6	78.1	81.8	88.2	77.4	78.3	75.8
前年度比	95	68	67	53	32	38	60	58	25	12	61	37	50

2016年4月 (単位:kg/千人,%)													
国別	生産量	前年	増減率	生めん類	乾めん類	即席めん類	マカロニ類	平均小売価格	前年	増減率	平均小売価格	前年	増減率
2016年4月	2.3	▲ 8.0	4.8	2.3	▲ 8.0	4.8	2.3	▲ 8.0	4.8	2.3	▲ 8.0	4.8	2.3
5月	3.6	▲ 3.8	2.5	3.6	▲ 3.8	2.5	3.6	▲ 3.8	2.5	3.6	▲ 3.8	2.5	3.6
6月	0.7	▲ 13.8	▲ 0.1	0.7	▲ 13.8	▲ 0.1	0.7	▲ 13.8	▲ 0.1	0.7	▲ 13.8	▲ 0.1	0.7
7月	0.9	▲ 7.6	▲ 10.2	0.9	▲ 7.6	▲ 10.2	0.9	▲ 7.6	▲ 10.2	0.9	▲ 7.6	▲ 10.2	0.9
8月	3.3	▲ 5.9	1.5	3.3	▲ 5.9	1.5	3.3	▲ 5.9	1.5	3.3	▲ 5.9	1.5	3.3
9月	3.8	8.5	2.9	3.8	8.5	2.9	3.8	8.5	2.9	3.8	8.5	2.9	3.8
10月	8.0	5.4	▲ 0.2	8.0	5.4	▲ 0.2	8.0	5.4	▲ 0.2	8.0	5.4	▲ 0.2	8.0
11月	9.2	1.8	6.8	9.2	1.8	6.8	9.2	1.8	6.8	9.2	1.8	6.8	9.2
12月	8.5	▲ 8.9	8.1	8.5	▲ 8.9	8.1	8.5	▲ 8.9	8.1	8.5	▲ 8.9	8.1	8.5

(2) ブロックの動向

全てのブロックで販売金額 PI 値は前年度比プラスとなっている。前年度比で増加が著しいのは北陸ブロック（同+11.1%）と東北ブロック（同+11.0%）、北海道ブロック（同+10.7%）となっている。なお 2015 年には即席麺を中心とした麺製品の値上げが行われており、2016 年度において麺類が好調であった背景には、値上げの影響からの回復もあったと考えられる。

(単位:円/千人)													
2016年度平均	販売金額PI	前年度比 (%)	精米販売金額PI平均	麺類/精米比	麺類/精米比 (2015年度)	2016年度平均	販売金額PI	前年度比 (%)	精米販売金額PI平均	麺類/精米比	麺類/精米比 (2015年度)	2016年度平均	販売金額PI
全体	40,896	6.7	21,808	1.9	1.9	40,896	40,896	6.7	21,808	1.9	1.9	40,896	40,896
北海道	46,084	10.7	49,391	0.9	0.8	46,084	46,084	10.7	49,391	0.9	0.8	46,084	46,084
東北	44,225	11.0	5,618	7.9	7.1	44,225	44,225	11.0	5,618	7.9	7.1	44,225	44,225
関東	46,879	7.1	22,182	2.1	2.0	46,879	46,879	7.1	22,182	2.1	2.0	46,879	46,879
京浜	37,966	7.4	27,993	1.4	1.3	37,966	37,966	7.4	27,993	1.4	1.3	37,966	37,966
北陸	42,977	11.1	16,884	2.5	3.3	42,977	42,977	11.1	16,884	2.5	3.3	42,977	42,977
東海	48,893	4.7	24,699	2.0	2.1	48,893	48,893	4.7	24,699	2.0	2.1	48,893	48,893
近畿	38,238	8.5	24,209	1.6	1.8	38,238	38,238	8.5	24,209	1.6	1.8	38,238	38,238
中国四国	38,478	3.2	13,375	2.9	2.8	38,478	38,478	3.2	13,375	2.9	2.8	38,478	38,478
九州	34,165	4.0	23,329	1.5	1.5	34,165	34,165	4.0	23,329	1.5	1.5	34,165	34,165

年度を通して販売金額 PI 値が最も高いブロックは、前年度と同様に東海ブロック（48,893 円/千人、前年度比+4.7%）となっており、最も低いのは、前年度と同様に九州ブロック（34,165 円/千人、同+4.0%）となっている。なお東海ブロックと九州ブロックの差は約 1.4 倍と前年度とほぼ同じ水準となっている。精米との比較でも、全ブロックともほぼ前年度並みの比率となっている。

3. 加工米飯（冷凍米飯、パックご飯）

(1) 販売動向

2016 年度における冷凍米飯の全体平均の販売金額 PI 値は 4,364 円/千人（前年度比 +26.0%）、パックご飯は 2,341 円/千人（同 +13.0%）となっている。販売数量 PI は、冷凍米飯が 7.0kg/千人（同+24.4%）、パックご飯は 4.5kg/千人（同+12.8%）となっている。

冷凍米飯が好調である背景については、女性の社会進出などによる簡便化ニーズの高まりに加え、シニア層の購入率の増加、冷凍炒飯や焼きおにぎり等の CM 効果などが背景にあることが指摘されている（2015 年度版年報を参照）。

またパックご飯については、メーカーの報告書によれば「品質に対する認知度上昇のほか、備蓄需要の増加やライフスタイルの変化により喫食機会が増加している（東洋水産株式会社 第 69 期有価証券報告書）」とされており、実際に販売数量 PI 値は、熊本地震が発生した 4 月が年度のピークとなっている。なお半年後の 10 月、年明けの 1 月～2 月にも小さなピークがあるが、前者は 4 月に購入備蓄した商品の賞味期限による買替需要や新潟県中越地震（10 月）から想起される防災意識の高まりが、後者は阪神・淡路大震災（1 月）や東日本大震災（3 月）から想起される防災意識の高まりが背景にあると考えられる。

(2) ブロックの動向

冷凍米飯、パックご飯ともに全てのブロックで販売金額 PI 値は前年度比プラスとなっている。前年度比で増加が著しいのは冷凍米飯では東北ブロック（同+35.1%）と北海道ブロック（同+30.6%）、北陸ブロック（同+30.2%）、パックご飯では九州ブロック（+45.4%）、北陸ブロック（同+23.0%）、関東ブロック（同+14.4%）となっている。年度を通して販売金額 PI 値が最も高いブロックは、冷凍米飯では京浜ブロック（5,648 円/千人、前年度比+18.0%）で、最も低いのは、前年度と同様に北陸ブロック（2,379 円/千人、同+30.2%）となっており、例年の傾向が続いている。パックご飯では京浜ブロック（3,587 円/千人、同+5.0%）が最も高く、最も低かったのは東北ブロック（1,140kg/千人）となっており、例年最も低い九州ブロックは、熊本地震の影響もあり、前年度から約 1.5 倍増となっている。なお女性及び育児をしている女性の有業率が最も高い北陸ブロックでは、冷凍米飯、パックご飯ともに伸長している。

2016年度 (単位:円/千人)												
地域別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	4,270	3,925	3,945	4,031	4,267	4,402	4,407	4,422	4,534	4,475	4,713	5,003
北海道	3,549	3,130	3,254	3,491	3,310	3,803	3,881	3,841	3,841	4,017	4,063	4,550
東北	3,627	3,087	2,845	3,323	3,124	3,388	3,824	3,582	3,415	3,407	3,675	4,158
関東	3,368	4,909	4,914	3,152	3,498	3,569	3,440	3,500	3,152	3,363	3,624	3,849
中部	3,730	3,389	3,430	3,323	3,378	3,379	3,481	3,578	3,396	3,427	3,745	3,791
北陸	2,883	2,879	2,886	2,853	2,882	2,902	2,900	2,439	2,425	2,820	2,763	2,739
近畿	4,400	3,860	3,880	4,272	4,215	4,405	4,381	4,801	4,988	5,192	5,411	5,785
中国	4,613	4,224	4,438	4,260	4,351	4,409	4,152	4,329	3,972	5,128	5,289	5,607
九州	3,952	3,779	3,659	3,781	4,038	4,398	4,094	3,880	3,921	3,845	4,251	4,381
中国四国	3,952	3,779	3,659	3,781	4,038	4,398	4,094	3,880	3,921	3,845	4,251	4,381
沖縄	3,420	2,852	2,812	2,784	2,883	3,088	3,222	3,240	3,383	3,524	3,681	3,389

2016年度 (単位:円/千人)												
地域別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	2,370	2,088	2,080	2,138	2,254	2,259	2,215	2,271	2,481	2,502	2,502	2,381
北海道	2,461	1,967	2,080	2,205	2,474	2,218	2,208	2,207	2,478	2,719	2,888	2,888
東北	1,153	1,081	1,053	1,038	1,223	1,187	1,040	1,189	1,202	1,218	1,118	1,140
関東	2,403	2,388	2,281	2,288	2,458	2,205	2,414	2,440	2,503	2,887	2,944	2,581
中部	2,747	2,185	2,221	2,270	2,388	2,384	2,317	2,408	2,738	2,686	2,782	2,788
北陸	1,849	1,367	1,480	1,529	2,155	1,788	1,853	1,863	2,292	2,292	2,124	1,875
近畿	3,028	2,913	2,848	2,842	3,284	2,880	3,082	3,280	3,413	3,349	3,437	3,151
中国	3,142	2,837	2,848	2,886	3,088	3,052	3,153	3,216	3,427	3,454	3,400	3,145
中国四国	1,652	1,548	1,532	1,539	1,841	1,671	1,881	1,888	1,888	1,828	1,824	1,888
九州	1,877	1,448	1,130	1,189	1,283	1,272	1,214	1,215	1,288	1,455	1,383	1,431

(単位:円/千人)				
2016年度平均	冷凍米飯販売金額PI	前年度比	パックご飯販売金額PI	前年度比
全体	4,364	26.0	2,341	13.0
北海道	3,701	30.6	2,365	8.0
東北	3,446	35.1	1,140	7.3
関東	5,389	19.5	2,439	14.4
京浜	5,648	18.0	3,587	5.0
北陸	2,379	30.2	1,875	23.0
東海	4,692	28.9	3,151	5.3
近畿	4,863	22.4	3,145	3.5
中国四国	4,003	26.6	1,680	16.1
九州	3,303	25.0	1,314	45.4

女性有業率 (%)	
ブロック	a)の平均
北海道	44.7
東北	48.9
関東	48.9
京浜	48.9
北陸	44.8
東海	48.9
近畿	46.9
中国四国	47.5
九州	48.7

女性及び育児をしている女性の有業率 (%)	
ブロック	a)の平均
北海道	48.9
東北	61.2
関東	49.6
京浜	46.3
北陸	64.8
東海	52.7
近畿	47.0
中国四国	58.0
九州	58.3

資料：総務省「平成24年度国勢調査基本調査」より米穀機構で作成

4. 包装もち、もち米

(1) 販売動向

包装もちともち米は行事性、季節性が極めて強く、春秋の彼岸（もち米）と年末（包装もち、もち米）に需要の山がある。2016年度における包装もちの全体平均の販売金額PI値は2,707円/千人（前年度比+5.8%）、もち米は606円/千人（同▲3.9%）となっている。販売数量PI値は、包装もちは3.2kg/千人（同+5.9%）、もち米は1.3kg/千人（同▲3.4%）となっている。

なお、もち米の前年度比減の理由については次のことが考えられる。

①全国的な高温の影響による、需要期の9月の不振。

②感染性胃腸炎（ノロウイルス）の患者数が東京など13の都県で警報レベルに達し、各地で餅つきが中止されたことの影響。

2016年(平成28年)9月の天候の特徴(抜粋)

全国的に高温

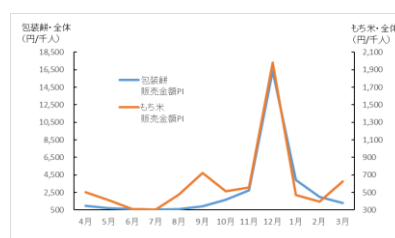
寒気の南下が弱く、南から暖かい空気が入りやすかったため、全国的に気温は高く、沖縄・奄美ではかなり高かった。

資料:気象庁報道資料

販売もち 販売金額PI	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度比
全体	993	719	617	531	615	942	1,885	2,759	16,343	3,931	2,002	1,286	2,702	5.8
北海道	1,229	829	681	617	599	1,479	2,184	3,941	25,299	3,579	2,082	1,290	2,659	▲3.9
東北	983	389	389	321	430	545	837	1,495	17,897	2,661	1,159	709	2,282	▲8.9
関東	1,077	797	683	616	676	1,949	1,745	2,912	14,177	3,174	1,902	1,302	2,503	0.7
近畿	1,444	1,199	962	822	944	1,379	2,299	3,773	15,323	6,394	2,559	1,669	3,270	1.9
北陸	1,392	872	777	692	814	1,253	2,163	4,009	20,876	5,035	2,817	1,789	3,527	16.7
東海	1,159	889	767	700	676	897	2,271	3,642	19,039	4,757	2,827	1,944	2,994	28.4
近畿	810	570	517	399	485	1,187	2,058	3,194	17,485	3,753	2,452	1,467	2,946	4.2
中国四国	695	539	462	368	344	618	1,139	1,913	15,033	3,320	1,774	1,079	2,273	4.8
九州	557	399	354	288	270	494	895	1,655	14,867	2,871	1,243	782	2,047	7.9

販売もち 販売数量PI	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度比
全体	501	409	309	305	477	721	513	554	1,983	472	397	629	698	▲3.9
北海道	1,059	1,135	1,096	1,004	1,450	1,507	1,232	2,892	4,945	957	1,024	1,524	1,644	1.3
東北	609	747	272	346	747	1,065	488	376	1,254	259	311	866	610	▲8.9
関東	588	423	329	348	618	821	564	523	2,015	514	448	681	654	▲8.4
近畿	548	427	394	306	372	709	546	503	972	489	422	629	518	▲2.3
北陸	802	467	388	401	823	888	712	596	3,138	546	638	858	883	10.9
東海	443	342	283	228	306	784	480	450	2,177	364	333	550	577	▲10.9
近畿	316	229	178	178	246	494	380	305	1,536	425	274	406	406	▲1.4
中国四国	321	286	195	179	289	575	335	334	1,858	385	384	529	482	▲7.4
九州	385	289	295	189	338	532	432	409	2,885	394	294	450	563	0.9

販売もち 販売金額PI 前年度比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度比
全体	3.9	0.3	▲3.8	▲4.4	▲5.6	▲12.1	▲0.4	2.8	▲4.3	3.2	▲2.6	▲7.6	▲3.4	▲3.4



(2) ブロックの動向

包装もち及びもち米ともに、最も販売金額PI値が高いのは例年どおり北海道ブロックとなっている。その理由としては、前報でも分析しているとおり、行政と北海道農業団体のもち食普及の取組みが、量販店などでの包装もちやもち米の購入を刺激していることがある。北海道の2016年度取組みにおいては「スポーツにスポットを当てた、新しいもち食習慣の拡大」のほか「コンビニエンスストアとのタイアップ」「家庭向けもち米レシピの配布」などが実施されている（ホクレン農業協同組合「北海道のもち米2016」）。

各ブロックの包装もちともち米の販売金額PI値の間には、正の相関関係がみられる。特に北海道と関東、北陸以西のブロックでは包装もちの販売ともち米の販売が強く結びついている。これは両商品とも行事性が極めて強いためと考えられる。

一方、常食であるうるち精米との間には明確な関係性はみられない。しかしながら2016年度の京浜ブロックにおいては、包装もちとうるち精米の販売金額PI値は負の関係性があるかのような推移をしている。同ブロックの前年度にはこのような推移はみられていない。同ブロックについては、来年度以降の動向を注視していきたい。



包装もち	もち米との相関	精米との相関
全体	0.95	-0.36
北海道	0.91	0.05
東北	0.55	-0.14
関東	0.93	-0.61
京浜	0.75	-0.79
北陸	0.94	0.16
東海	0.95	-0.09
近畿	0.98	0.15
中国四国	0.96	-0.37
九州	0.98	-0.14

第4．米に関する年表

この項では、2016年度の米に関する施策等のほか、社会経済の出来事などについて、主要なものを収録し、年表形式で編纂しています。

本編2ページの「(2) 米を巡る施策等の動向」と合わせてご活用ください。

年	2016年(平成28年)												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
米等に関する主な出来事	農林水産省、平成二十四年度の国内農産物における農業標準の使用状況を調査結果を公表。米は不適正使用及び農業標準の使用を超える残留はなし(八日)	農林水産省、日本産小麦の輸入を禁止していたオーストラリアに対する輸出条件に輸出が可能となったことと公表(十三日)	夏越ごはんの日(三十日)	農林水産省、利根川流域を中心に関東地方で渇水傾向が続き、ダム等水源の状況が逼迫していることから、農業用水が緊急節水対策本部を設置(十四日)	農林水産省、平成二十七年の熱帯自給率が三十九パーセントと公表。六年連続。食料自給率は微減(二日)	農林水産省、平成二十七年の熱帯自給率が三十九パーセントと公表。六年連続。食料自給率は微減(二日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)
米等の施策等に関する主な出来事	農林水産省、平成二十四年度の国内農産物における農業標準の使用状況を調査結果を公表。米は不適正使用及び農業標準の使用を超える残留はなし(八日)	農林水産省、日本産小麦の輸入を禁止していたオーストラリアに対する輸出条件に輸出が可能となったことと公表(十三日)	夏越ごはんの日(三十日)	農林水産省、利根川流域を中心に関東地方で渇水傾向が続き、ダム等水源の状況が逼迫していることから、農業用水が緊急節水対策本部を設置(十四日)	農林水産省、平成二十七年の熱帯自給率が三十九パーセントと公表。六年連続。食料自給率は微減(二日)	農林水産省、平成二十七年の熱帯自給率が三十九パーセントと公表。六年連続。食料自給率は微減(二日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)
二〇一六年産米の	全国的に高温・多雨となり、東日本以西では気温の高い状態が続いて月平均気温がかなり高く、西日本日本海側では月降水量がかなり多くなった(気象庁)	全国的に気温がかなり高く、西日本太平洋側では月降水量が多くなった一方、北日本太平洋側と東日本では少なかった。月間日照時間は、北日本ではかなり多く、東日本と西日本日本海側で多くだった(気象庁)	平均気温は東・西日本では高かった。北日本では半年並だった。降水量は北日本、西日本太平洋側ではかなり多く、西日本日本海側では多かった。東日本では半年並だった(気象庁)	7月15日現在の早期稲の作柄概況、やや不良の見込(29日)	8月15日現在の早稲地帯の作柄概況、半年並～やや良の見込。遅稲地帯の生育は遅じて半年並で推移(30日)	9月15日現在の作柄概況、全国の作況指数はやや良(103)の見込(30日)	10月15日現在の作柄概況、全国の作況指数はやや良(103)の見込。主食用米収穫量は生産数量目標を▲6.8万トン下回る749.8万トンの見込(28日)	1等米比率83.7%。前年同期比+0.9ポイント(11月末現在)	2016年度の作柄、作況指数103、主食用米収穫量749.8万トン。前年産比▲6.8万トンで確定。(2日)	1等米比率83.4%。前年同期比+0.9ポイント(1月末現在)	1等米比率83.4%。前年同期比+0.9ポイント(2月末現在)	1等米比率83.4%。前年同期比+1.0ポイント(3月末現在)	
米価等の動き	総務省小売物価コンセンサス・東京都区部(精米・税込) (対前月比%) 466円/kg (▲0.6) 相対取引価格(玄米・税込) (対前月比%) 220円/kg (▲0.3) 総務省家計調査(うるち精米・税込) (対前月比%) 353円/kg (5.7) 家庭内消費量(精米) (対前月比%) 3,351 g/人 (8.9) SBS一般米種売渡価格(玄米)(税込) ①182円/kg ③46円/kg ④64円/kg MA一般薄札価格(玄米)(税込) ⑦82円/kg ⑧66円/kg	471円/kg (1.2) 222円/kg (0.9) 342円/kg (▲3.1) 3,100 g/人 (▲7.5) ②172円/kg ⑤164円/kg ⑩60円/kg	471円/kg (0.0) 221円/kg (▲0.5) 346円/kg (1.2) 3,104 g/人 (0.1) ②61円/kg	472円/kg (0.1) 220円/kg (▲0.5) 336円/kg (▲2.9) 2,924 g/人 (▲5.8) ①68円/kg	467円/kg (▲1.1) 221円/kg (0.4) 348円/kg (3.6) 2,905 g/人 (▲0.6) ②61円/kg	478円/kg (2.5) 239円/kg (8.1) 330円/kg (▲5.2) 3,079 g/人 (6.0) ③46円/kg ④64円/kg	482円/kg (0.8) 238円/kg (▲0.2) 345円/kg (4.5) 3,012 g/人 (▲2.2) ⑤58円/kg ⑥60円/kg	474円/kg (▲1.6) 239円/kg (0.3) 343円/kg (▲0.6) 3,073 g/人 (2.0) ⑦52円/kg ⑧66円/kg	477円/kg (0.5) 239円/kg (▲0.2) 358円/kg (4.4) 2,844 g/人 (▲7.5) ②172円/kg ⑤164円/kg ⑩60円/kg	471円/kg (▲1.2) 239円/kg (0.4) 360円/kg (0.6) 2,885 g/人 (1.4) ③171円/kg ④175円/kg ⑩59円/kg	474円/kg (0.6) 239円/kg (▲0.3) 357円/kg (▲0.8) 3,123 g/人 (8.2) ⑤164円/kg ⑩60円/kg	481円/kg (1.5) 238円/kg (▲0.1) 353円/kg (▲1.1) 2,918 g/人 (▲6.6) ⑥158円/kg ⑩66円/kg ⑩64円/kg ⑩51円/kg	
主な出来事	農林水産省、平成二十四年度の国内農産物における農業標準の使用状況を調査結果を公表。米は不適正使用及び農業標準の使用を超える残留はなし(八日)	農林水産省、日本産小麦の輸入を禁止していたオーストラリアに対する輸出条件に輸出が可能となったことと公表(十三日)	夏越ごはんの日(三十日)	農林水産省、利根川流域を中心に関東地方で渇水傾向が続き、ダム等水源の状況が逼迫していることから、農業用水が緊急節水対策本部を設置(十四日)	農林水産省、平成二十七年の熱帯自給率が三十九パーセントと公表。六年連続。食料自給率は微減(二日)	農林水産省、平成二十七年の熱帯自給率が三十九パーセントと公表。六年連続。食料自給率は微減(二日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)	農林水産省、輸入米に関する調査結果を公表。SBS輸入米の調整金を巡る不透明な取引実態が明らかとなる(二十日)

注1:SBS及UMA入札価格の丸囲みは入札回を表す。 注2:ラウンドの関係で対比が合わない場合がある。

資料

1. 精米（玄米、発芽玄米、古代米、もち米を除く）の1kg 当たり平均単価の推移（円/kg・税込）

ブロック	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週	第52週
	2016/3/28～	4/4～	4/11～	4/18～	4/25～	5/2～	5/9～	5/16～	5/23～	5/30～	6/6～	6/13～	6/20～	6/27～	7/4～	7/11～	7/18～	7/25～	8/1～	8/8～	8/15～	8/22～	8/29～	9/5～	9/12～	9/19～	9/26～	10/3～	10/10～	10/17～	10/24～	10/31～	11/7～	11/14～	11/21～	11/28～	12/5～	12/12～	12/19～	12/26～	2017/1/2～	1/9～	1/16～	1/23～	1/30～	2/6～	2/13～	2/20～	2/27～	3/6～	3/13～	3/20～
全体	355	349	351	346	353	350	343	347	345	350	345	349	346	350	346	354	342	353	353	355	352	352	348	349	354	354	356	362	365	371	364	366	366	370	365	366	369	368	375	387	369	374	371	368	371	371	375	371	371	370	374	367
北海道	344	342	340	348	344	341	339	342	340	347	344	342	342	343	344	344	344	348	353	358	349	350	357	346	350	351	344	371	368	365	372	369	368	368	369	372	368	373	375	380	391	374	367	369	371	371	375	378	374	380	376	374
東北	363	374	372	371	371	368	370	369	366	365	373	358	368	366	361	377	372	367	370	378	368	380	368	346	352	365	395	407	406	422	420	406	404	410	404	396	406	394	393	419	401	398	395	387	386	385	380	384	384	389	388	398
関東	326	325	319	321	323	322	316	318	320	327	326	319	321	327	326	325	317	331	331	331	329	328	326	322	331	333	342	340	343	346	341	349	341	341	342	340	348	345	355	364	350	353	348	347	348	348	351	349	350	350	354	340
京浜	406	386	395	369	406	397	366	393	362	403	366	390	362	391	371	404	364	396	397	374	386	370	393	372	392	372	396	384	397	415	372	402	383	406	382	378	398	376	419	421	382	414	401	382	413	384	430	385	411	383	427	385
北陸	347	352	343	350	363	351	340	344	344	339	344	347	346	355	343	356	342	348	347	363	345	358	352	356	345	369	389	364	372	387	385	372	371	390	360	402	358	405	365	394	360	364	360	345	351	365	349	349	354	359	348	359
東海	355	359	355	353	352	359	355	347	360	356	357	363	354	348	356	357	351	354	358	361	350	357	357	361	364	364	377	384	381	371	372	368	387	388	380	391	386	382	388	395	397	396	397	388	387	403	385	387	386	387	394	389
近畿	358	339	353	343	355	345	349	346	346	350	346	348	361	355	342	362	337	350	349	352	354	368	340	357	344	353	346	350	361	371	373	356	368	367	359	368	366	370	362	384	365	366	365	371	363	376	370	369	362	370	367	364
中国四国	342	338	341	335	339	342	338	342	338	334	329	343	335	335	336	338	336	339	337	348	344	343	342	344	353	352	357	366	357	355	352	356	355	355	362	364	356	362	360	378	361	358	360	351	359	358	360	366	353	363	362	357
九州	354	352	361	353	358	350	351	340	355	334	346	347	347	346	346	344	349	344	349	357	353	350	324	348	355	349	321	344	341	354	351	355	361	360	358	353	361	357	361	365	368	363	360	362	365	367	365	363	363	358	357	363

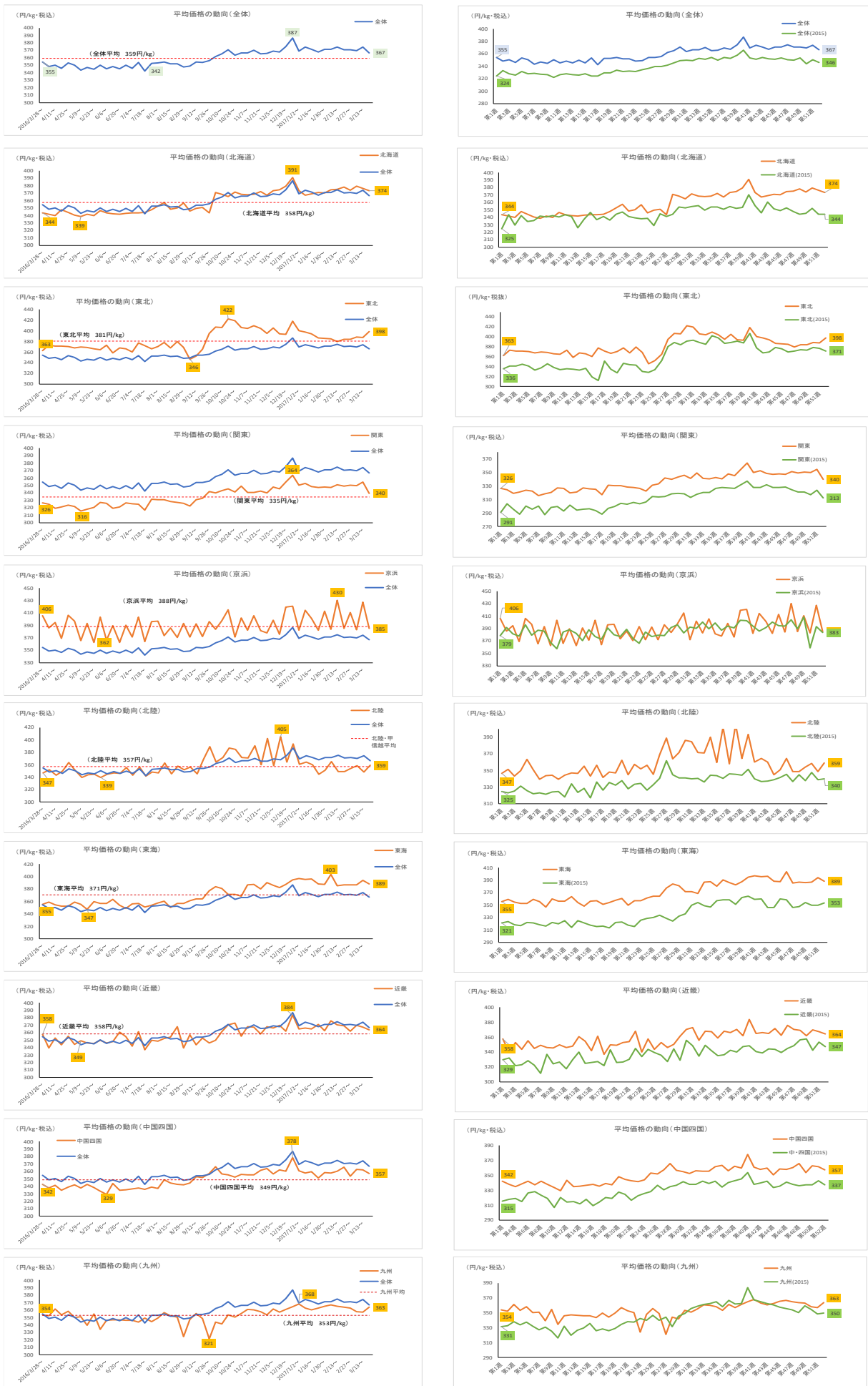
2. 慣行栽培米 5kg 袋の税抜平均価格の推移（円/5kg・税込）

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週	第52週
2016 ブロック	2016/3/28～	4/4～	4/11～	4/18～	4/25～	5/2～	5/9～	5/16～	5/23～	5/30～	6/6～	6/13～	6/20～	6/27～	7/4～	7/11～	7/18～	7/25～	8/1～	8/8～	8/15～	8/22～	8/29～	9/5～	9/12～	9/19～	9/26～	10/3～	10/10～	10/17～	10/24～	10/31～	11/7～	11/14～	11/21～	11/28～	12/5～	12/12～	12/19～	12/26～	2017/1/2～	1/9～	1/16～	1/23～	1/30～	2/6～	2/13～	2/20～	2/27～	3/6～	3/13～	3/20～
全体	1,781	1,748	1,766	1,727	1,789	1,759	1,717	1,734	1,728	1,760	1,730	1,746	1,728	1,764	1,717	1,775	1,711	1,766	1,763	1,768	1,762	1,754	1,756	1,734	1,759	1,765	1,784	1,787	1,828	1,842	1,792	1,832	1,807	1,832	1,807	1,800	1,839	1,814	1,869	1,910	1,834	1,870	1,854	1,831	1,845	1,824	1,858	1,843	1,849	1,820	1,852	1,825
北海道	1,933	1,901	1,904	1,945	1,913	1,868	1,887	1,907	1,896	1,912	1,920	1,912	1,906	1,918	1,888	1,917	1,906	1,915	1,912	1,939	1,893	1,883	1,906	1,842	1,873	1,901	1,948	1,989	1,965	1,953	1,972	1,957	1,965	1,958	1,982	1,974	2,025	2,028	2,061	2,101	1,983	1,943	1,969	1,981	1,973	1,982	1,996	2,014	1,998	2,009	1,985	1,988
東北	1,795	1,842	1,817	1,849	1,879	1,820	1,867	1,805	1,822	1,854	1,875	1,844	1,846	1,857	1,809	1,891	1,859	1,868	1,859	1,869	1,782	1,860	1,888	1,796	1,774	1,861	1,901	1,940	2,103	1,965	1,917	1,940	1,912	1,983	1,990	1,947	1,956	1,966	1,956	2,074	1,926	1,952	1,940	1,905	1,918	1,920	1,935	1,895	1,908	1,934	1,922	1,949
関東	1,641	1,626	1,606	1,608	1,633	1,630	1,568	1,593	1,607	1,647	1,631	1,590	1,596	1,655	1,624	1,630	1,574	1,685	1,658	1,663	1,644	1,639	1,640	1,620	1,663	1,663	1,723	1,688	1,724	1,751	1,716	1,763	1,718	1,719	1,728	1,694	1,748	1,742	1,786	1,841	1,757	1,783	1,768	1,736	1,738	1,732	1,768	1,744	1,771	1,743	1,783	1,696
京浜	1,905	1,826	1,873	1,759	1,926	1,894	1,754	1,868	1,737	1,926	1,757	1,858	1,749	1,856	1,767	1,911	1,737	1,902	1,878	1,784	1,839	1,781	1,874	1,778	1,856	1,781	1,885	1,842	1,898	1,984	1,793	1,924	1,834	1,929	1,835	1,811	1,893	1,812	2,016	2,016	1,841	1,993	1,920	1,851	1,970	1,848	2,029	1,858	1,964	1,838	2,020	1,842
北陸	1,993	1,916	1,987	1,905	2,155	1,974	2,025	1,911	1,976	1,889	1,986	1,901	2,000	2,028	1,972	1,962	2,015	1,925	2,002	2,052	1,947	1,980	1,981	1,990	1,963	2,082	2,268	2,118	2,101	2,141	1,996	2,066	2,101	2,070	2,031	2,084	2,037	2,095	2,103	2,261	2,079	2,002	2,057	2,053	1,974	1,948	1,984	2,003	1,980	1,918	2,026	1,964
東海	1,897	1,906	1,898	1,824	1,895	1,865	1,889	1,856	1,867	1,896	1,849	1,878	1,832	1,858	1,838	1,842	1,861	1,823	1,859	1,865	1,839	1,844	1,842	1,816	1,859	1,822	1,876	1,921	1,913	1,883	1,866	1,878	1,917	1,933	1,893	1,942	1,908	1,891	1,930	1,969	1,947	1,967	1,966	1,923	1,940	1,970	1,908	1,918	1,922	1,989	1,957	1,943
近畿	1,723	1,705	1,704	1,707	1,751	1,703	1,672	1,672	1,715	1,719	1,703	1,672	1,739	1,704	1,652	1,750	1,652	1,681	1,671	1,736	1,706	1,790	1,689	1,732	1,641	1,742	1,655	1,710	1,807	1,772	1,796	1,778	1,763	1,764	1,760	1,759	1,808	1,763	1,772	1,833	1,816	1,806	1,805	1,852	1,777	1,807	1,763	1,826	1,775	1,765	1,761	1,805
中国四国	1,710	1,695	1,753	1,695	1,735	1,738	1,727	1,707	1,704	1,687	1,682	1,720	1,711	1,697	1,676	1,696	1,722	1,691	1,698	1,752	1,763	1,723	1,730	1,715	1,755	1,776	1,788	1,837	1,817	1,780	1,773	1,788	1,801	1,793	1,804	1,818	1,781	1,787	1,773	1,838	1,782	1,777	1,779	1,754	1,768	1,767	1,805	1,813	1,751	1,787	1,796	1,848
九州	1,750	1,736	1,760	1,701	1,736	1,700	1,709	1,651	1,728	1,625	1,684	1,728	1,693	1,718	1,691	1,686	1,728	1,681	1,727	1,744	1,723	1,701	1,658	1,702	1,745	1,731	1,658	1,690	1,669	1,734	1,708	1,733	1,738	1,749	1,726	1,739	1,786	1,752	1,779	1,780	1,829	1,800	1,794	1,779	1,805	1,797	1,794	1,824	1,791	1,765	1,749	1,811

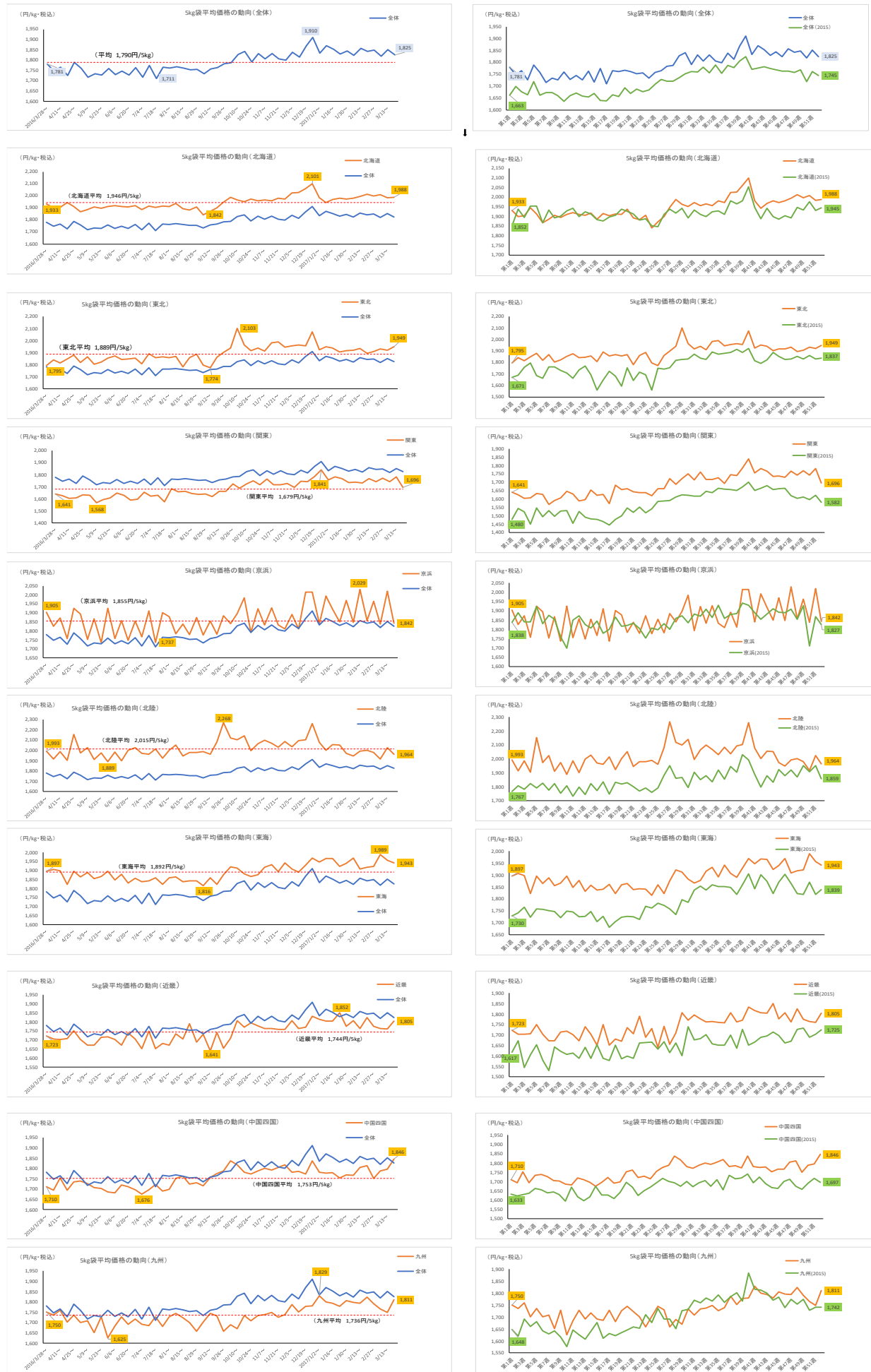
3. 精米の販売数量 PI の推移（kg/千人）

2016	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週	第52週
ブロック	2016/3/28～	4/4～	4/11～	4/18～	4/25～	5/2～	5/9～	5/16～	5/23～	5/30～	6/6～	6/13～	6/20～	6/27～	7/4～	7/11～	7/18～	7/25～	8/1～	8/8～	8/15～	8/22～	8/29～	9/5～	9/12～	9/19～	9/26～	10/3～	10/10～	10/17～	10/24～	10/31～	11/7～	11/14～	11/21～	11/28～	12/5～	12/12～	12/19～	12/26～	2017/1/2～	1/9～	1/16～	1/23～	1/30～	2/6～	2/13～	2/20～	2/27～	3/6～	3/13～	3/20～
全体	58.4	62.7	63.6	67.1	58.9	59.4	64.2	56.3	63.2	62.5	60.8	60.7	65.7	59.7	60.2	54.6	62.1	59.4	58.1	53.6	61.7	64.0	64.4	64.0	57.8	64.0	65.4	59.3	58.7	52.8	57.1	54.7	55.5	52.9	57.8	57.6	56.0	62.0	53.3	43.6	51.7	56.6	56.1	63.4	57.1	61.3	57.0	66.0	63.4	64.4	54.1	71.4
北海道	155.6	148.8	182.2	149.0	156.3	144.6	164.2	133.7	155.5	146.7	136.8	176.6	149.8	142.3	136.5	132.8	139.2	130.8	117.8	102.9	164.2	128.4	130.4	133.6	139.0	138.3	176.4	112.8	158.5	139.1	127.1	134.1	136.6	149.5	126.4	143.2	140.1	178.4	123.4	98.0	111.4	146.7	130.7	130.4	140.7	127.0	165.6	150.9	138.5	136.0	147.2	
東北	21.5	17.9	21.1	20.5	19.0	20.5	17.2	20.4	20.4	19.7	18.9	24.7	21.0	20.4	22.0	17.7	17.9	17.5	21.5	19.8	24.7	21.1	35.7	24.0	25.1	17.0	15.4	14.7	15.8	13.3	16.2	15.8	17.0	18.8	16.7	12.0	15.2	17.7	17.0	16.4	18.6	19.4	17.2	20.1	20.4	17.1	17.9					
関東	64.5	75.3	72.6	77.9	65.7	71.5	74.7	68.6	71.3	74.3	68.7	74.3	75.5	66.8	75.2	66.9	73.2	64.4	72.2	65.0	78.0	86.1	77.3	84.9	68.4	74.0	60.4	65.2	60.9	53.8	59.2	58.1	59.4	56.0	65.4	63.8	59.9	65.0	50.7	43.3	60.1	57.5	59.0	67.5	61.0	68.0	57.0	67.0	67.0	68.7	54.7	77.0
京浜	61.3	73.4	65.5	87.7	57.6	67.1	86.2	59.6	89.0	67.6	83.2	64.7	91.2	62.7	78.9	59.2	81.2	67.4	64.0	78.2	70.7	94.1	65.0	84.4	64.0	91.2	70.4	77.0	64.2	58.2	86.8	57.7	74.1	56.9	81.8	72.6	57.0	81.5	55.3	52.5	68.4	62.9	65.2	90.8	57.0	84.7	46.3	87.8	66.2	90.3	44.8	89.6
北陸	35.5	32.2	35.6	31.8	36.5	31.0	38.3	29.7	33.0	34.7	31.2	34.5	38.3	30.8	34.1	35.4	32.3	33.5	35.3	27.8	34.7	37.7	36.9	33.6	36.5	33.6	32.3	32.0	30.9	22.8	22.9	31.7	39.1	35.0	36.2	35.9	41.3	41.0	38.9	28.1	34.1	36.9	38.6	48.3	39.9	40.2	48.0	41.8	46.2	50.4	45.0	46.5
東海	65.5	57.4	71.0	77.3	66.9	55.4	58.7	68.1	68.4	59.2	60.5	54.1	73.4	72.1	52.2	57.1	63.5	72.7	57.7	58.3	70.2	72.4	63.2	59.6	66.4	69.6	62.3	44.2	63.3	66.0	75.5	66.4	51.4	58.2	64.7	55.1	59.0	60.8	63.1	49.8	46.3	51.3	56.7	69.4	59.5	51.2	63.8	75.5	62.9	63.0	56.9	71.9
近畿	56.7	66.3	60.3	69.2	58.6	68.1	57.3	57.3	58.4	69.1	57.8	59.1	53.6	60.9	57.7	53.4	62.6	61.9	60.2	58.9	61.9	54.6	68.7	55.1	62.0	62.7	63.1	67.3	56.7	54.6	53.2	64.0	57.5	53.1	61.8	61.3	58.1	57.4	61.4	51.1	57.0	65.0	60.1	60.4	67.2	62.8	62.7	64.6	69.3	64.7	63.9	72.6
中国四国	37.7	41.0	43.7	44.3	42.3	38.1	41.8	36.7	38.6	39.3	41.3	36.3	43.6	41.7	39.1	36.4	39.5	42.4	44.9	33.9	37.0	40.4	48.5	41.4	38.8	39.6	38.4	40.5	42.4	35.8	35.0	32.6	34.4	35.2	29.1	32.1	42.9	34.1	36.8	26.7	27.0	34.9	34.6	37.8	35.6	37.5	40.2	35.3	41.3	31.9	38.8	44.3
九州	63.4	64.0	67.1	58.4	62.4	56.8	57.7	53.1	54.5	69.3	55.5	64.0	63.1	64.7	57.9	51.5	62.7	60.3	56.1	44.0	50.9	44.1	77.1	63.3	54.9	60.9	93.9	65.3	62.5	56.2	52.9	52.7	48.6	51.5	45.4	55.4	62.8	60.8	55.7	42.2	52.8	61.6	59.8	56.9	61.2	60.8	62.2	74.3	70.7	67.0	61.2	84.3

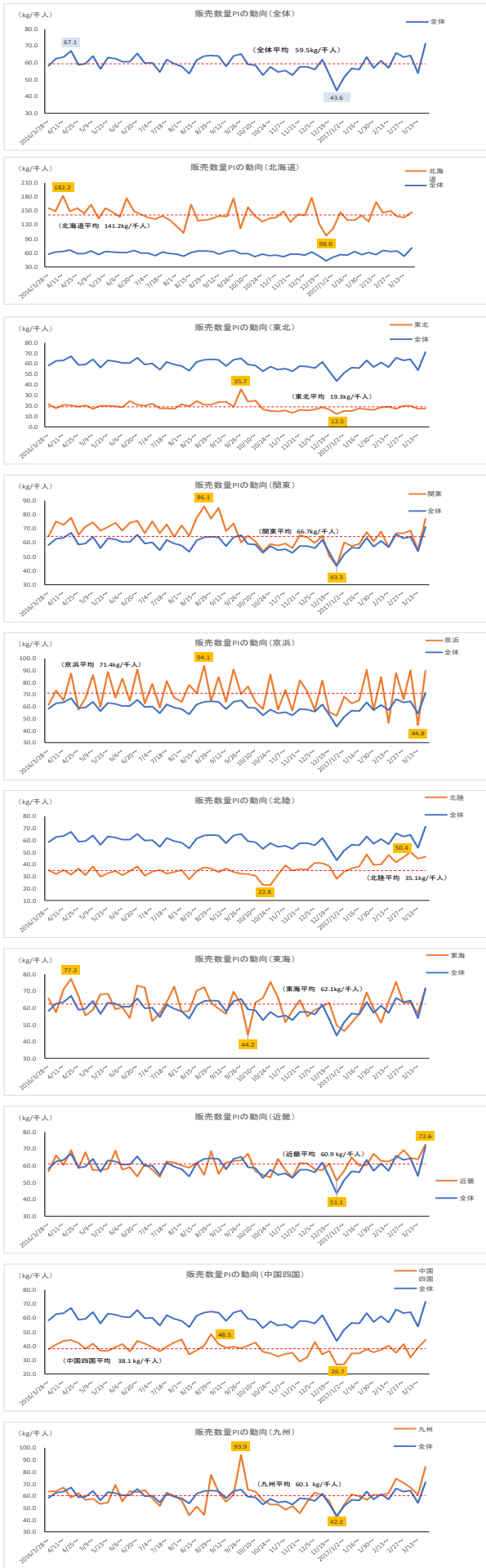
4. 精米（玄米、発芽玄米、古代米、もち米を除く）の1kg 当たり平均単価の推移（円/kg・税込）



5. 慣行栽培米 5kg 袋の税抜平均価格の推移（円/5kg・税込）



6. 精米の販売数量 PI の推移 (kg/千人)



7. 主要5銘柄の販売価格、販売数量PIの推移

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週	第52週
2016/3/28~	4/4~	4/11~	4/18~	4/25~	5/2~	5/9~	5/16~	5/23~	5/30~	6/6~	6/13~	6/20~	6/27~	7/4~	7/11~	7/18~	7/25~	8/1~	8/8~	8/15~	8/22~	8/29~	9/5~	9/12~	9/19~	9/26~	10/3~	10/10~	10/17~	10/24~	10/31~	11/7~	11/14~	11/21~	11/28~	12/5~	12/12~	12/19~	12/26~	1/2~	1/9~	1/16~	1/23~	1/30~	2/6~	2/13~	2/20~	2/27~	3/6~	3/13~	3/20~	
北海道ゆめぴりか	2,236	2,150	2,240	2,218	2,244	2,067	2,216	2,221	2,201	2,103	2,208	2,228	2,227	2,103	2,151	2,188	2,245	2,221	2,203	2,191	2,202	2,186	2,204	2,121	2,088	2,225	2,212	2,228	2,294	2,312	2,270	2,167	2,235	2,287	2,257	2,288	2,255	2,255	2,251	2,242	2,277	2,286	2,281	2,255	2,167	2,182	2,228	2,229	2,227	2,210	2,216	
秋田あきたこまち	1,780	1,845	1,783	1,841	1,715	1,789	1,838	1,874	1,825	1,867	1,888	1,882	1,885	1,817	1,845	1,866	1,872	1,711	1,841	1,679	1,645	1,712	1,589	1,681	1,819	1,718	1,777	1,844	1,742	1,799	1,789	1,789	1,789	1,789	1,815	1,785	1,845	1,744	1,845	1,815	1,737	1,882	1,787	1,885	1,794	1,880	1,733	1,854	1,707			
山形つや姫	2,083	2,083	2,084	2,047	2,105	2,133	2,085	2,201	2,218	2,238	2,240	2,243	2,215	2,241	2,233	2,207	2,205	2,223	2,229	2,219	2,258	2,261	2,281	2,121	2,174	2,138	2,215	2,189	2,206	2,206	2,221	2,243	2,260	2,225	2,263	2,283	2,216	2,412	2,281	2,285	2,285	2,289	2,240	2,246	2,284	2,278	2,283	2,242	2,256	2,283	2,281	2,287
新潟コシヒカリ	2,083	2,083	2,084	2,047	2,105	2,133	2,085	2,201	2,218	2,238	2,240	2,243	2,215	2,241	2,233	2,207	2,205	2,223	2,229	2,219	2,258	2,261	2,281	2,121	2,174	2,138	2,215	2,189	2,206	2,206	2,221	2,243	2,260	2,225	2,263	2,283	2,216	2,412	2,281	2,285	2,285	2,289	2,240	2,246	2,284	2,278	2,283	2,242	2,256	2,283	2,281	2,287
秋田あきたこまち	1,685	1,681	1,682	1,687	1,585	1,585	1,581	1,585	1,585	1,581	1,579	1,583	1,572	1,589	1,587	1,589	1,584	1,585	1,585	1,586	1,579	1,581	1,581	1,589	1,651	1,651	1,661	1,718	1,704	1,720	1,743	1,728	1,686	1,720	1,627	1,724	1,683	1,741	1,815	1,735	1,784	1,724	1,771	1,727	1,728	1,728	1,728	1,716	1,712	1,711		

	3/28~	4/4~	4/11~	4/18~	4/25~	5/2~	5/9~	5/16~	5/23~	5/30~	6/6~	6/13~	6/20~	6/27~	7/4~	7/11~	7/18~	7/25~	8/1~	8/8~	8/15~	8/22~	8/29~	9/5~	9/12~	9/19~	9/26~	10/3~	10/10~	10/17~	10/24~	10/31~	11/7~	11/14~	11/21~	11/28~	12/5~	12/12~	12/19~	12/26~	1/2~	1/9~	1/16~	1/23~	1/30~	2/6~	2/13~	2/20~	2/27~	3/6~	3/13~	3/20~
	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週		
2016/3/28~	4/4~	4/11~	4/18~	4/25~	5/2~	5/9~	5/16~	5/23~	5/30~	6/6~	6/13~	6/20~	6/27~	7/4~	7/11~	7/18~	7/25~	8/1~	8/8~	8/15~	8/22~	8/29~	9/5~	9/12~	9/19~	9/26~	10/3~	10/10~	10/17~	10/24~	10/31~	11/7~	11/14~	11/21~	11/28~	12/5~	12/12~	12/19~	12/26~	1/2~	1/9~	1/16~	1/23~	1/30~	2/6~	2/13~	2/20~	2/27~	3/6~	3/13~	3/20~	
北海道ゆめぴりか	5.5	5.8	5.8	5.9	6.5	5.8	6.5	5.8	5.5	5.5	7.6	5.5	6.0	5.4	5.8	5.6	6.5	4.5	5.6	4.4	5.5	4.8	6.0	4.2	5.8	4.0	5.0	4.8	4.3	5.0	4.1	4.7	5.2	4.3	4.3	4.6	5.9	5.1	5.6	4.7	4.8	6.6	4.8	4.2	4.3	6.3	5.2	4.7	5.7	4.9	5.1	5.6
秋田県あきたこまち	11.2	13.0	13.7	12.4	8.3	15.3	12.3	14.3	12.6	8.3	11.0	15.0	13.5	14.4	11.3	8.0	18.7	6.7	8.9	13.2	11.8	12.6	12.3	7.4	11.5	5.4	8.7	14.9	8.4	9.1	13.1	9.6	8.1	8.9	9.3	12.9	12.0	6.0	10.6	13.0	7.4	15.0	12.3	12.9	11.7	6.9	13.6	12.7	8.4	13.3		
山形県つや姫	3.0	2.4	2.4	2.5	2.8	2.2	2.7	2.3	2.2	2.1	2.0	2.5	2.8	3.4	2.6	2.8	2.7	2.4	3.7	2.5	2.9	2.9	2.9	2.7	2.8	1.9	5.7	2.8	2.0	3.5	2.5	2.1	3.0	1.8	2.5	3.4	2.0	2.7	2.6	2.4	2.6	3.2	2.6	2.6	2.4	2.7	3.6	3.4	3.0	4.1	2.3	3.3
新潟県コシヒカリ	6.3	7.5	5.8	6.9	6.5	6.3	8.6	4.5	7.3	9.0	7.7	5.7	7.6	6.4	8.4	8.0	6.4	8.4	5.2	8.3	6.8	10.4	6.6	8.9	5.7	10.2	6.5	11.5	7.2	7.0	8.4	4.7	11.1	5.1	11.5	6.4	5.7	8.1	8.9	6.8	7.0	10.5	5.8	14.4	5.2	13.5	5.8	13.6	7.2	13.9	5.3	12.4
秋田県あきたこまち	11.9	10.8	12.0	10.8	14.4	10.4	11.3	10.1	12.4	9.9	12.6	14.4	14.0	12.9	14.9	15.5	17.4	12.8	13.7	10.7	13.7	15.3	13.7	14.3	17.3	13.8	13.5	10.9	12.5	9.6	9.4	9.8	12.0	9.4	13.8	10.3	14.1	10.9	11.4	8.7	10.8	10.6	11.5	13.5	11.5	11.8	12.1	13.2	13.8	11.9	12.9	13.3

